

Baptized by Blazing Fire Book #2

燃える火によるバプテスマ 第2巻

キム・ヨン ドゥー牧師

by Pastor Yong-Doo Kim

www.DivineRevelations.info/japan

主ははっきりと言われました。

「現在の教会の霊的な活動は私が意図したことに対立しています。

牧会のリーダーたちと教会の信者たちは形式的に私を礼拝しており、単に記述された理論として私を知っているに過ぎない。燃える熱望をもって、私に会いに来なさい。」

私たちの主は悪霊たちとの霊的な戦いに従事する実際を私たちに示すことと私たちが天国、地獄、天使たちや悪鬼たちを直接見ることができるために私たちの霊的な目を開くことを希望されました。

イエス様の教会の祈りの戦士たち

○キム・ヨン ドゥー牧師 (Pastor Kim, Yong-Doo、兄弟) : 45 歳。頭の毛が減り始めて禿頭になりそう。丸顔。

○牧師夫人カン、ヒョンジャ(姉妹) : 43 歳。かつて議会関連の政府部内に就職。人に受け入れられやすい気質。

○キム、ジョセフ (Kim, Joseph、兄弟) : 16 歳。中 2。牧師志願。牛のように頑固で無鉄砲。

○キム、ジューユン (Kim, Joo-Eun、姉妹) : 14 歳。小 6 (訳注: 14 歳なら普通は中 2)。キム牧師の娘。可愛く賢い。極めて頑固、容易に諦めない気質。

○ペク、ボンニョ姉妹 (Sister Baek, Bong-Nyo) : 50 歳。不屈の精神。主も認めておられる、「だれも彼女の個性を止めさせることは不可能」な個性。

○リー、ハクスン (Lee, Haak-Sung、兄弟) : 27 歳。ペク、ボンニョ姉妹の息子。心理学的難点あり、レベル 3。考えを言葉で表現するのに制限あり、(訳注: ドモリか)。精神状態は正常。体が弱い。際だった特徴は歯。

○リー、ユーキュン (Lee, Yoo-Kyung、姉妹) : 24 歳。ペク、ボンニョ姉妹の次女。心理学的難点あり、レベル 2。話し方が多少スロー、しかし、会話は良好。専門は食べることと寝ること。

○ミーナ (Meena、姉妹) : 5 歳。ペク、ボンニョ姉妹の孫娘。大人顔負けの大食。出生届が不備で登録不十分。

執事シン、スンキュン (Deaconess-Shin, Sung-Kyung、姉妹) : 33 歳。日曜日の朝の集会にだけ出席するのが常であったが、15 日目より祈りのラリーに参加して変化した。9 歳の娘イェジ (Yae-Ji) は小児癌。

○オー、ジュンミン (Oh, Jung-Min、兄弟) : 8 歳。執事シン、スンキュン姉妹の息子。趣味はテレビ、コンピューターゲームであったが祈りのラリーに参加するようになって牧師志望へと変化。初日から異言の賜物を受けた。

16 日目

リー、ユーキュン: * 議論することで天国にあるあなたの家が崩れた。

天国で、私は尋ねました。

「イエス様、天国に私たちの家があると聞きました。私の家を見たいのですが。」

彼は私を私の家に導かれました。

私たちがしばらく旅していると、光り輝く黄金の家が見えてきました。

イエス様が言われました。

「これがあなたの家です。」

その瞬間、私はその美しさに衝撃を受けました。

御使いたちは私の家を建てるのに忙しそうにあちらこちら動き回っていました。

私が、私の家は何階建てですか、と尋ねると、彼は、5 階建てがほぼ完成している。さらにもっと階数を増やすために、もっと多くの支柱が建築中であると答えられました。

私はハーク、スン兄弟の家を見ました。彼のは 7 階が完成したばかりでした。

私が、ジョセフとジュユンの家を見たいのですがとお願いすると、「**どうしようか？何が出来るかな？**」と言ってイエス様は心配そうでした。

私はイエス様に、何か問題があるのですかと、尋ねました。

イエス様が説明して下さいました。二人とも 3 階と 4 階がほとんど完成していたのですが、彼らが言い争ったときに、二人の家が壊れてしまったのだそうです。

イエス様が教えて言われるには、人が利己的であったり、論争的であったり、悪態をついたりするなら、そういう人たちの天国の家は崩壊してしまうのだそうです。

子供にもと大人たちにも、これは本当のことです。

イエス様はジョセフとジュユンの二人には、不一致が起こっても、争ったり、相手を傷つけたりしないように言いなさいとされました。

イエス様は崩れた家をご覧になって非常に悲しい様子をしておられました。

彼は悲しみを隠すことができませんでした。

「おお、私たちはどうしようか？なんでジョセフとジュユンはよく争うのか？

ユーキュンよ、争いを止めるようにジョセフとジュユンに言ってください。

二人はお互いをからかうことから始まります。そして、遂には、ボール投げをやりながら争い、言い争いをします。この家は私の指示で天使たちが苦心して建てたのです。

これをどうやって再建しようか？」

私はよく兄のハーク、スンと争います。そして、今、私たちの言い争いには本当に注意しなければならないことが分かりました。

イエス様は翼の付いた金のガウンを着せて下さって、言われました。

「私のとても愛しいユーキュンよ、あなたはとても多くの人たちに証しをしています。だから、私はあなたをとても愛しています。」

私はすぐに応じました。

「主よ、私は明日も証しに出かけます。」

イエスは答えられました。

「本当？熱心にそれを続けなさい。あなたの家を急いで建てましょう。」

リー、ハークスン：*** 私たちの霊の世界への接触が深くなればなるほど、ますますミステリアスになる。**

祈りに入って 10 分くらいたった頃、3 匹の悪霊たちが現れました。

最初のは頭のない男でした。

ガウンをまとった女の悪霊が強い風の音をたてながら来て、鋭い爪で私を引っ掻こうとしました。

両端に頭のある巨大な蛇が現れました。この両方が先を争ってやって来ました。

私は叫びました。

「イエス様、助けてください。どうか私を助けてください！」

イエス様がすばやく来て、彼らを皆、追い出して下さいました。

私たちが祈っている間イエス様は私たちを囲んで、一人ずつ触れて下さいました。

イエス様はキム牧師の頭と彼の痛む背中に触れ、ジョセフの足とジュユンの背中に触れて下さいました。

イエス様が言われました。

「ジョセフよ、あなたの願いの一つを私に言いなさい。」

彼が答えました。

「イエス様、オー、ジョンスク兄弟が就職できて、教会に熱心に出席できるように助けてください。」

イエス様はそれに同意し、褒めて下さいました。「**ハーク、スン、今日はとても寒いけれど、**



それでも、あなたは出かけて行って福音を伝えます。あなたは私をととても幸いにしてくれました。」

イエス様が去られた後にガウンを着た女の悪霊が私に近づいて来ました。

彼女は女学生のような様子でした。

私は彼女のことは気にしないで、異言で祈り続けました。

彼女は自分の顔を強引に私の前に近づけてきて、私が祈っている間、羽で私の鼻をくすぐりました。

私は彼女に去れと命じました。

私が熱心に祈り始めてから、これまでたくさんのいろんな悪鬼たちが現れ、多くの奇妙な出来事が起こりました。

深くなればなるほど、自然界で見えない事柄に遭遇しています。

キム ヨン ドゥー: *秘密を公開することに対する罰

昨日、私たちの隣の教会の牧師と夫人が見えて、お茶を飲みながら話しました。

彼らは祈禱会に参加して欲しいと求めました。

はっきりしないことには話しを避けようとしたのですが、彼女がしきりに求めるものですから、私は失礼に思われたくなくて、最後には降参して、はい、と言ってしまいました。

私は心の中では、そうすべきで、ない、ことは分かっていました。

深刻な苦しみが私の心を満たしました。と言いますのは、イエス様は、本が出版されるまでは私たちの集会外の人には、私たちの祈禱会のことを、だれにも交わらないようにと言われていたことを覚えていたからです。

彼らは、私たちの祈りの奉仕の間に何が起きているのか、即ち悪鬼の霊たちと死闘を繰り広げていることなど知る術もなかったのです。

イエス様は、祈りの集会に加わるようにとの牧師の妻の強い願いを堅く断るよう要求されました。

私は失敗しました。そこで、心の最も深い中心部分で、私の不服従ゆえに起こるであろう事を恐れました。

日曜日の夜の祈禱会は牧師の妻の求められない出席によって奇妙な終わり方をしました。

早朝、午前2時頃、私は祈禱会の初めの部分を終わりました。そして、私は彼女を家まで送ろうと思ったのですが、彼女は何か言いたいことがあるかのように座っていました。

祈りのチームからはだれも何も明かさないことを確認していました。しかし、妻と私が結局、秘密の詳細を明かしてしまったのです。

私は、私たちが求めに応じて天国と地獄を訪問し続けていること、多くの者が霊的な視力、預言、悪鬼の霊と天の霊との識別力、異言で語ること、信仰、知恵と知識などの賜物を受けてきたことを明かしました。

また、私がこれらの出来事を書いている最中で、それを本にして出版する予定であることを明かしました。そこで、彼女が自分の教会に戻って、そのことを真剣に祈ってくれることを勧めたのでした。

今週の日曜日の夜の祈りの集会で、神は私の霊の目を開くことを計画しておられました。そこで、彼は霊的なビジョンが開かれたメンバーたちにそのことを確認しておられたのでした。

しかし、神は私が彼の秘密を守ることができなかったことを怒られました。

私の単純な考えの中で、私はいくつかの秘密を明かすことは問題ないと思ったのですが、これが大きな間違いでした。

そのために、私の霊の目を開く計画は取り止めになりました。

イエス様はとても悲しまれました。

祈りの間、ペク、ボンニョ姉妹は叫びました。

「私たちの言ったことがこんなにも大事件になるなんて？」

彼女は激しく泣きました。

私が秘密を守ることができなかったので、私は卑劣な人間になってしまい、その罪悪感に責めさいなまれました。

サムソンはどう感じたでしょうか？

彼がナジル人の秘密を明かしたとき、彼は神との関係を裏切ったのでした。

ペク、ボンニョ姉妹: *キム牧師に対する主の個人的な叱責

「私の愛しいボンニョよ、なぜあなたはそんなに泣くのですか？

あなたの教会の牧師キム ヨン ドゥーは大間違いをしましたが、あなたがなぜ泣いているのですか？」

彼は厳しい声で尋ねられました。

「キム牧師が悔い改めなければならないのです。あなたの教会で起きている事を本に記録して、それを世界に発表しなければなりません。その時まで、秘密にしておかなければならないのです。

しかし、彼はなぜ秘密を明かして私に罪を犯したのか？」

主は失望されました。

「この秘密は悪魔の本当の正体を明らかにします。だから、その途上にあっては多くの試みがあるでしょう。

あなたには泣く理由はありません。私があなたに言ったことをキム牧師に知らせなさい。」

イエス様の恐ろしい怒りが続きました。

「キム牧師が託されていた秘密を隣の牧師の妻に明かしたのです。なぜ彼がこんな罪深いことをしたのか分からない。キム牧師の違反は非常に大きいのです。しかし、あなたが泣くことはありません。」

イエス様が解説して下さいました。

「会衆が一の中で祈ることによって、あなた方みんなが経験したすべての出来事は世界に大きなショックを与えます。悪魔は自分の正体を世界中に露わにされたくないのです。そこで、彼は必死になってそれを隠そうとしています。彼は、会衆のした実体験が彼と彼の天使たちを暴露することを恐れているのです。

彼らの存在と正体に関する真実が、本の完成前に、露わにされると、悪魔の攻撃は激化して、あなた方はさらなる忍耐を強いられることとなります。祈りの不寝番に関する一部始終が完全に記録されるまで、それは封印された秘密です。別のチャンスを与えましょう。キム牧師は祈りと書くことに集中しなければなりません。

また、預言の賜物を持っている者たちはみな、他の人たちのために祈ることを後回しにしなければなりません。」

イエス様は牧師と妻の焦点合わせの欠如を厳しく叱責されます。

イエス様は、彼の御名の中で築かれた教会は、問題がどれほど大きくとも、彼らの内部で解決を見出さなければならぬと、しっかりと言われました。

「教会に問題があるとき、牧師とその妻が一つ心の中で祈らなければならない。そうすれば、間違いなく神からの答えがあります。多く者に辛抱する能力が欠けています。あっちこっちと動き回って預言の賜物のある人々を探しては自分たちのために祈って貰う。こんな人があなた方の中には大勢います。これが私を悲しませるのです。牧師の妻たちが牧師と一緒に、教会の祭壇にひざまずいて祈って支援するなら、神は彼らの祈りに答えるのです。また、祈った後にその心配をすべて神の前に委ねて、それから、待っているならば、答えられるのです。なぜなら、それが真の信仰であるからです。」

午後の礼拝の間、キム牧師がどんなに賛美を導いても、どんなに強力な説教をしても、イエス様は怒った顔つきで説教壇の横で静かに立っておられました。

キム牧師は顔から冷汗を流しながら説教をしましたが、それでイエス様の怒りが収まるようには見えませんでした。

牧師は見放されたようで衰れに見えました。

私は熱心に祈ってイエス様をお願いしましたが、彼はしかと答えられました。

「唯一の道はキム牧師が深く悔いた心をもって赦しを請い求めることです。私たちの天の父がそれをよくご覧になって決められます。」

イエス様は命じられました。

「もしあなたがこれらの秘密を公に明らかにしたなら、すべての霊の賜物は取り去られる。」

キム牧師は彼の親族や親友との接触を避けて、外の世界から自分を隔離しなければならぬと見せられました。

イエス様は牧師に本を早急に出版すべく、祈りと、主が彼に示されたことを記録することに集中するよう要求されました。

私は尋ねました。

「イエス様、隣の教会の牧師の妻が日曜午後の礼拝に祈りと話しをしに来たら、どういうことになりましょうか？」

私たちの牧師は、心が優しくしてノーと言えないのですが。」

主が激しい調子で言われました。

「私はまじない師か？あなたは私が占い師でもあるかのように、なぜしきりに私に尋ねるのか？」

牧師たちと妻たちに彼は言われました。

「祈りに集中して、私に叫び尋ね求めなさい。それから、私はあなた方に答える。なぜあなた方があっちこっちと答えを探し回るのか私には分からない！」

彼はこのことに非常に不満でした。

執事シン スンキュン:

日曜日以来、私は3日間異言で祈り続けていました。
私の体が、突然、かっとなえ上がるのを感じて、私は異言ですます力強く祈り始めました。
明るい光が私を照らして、私は告白の祈りと共に泣き出してしまいました。
これまで私が犯した罪の長い一覧表が私の心に浮かんで来る間、私の顔は涙と汗でぐしょ濡れになりました。

私には教会の執事という肩書きはあるのですが、神様を礼拝する日曜日の集会を守ったことはありませんでした。それで時には牧師にこんなひどい目に遭わせることもありました。
彼は叱ると同時に数えきれないほどの励ましの言葉もくれました。
しかし、それも一方の耳から入って、片方の耳から出て行きました。
私の肩書きはまぎれもなく『執事』であったのですが、心の中では、神との接触は少しもありませんでした。
こういう訳で私は祈りの不寝番に出席したいと思いました。そこで私は変わる決心をしたのです。

キム ヨン ドゥー: *キム牧師の悔い改め

私が霊の賜物を受け取る筈の日が延期されました。それは彼の秘密を守るべき主の命令に私が従わなかったからです。
私がこの秘密を親友に明かしてしまって、イエス様を非常に怒らせてしまいました。
人間的に言うなら、それは大したことはありませんでした。
それはだれもがする過ちですが、神の考えは私たちの考えとは全く違っています。
私たちが霊の世界に深く入って行くと、主は私たちに霊的にさらに敏感になることを求められます。
本が完成するまで、主は、私たちに外界と断絶することを要求されました。
3日間、私は昼夜にわたって悔い改めましたが、主の怒りは静まったように見えませんでした。
イエス様は私に本を書くのをストップするように命じられました。
私の娘ジューユンの霊の賜物である霊の識別力、預言など6つの霊の賜物が取り去られる可能性がありました。他のメンバーたちの賜物も取り去られる可能性がありました。私は悲しみでいっぱいになりました。これはまさに呪いでした。

私はどうしたらよいか分かりませんでした。
私は考えました。
「私はこの教会をどう牧したらよからうか？神様から縁を切られるだろうか？」
こんな恥ずかしい思いが私の心を占めていました。
しかし、私は身を引いて諦めることはできませんでした。
私は泣き叫びつつ、考えつくあらゆる祈りの方法で悔い改め、嘆願し、大声で叫んで祈りました。
夕べの説教をしたとき、私の目が腫れ上がって、とても正面を見ることができませんでした。
いつもなら4時間5時間のメッセージでも容易なのですが、その夜は説教ができませんでした。
電気が消されて、私たちは歌いつつ、みな自分の罪の悔い改めの祈りをしました。

「主よ、どうか、今一度チャンスを下さい！」と私は祈りました。
私に当てはまるあらゆる聖書の節を用いて、徹底的に懇願しました。
祈りのチームのメンバーひとりひとりが私と一緒に泣き熱心に祈りました。
おお、私の会衆に私は涙ながら触れられて感謝しました！
主はこれら若くて貧しい会衆のメンバーたちを憐れんで下さいました。

主が私たちの感動的な祈りを聞かれたとき、彼は私にもう一度チャンスを与えることを決定されました。
この時点で、主は、本が完成するまで、すべてを秘密にしなければならないと、明確に述べられました。
グループ以外の誰一人これらのことを知るべきではありませんでした。
会衆にでさえ、あらゆる詳細が発表されることを主は望まれず、ただ、限られた部分においてだけ共有して欲しかったのです。
対象のあらゆる会話は牧師によって承認され、最小限の情報の共有に制限されました。

* 私の手の変化

私が両手を高く上げて 30 分祈っていると、私の腕と手の両方がある種のパターンで動き始めました。初めに、右の手のひらが外側に動きました。その後、続けて異言で祈っていると、左の手のひらが同じように外側に動きました。

その動きは非常に遅かったです。

私はこれが霊的な覚醒の一步かなと思いました。1 時間は続きませんでした。

他のメンバーは、短く祈った後でも、イエス様はご自身を彼らに現されました。そして、悪鬼の霊たちを見ることができました。

私は牧師ですが、彼は非常に根気強く私を対処して下さいました。

平均 20-30 分で私の変化の兆候が見え、この調子で、私は意欲を失わないよう切望しました。

私は 2~3 時間祈りました。そして、いつものように、両手が動くのを繰り返しました。突然、電気ショックが容赦なく私の頭の辺りを通過したように感じました。

私は、「これだ」と思いました。「これは霊の世界への入り口だ。」

私は好奇心に満たされました。

電流が私の体中を絶え間なく振動させている間、私はもっと強力に祈りました。

* 悪鬼の霊の群による攻撃

いつものように、私は両手を高く上げたままで、およそ 4 時間祈っていました。

突然、形のない体がやって来て、私の手首をひねりました。

それが鋭いもので私の首を刺しました。そして、私の背中の右側が鋭いナイフで切られているような感じがしました。

私はとても酷い痛みで叫びました。それから、私の体が麻痺して私は前方に倒れました。

私はもがきましたが無駄なことでした。

悪鬼たちが私を馬鹿にして言いました。「お前の霊的な視力が覚醒したと？

もしその覚醒を受けるなら、俺たちはどうやって生き残ればいいのか？

お前たちがあまりに祈るものだから、今でさえ、俺たちは厳しく罰せられておるのだ！

お前が絶えず賛美をし、説教と祈りをするもんだから、俺たちにはチャンスがないのだ。

お前は全くどうしようもない馬鹿どもを取り上げて、彼らが霊の賜物を受け取るのを手助けした。

お前は自分がしたことの代価を払うのだ！」

その時、悪鬼の霊たちの群が私の体の中に入ってきました。

私は息が苦しくて喘ぎました。

悪鬼たちは私の体の中荒々しく動き回って、痛みが一層ひどくなりました。

私はすべての動きを止めようとしたのですが、痛みは続きました。

全身がじびれました。

すべての筋肉、神経、関節、骨が激しく痛みました。

あまりの痛さに、私は叫ぶこともできませんでした。

私が叫びを出せば出すほど、傷は脈打つように痛みました。

「主よ！ 濟みません。私を救ってください。どうか、私を救ってください！ この痛みには耐えられません」

私は泣きました。

祈っている会衆がびっくりして、すぐに、講壇のところまで走って来ました。

みんなとても怖くなりました。

彼らはなす術を知りません。ただどうしようもなく私を見ていました。

私は絶叫しました。「お前たち汚らしい悪鬼どもめ、イエスの御名によって私から去れ！」

悪鬼たちは出て行きません。

多くの場合、私がイエス様の御名を発すると悪鬼たちはすぐに逃げて行ったのですが、今回は私がどんなに叫んでも少しも動きませんでした。

彼らは私を窒息させようとしてきました。私の首から背中に下って、斧で絶えず私に斬りつけ、両腕をめった打ちにしました。遂に、彼らは私が話すことができないようにしました。

私はかろうじて呼吸できました。しかし、それで私の体全体に大きな苦痛と痛みを引き起こしました。

私は力を振り絞って、ここにみんなの命が掛かっているかの如く、全会衆が私を取り囲んで、祈ってくれるように頼みました。

「主よ！主よ！私を救ってください！」

この言葉が無意識のうちに出て来ました。

* 会衆による強力な祈り

メンバーが大声で叫びました。

私は、霊的な視力という霊の賜物を用いて、どんな悪鬼どもが中にいるか急いで見てくれとメンバーに頼みましたが、彼らは一致して何も見えないと言いました。

この間、私の右手首はねじられて、しびれていました。

私は会衆に、イエス様を呼んで悪鬼たちを特定するのを助けて下さるようお願いしてくれと頼みました。

私たちは長い間祈りました。そして、霊的な視力の賜物がある者たちは見たものを語り始めました。

(エペソ1: 18-19)「**18 あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていただいている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、**

19 また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るように、と祈っている。」

私の中にいる悪鬼の群れは地獄の頭目から特別の指令を受けてイエス様の教会に来たのでした。

彼らが見えないことと他の様々な形に変身する能力は強力な祈りなしには見ることは困難でした。

イエス様は言われました。「私の貴い子羊たちよ、あなた方の牧師のための熱心な祈りと叫びゆえに、あなた方に悪鬼たちを見ることを許します。」

およそ 30 匹の悪鬼たちがいました。そして、彼らは長い間、攻撃する機会を覗(うかが)っていました。

近所の牧師と彼の妻が訪問して来たとき、悪鬼たちは機会を見て、こっそりと彼らの後ろにまわりました。

地獄の悪鬼たちの王は直接命令を発していたのでした。彼は叫んで言いました。「イエス様の教会に入るときには、他の教会よりかなり慎重でなければならん。

霊的な視力の賜物を持つ多くのメンバーがいるし、俺の二流の追随者の多くが、その正体がばれて追い払われてしまっている。さあ、お前たちはキム牧師を攻撃する最適の時間を待たねばならん。

あの馬鹿がこれらの問題の源なのだ。あいつをノックダウンできれば、他の事はどれも簡単に解決する。

行け、さあ実行だ。」

私たちの隣の教会の牧師の妻には悪鬼たちを自分に引き寄せるとか、自分が悪鬼たちに付いて行くというような信仰はありません。

私の知るところでは、彼女は熱心に祈る祈りの戦士です。

悪鬼たちは懸命になって自分たちの正体を隠そうとして、使用する乗り物を探しました。

牧師の妻が訪問したいと思っているのを知って、彼らは彼女に付いて行って、人間がしつこく同情を求めるとを餌に利用したのです。

「イエス様、悪鬼たちの正体を私たちに示してください。イエス様、彼らを私たちに明らかにしてください。」私たちはみんな祈りました。

その時、だれかが叫びました。「ワー！彼らが見える。私に見える！」

丸いレンティル(レンズ豆)・パンケーキのような 15 匹ばかりの悪鬼たちがいました。

彼らはたくさんの目を持っていて、私の体に巻き付いていました。

他は様々な形と大きさをした悪鬼たちです。

巨大なムカデ、イモムシ、暗い影の悪鬼、女の悪鬼、ライオンがいました。

私は率直に会衆にお願いしました。私をぐるっと取り囲んで、私の体の痛い部分に手を当てて異言で熱心に祈って欲しい。

彼らは私の体に触れて祈り始めました。

(訳注:レンティル・パンケーキの作り方

だれかが叫びました。

「牧師、悪鬼たちが変化しています！彼らは散るんじゃなくて結合してます！」

私は答えました。

「本当？ じゃ、力と権威によって祈って、彼らを取り除いてくれ！」

会衆は声を一つにして叫びました。

「イエス様の御名によって我々の牧師の体から出て行け！地獄に戻れ！」

ジュユンが叫びました。

「邪悪な悪鬼たちがみんな腕を組んであなたの中に居座っているわ。とんでもない！どうしましょう？」

私は大声で叫びました。

「祈り続けてくれ。君たちが止めると、大変なことになる。」

彼らはみな懸命に祈りました。

(エペソ書 6: 10-11)、「**最後に言う。主にあつて、その偉大な力によって、強くなりなさい。**

悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。」

ボンニョ姉妹が叫び声を上げました。

「牧師、悪鬼がまた変化したわ。」

私は尋ねました。

「今度は何だい？」

彼女が答えました。

「ひどい！今度は、黒いムカデに変化したわ。それが2つの鋭い牙であなたの首に噛み付いている。また刺(とげ)で、あなたの体の中を突いたわ。どうしましょう？ムカデがあなたの背中を刺してます！」

すぐに、私は耐え難い痛みを感じ、跳び上がりました。それで苦痛がさらに酷くなりました。

そして、私は前方に倒れました。



私は再び、「主よ、そして、私を助けてください！」と大声で叫びました。

私がどんなに大声で呼んでも、彼は来られませんでした。

私は会衆を促して言いました。

「急いで、イエス様を呼んでくれ。」

彼らは一斉に大声で叫びました。

「主よ、どこにおられますか？どうぞ、急いで来て、私たちの牧師を助けてください！」

彼らが懇願した後で、イエス様が私たちの前に現れました。

イエス様が来て下さるのが時間がかかったと感じたので、私は怒っていました。

私は考えました。

「時間がかかったけれど、イエス様はいったいどこに行っておられたのか？」

イエス様は答えられました。

「**私があなただけを助けてあげる。心配は要らない。」**

彼らの霊的な視力によって、イエス様が私の体の中に入られたのを見て、彼が悪鬼たちを追いかけておられると言いました。

悪鬼たちは再結合して輪ゴムのようなものに変身しました。

イエス様が彼らを引っ張り出されました。

イエス様が彼らを一方に引っ張り出すと、彼らは反対側に張り付いて出て来ないで体を伸ばしました。

ねばねばした悪鬼たちを引っ張り出すには多くの時間が必要でした。

イエス様がわざわざ時間をかけられたのは、私たちの信仰を訓練するためであったと思います。

(ヤコブ 4:7)「**そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。」**

聖書には、イエス様が話された時、悪鬼たちは恐怖で震えて彼に降伏しました。
イエス様が時間をかけておられたことには理由があったに違いありません。
イエス様は私たちの会衆の回復力をテストしたいと思われて、私たちが結束して悪鬼たちを追い出す努力をする経験をさせておられたのです。
祈りのラリーは真夜中に始まって翌朝の午前7時まで続きました。
私の体にはまだひどい痛みがありましたが、会衆は祈りを続けました。

会衆が私を囲んで祈っていると、私の胃がごろごろと鳴ってガスが溜まりました。
私の体は痛み、胃も痛くてもう耐えることができませんでした。
私からは会衆を苦しめる非常に不快な臭いがしました。
私はとても恥ずかしい思いをしました。
私の中にあった何か腐ったものが出て来ているようでした。

「我慢してください。」と、だれかが言いました。
それで、みんなが大笑いしました。
私は言いました。「笑う場合じゃないよ。神様に祈り続けてくれ。」
彼らは礼儀正しく祈りに戻りました。
「ジューン、主はまだ私から悪鬼どもを引っこ抜いておられるのか？」
私は尋ねました。「急いで見てくれ。」
すぐに、3人のメンバーが、イエス様が悪鬼たちを1匹ずつ掴んで、彼らを縛り上げておられると報告しました。
残り2匹の悪鬼が簡単に諦めなかったそうです。
イエス様は、最終的に私を苦しませていたすべての悪鬼たちを捕らえて縛ってしまわれました。
彼は彼らを火の穴に投げ込むと約束されました。

その後、イエス様は言われました。
「**ワー！ イエス様の教会の『小さな子羊たち』が侮れない者たちとなってきたぞ！ 彼が悪鬼たちと戦っている時に、あなた方がキム牧師のために叫び、祈り、そして、あなた方が心配し、祈り、彼と一緒にいたので、私は本当に感動した。もう少しばかりし続けなさい。**
私がキム牧師の霊的視力の賜物を与えます。そうすれば彼は天国と地獄の詳細を見ることが出来るようになります。彼は、次に、これらの光景を本に記録して世界にそれらを交わります。
多くの失われた魂たちがこの本を読んで、私に立ち帰るでしょう。」

私は家に帰って休もうと横になったとき、噛んだり引っ掻き傷のため耐え難いほどでした。
それが耐え難い痛みなので、私が呼吸するか、横になっただけで私は叫び声を上げました。
私の妻、ジョセフ、ジューンが懸命に祈り始めました。

ジューンが祈っていると、イエス様が言われるのが聞こえました。
「**邪悪な悪鬼たちが去る時には静かに去ることはしませんでした。噛み傷と引っ掻き傷の後遺症を残して行くから、あなたはその後何日も苦しむことになる。あなたの妻が癒しの賜物を受けているから、彼女に手を置いて祈って貰いなさい。」**
私の妻がすぐに私の傷に手を置いてくれましたが、すぐには治りませんでした。
私は痛みで転がりながら主にお願いしました。
「主よ、私の妻は癒しの賜物を持っているのに、なんで私はまだ痛みを苦しんでいるのですか？」
彼女の癒しのパワーは弱い、しかし、次第に良くなる、と主は説明して下さいました。
私は我慢できず、待ってもおれずに、近くの医者に駆け込みましたが、痛みはとても酷くてその治療を止めました。
妻は言いました。

「結婚して 20 年になるけど、あなたがそんなに苦痛と痛みで苦しむのを見るのは初めてよ。」

ペク、ボンニョ姉妹: *天国にある私たちの家

私が牧師のために祈っている間、主は天国の牧師の家を私に見せて下さいました。

(ヨハネ14: 2-3)「2 わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。

3 そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」

キム牧師の家は 360~370 階建て、奥さんの家は 270~280 階建てでした。

ジョセフの家は 4 階建て、そして、5 階がほとんど完成していました。

ジュユンの家は 12 階建てで、13 階が工事中でした。

私は尋ねました。

「主よ、ジョセフとジュユンの家は一度に 1 階ずつですが、牧師と奥さんの家は一度に 10 階ずつ建っています。なぜですか？」

「牧師は説教を準備して会衆を祝福するだけでなく、あなたのために熱心に祈っています。

牧師の祈りはあなたの祈りと比べて遙かに強力です。

彼の会衆のための牧師の奉仕者としての働きが彼の家が速く建築されるのを可能にしているのです。

また、牧師の妻カン、ヒュンジャ姉妹は夜昼、会衆のために食事を準備します。

その上、1 週間、彼女は毎日あなたの家族に食べさせたり、着せたりしています。

天国での彼女の報酬は大きいのです。ジュユンには叫んだり、議論好きな傾向があります。

小さなことで彼女はいらいらします。彼女は横柄になるかもしれないので、彼女をへりくだらせておきなさい。

ジョセフが非常に控えめなので、彼はしばしば怒るのが見られます。

私が彼を見ても、彼の表情は友好的ではありません。だから、彼にはそこが変わって欲しいのです。

あなたの牧師が説教でジョセフは改善が必要だと言うと、彼はその提案に不快感を示します。

私は、ジョセフに信仰を用いてこれらの建設的批判を受け入れて、従順になって欲しいと思います。そうすれば、彼の家が建ちます。」

ハーク、スンの家は 10 階建てでしたが、11 階用の支持柱が既にできていました。ユークンの家は 7 階建てでした。

イエス様は私に言われました。牧師と彼の妻が私たちの教会の秘密をばらしてしまったので、牧師の家の 50 階が、妻の家の 30 階が壊れました。

私が夜のサービスに行ったとき、キム牧師は弱々しく見えました。彼はしばらくの間、祈り、泣き続けていたのでしょう。

彼の目は腫れぼったくなくなり、よく見えるようになるためにもがいていました。

私は主に懇願しました。

「主よ、私たちの牧師が今日は悪鬼たちから非常に多くの苦痛を受けて苦しみました。彼に強さをお与えください。」

イエス様が来られて私を優しく慰めて下さいました。

「だれでも慰めてくれる多くの家族の者がいます。しかし、私の最愛のペク、ボンニョよ、あなたには誰もいないし、何もありません。私があなただけを慰めてあげます。」

彼は続けて言われました。

「あなたは他の何よりも優って私を愛しています。だから、私はあなたをとっても評価しているのです！」

少し経ってから、2 人の美しい天使が天から下って来ました。

彼らは背が高くとてもハンサムでした。

そのひとりには私の知っている大天使ミカエルでした。もう一人は自己紹介をして言いました。

「ペク、ボンニョ姉妹、私はガブリエルです。神の御前に立っております。主が、私にあなたをエスコートするようにと命令を受けましたので私は来ました。」

私は答えました。

「まあ、どうも、ありがとうございます。」

彼らは私を空中に引き上げ始めました。
突然、悪鬼の霊たちの大きなグループが現れて私たちを封鎖しました。

悪鬼たちの顔は極めて多彩でした。
龍の頭、大蛇たち、様々な動物の霊たちが見えましたが、既に彼らは私たちを攻撃する準備ができていました。
彼らは他の悪鬼の勢力とも一緒になって、すぐ、彼らの力は大きく成長しましたが、ガブリエルとミカエルは脅されるとは少しも思っていないませんでした。
むしろ、彼らは穏やかに見えました。
彼らが手を上げると、悪鬼たちは急に見えなくなりました。
(黙示録12: 7-9)「7 さて、天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、8 勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。
9 この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。」

悪鬼たちが姿を消した後、私たちは天国に到着しました。そして、離れたまま立って、イエス様が私に挨拶をされました。彼が叫んで言われました。
「私の愛しいペク、ボンニョよ、あなたを愛しているよ。」
イエス様と私は雲に乗って天国中を旅行してまわりました。
天国にはたくさんの山があります。すべて金です。
私が天国の空を見たとき、私は家に帰るという考えが私の思いから消えてしまいました。

リー、ハークスン: * イエス様がキム牧師と一緒に叫ばれる

私たちは午後4時から7時まで福音伝道に行きました。
その後、私は祈るために教会に向かいました。
私たちの牧師がひざまずいて手を高く上げて泣いて祈っていました。
牧師の横にイエス様が立っておられるのが見えました。
イエス様はいばらの冠をかぶり、私たちの牧師をじっと見つめながら泣いておられました。
イエス様の頭からはひどく血が流れ出していました。そして、その血が彼のガウンに滴り落ちていました。
彼は血でびしょ濡れでした。
イエス様はキム牧師を抱き締めながら泣き続けられました。
祭壇のライトは消えていましたが、講壇の近くはイエス様から出る明るい光で輝いていました。
背後には、『三本の釘(The Three Nails)』というキリストの苦しみの歌がずっと演奏されていました。

その夜、後で、イエス様が私に言われました。
「**天気がどんなに寒くても、ひざまずいて、軽い衣服で手を真っ直ぐに上に上げて祈るのが最高だよ。あなたが寒いなら、私が火を送ってあげる。だから、心配は要らないよ。ごわごわした衣服だと、祈っている間に、寝てしまうだろう。分かったかい？」**

キム、ジューン: * 一つ心で悔い改める

異言で祈っていると、恐ろしい3つの頭を持つ龍が私に跳びかかって来ました。
私を怖がらせるために、それが前後に動き回りましたが、
「イエス・キリストの御名によって、この汚らしい悪鬼め、私から逃げて行け！私から離れ去れ！」
と言って追い払いました。



私は異言で祈るのを再開しました。

イエス様が私の前に現れました。特別に静かでした。

一言も言わずに、彼は私の前に立たれて、長い間すすり泣きしておられました。

私はたくさんの質問をしましたが、彼はただ涙を流されるだけでした。

今日、夕べの礼拝のときに牧師が涙を流して告白しました。

「私が主にとっても多くの痛みを引き起こしたので、私は深く苦しんでいます。主よ、私はあなたに大きな罪を犯しました。」

私たちはみな、一つになって歌い、悔い改めをすることに集中しました。

イエス様、牧師、私たち、みんなが一緒に泣きました。

(1ヨハネ5:4)「**なぜなら、すべて神から生れた者は、世に勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。**」

18 日目

(1ペテロ5: 6-10)「**6 だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。**

7 神はあなたがたをかえりみているので下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのようになり、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。9 この悪魔にむかい、信仰にかたく立って、抵抗しなさい。あなたがたのよく知っているとおりに、全世界にいるあなたがたの兄弟たちも、同じような苦しみの数々に会っているのである。

10 あなたがたをキリストにある永遠の栄光に招き入れて下さったあふるる恵みの神は、しばらくの苦しみの後、あなたがたをいやし、強め、力づけ、不動のものとして下さるであろう。」

リー、ハークスン: *物理的に悪鬼たちを攻撃する！

晩の説教で牧師が私たちに言いました。

「悪鬼たちが現れたら恐れてはいけません。大胆に面と向かって戦いなさい！

汚らしい悪鬼たちは何でもない。だから、彼らを恐れることはありません。

霊の領域にさらに深く入って行って大胆に祈るなら、[悪鬼たちの形での]反対があります。

そうなったなら、それを捕まえてばらばらに引き裂いてやりなさい。破壊してやりなさい！」

私は思いました。「私たちがどうしたら、あの恐ろしい悪鬼たちに対して、そんなことができるだろうか？彼は大げさ言ってるんじゃないか。」

しかし、牧師は堅い信念でそれを繰り返しました。

「私たちにこれはできる。私たちは攻撃を受け、多くの嫌がらせに対処してきました。今こそ、我々が彼らに対して反撃に出る番です。」

そして、物理的に彼らを攻撃する方法を、彼は見える形で、私たちに教えてくれました。

「本当に悪鬼たちを捕まえることができるのだろうか？」私は考えました。

今まで、私たちはイエス様の名前を武器として用いることができました。しかし、今や、我々が肉体的に悪鬼どもと格闘することができると言われたのです！

後で、私が異言で祈っていると、2匹の悪鬼(訳注: 以前出会ったことがある)が戻って来ました。

一匹は筋肉隆々の悪鬼で、もう片方は複数の顔を持った悪鬼でした。

それはクジャク羽を持っていて、以前の時と同様、羽の柔らかい先の方を使って、私の鼻の穴をくすぐりました。

私は夕拝で牧師が語った説教を覚えていました。「**そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。**」(ヤコブ 4:7)

私は自分の肉体の手を伸ばして、悪鬼から羽を取る真似をしました。

私は思いました。

「うーん、どうしてこうなるの？その羽が、今、私の手の中にあるのです！」

これは奇跡でした。

私は羽の鋭く尖った先で悪鬼を続けざまに小突いてやりました。
その悪鬼が「痛い！」と叫んだのです。
私はすぐに攻撃して無慈悲にもそれを突き刺してやりました。
それが「痛い！」と叫んで跳ね上がったたり、落っこちたりしました。
「助けてくれ！」
緑色の液体が傷口から流れ出しました。
その血液に違いありません。
もう片方の悪鬼がそれを見て非常に驚き、恐れをなして逃げて行きました。

キム牧師は、悪鬼が彼の体に残して行った傷の痛みを耐えながら、祈り続けました。
イエス様が彼に近づいてご自分の手で傷にずっと触れておられました。
イエス様が私のところに来て言われました。
**「ハーク、スンよ、困難でも腕を落としてはいけない。
手を高く上げた祈りの方がずっとパワーがあるのだよ。」**

キム、ジューン:

今日は変な格好の悪鬼たちがもの凄くたくさんいました。そして、彼らが私の前にしょっちゅう現れました。
私は大声で叫びました。
「イエスの御名によって、私から去れ。」
彼らはいなくなりました。
私は祈りを再開しました。
突然、本当に強そうな男の悪鬼が私に向かって、ぶつぶる言いながら、歩いて来ました。
「ヘイ、祈るのを止めろ。お前のような小さな子供には祈り過ぎだ。」
私は叫びました。
「ヘイ、この汚らしい悪魔め！イエスの御名によって、私から去れ！」
悪魔は消え去りました。

私が祈り続けていると、きれいな女性の姿をした悪鬼がやって来ました。
この悪鬼がとても優しくて美しかったので、私にはそれが邪悪な悪鬼とは想像できませんでした。
(2 コリント 11:14-15)「**14**しかし、**驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから。**
15だから、たといサタンの手下どもが、義の奉仕者のように擬装したとしても、不思議ではない。彼らの最期は、そのしわざに合ったものとなる。」
彼女の話し方も洗練されていました。
彼女が言いました。
「祈らないでください。あなたはなぜ祈ってらっしゃるの？」
私が彼女を無視すると、彼女が怒りだしました。
「ヘイ、あんた、なぜ祈っているんだね？あんたが祈る時に、何か特別なものが見えないかい？」
彼女がそう言う前から、大声を出しました。
「祈りを止めろ！」
「イエスの御名によって、私から去れ」と私が大声で言うと、すぐに彼女の頭のとっぺんから股先までが半分に裂けていきました。
私はうんざりして肩をすくめて言いました。
「汚らしい！」
彼女の体が二つに分かれると、中から凶悪な悪鬼が現れました。
外観と中味があまりにも違っていたので、私は飲み込めないでいました。
その後、赤いバンダナをかぶった、小さな無垢の男の子の姿をした悪鬼が現れました。
彼は目を使ってたくさんの奇術をする能力を持っていました。
私はイエス様の御名によって、それを追い出そうとしましたが、この悪鬼は抵抗して、簡単には動きませんでした。
私は歯を食いしばって祈り続けました。

すると、悪鬼は消えていなくなりました。

*赤々と燃える火の中でバプテスマされる。

いかにたくさんのタイプの悪鬼がいるかわかりました。彼らが他のメンバーを苦しめているのを目撃しました。彼らは絶えず行ったり来たりして、混乱を巻き起こそうとして忙しそうに動き回っていました。私が祈っている間、キム牧師の調子はどうだろうと思いました。彼の方を見ましたが、彼が見える代わりに、彼のいる場所に赤々と燃える火のボールが見えました。驚いて、目を開けて確かめました。牧師はいつものように席に座って祈っているのが見えました。再び目を閉じると、赤々と燃えている大きな火のボールが見えました。悪鬼たちは彼を攻撃できないまま牧師の横に立っていたのですが、彼らは会衆を攻撃しようと動き出しました。

突然、長い髪の女の悪鬼が現れて、ドラキュラのような牙で私の左腕に噛み付きました。彼女を押し除けようとしたのですが、できません。私は痛みがひどくて頭がまともに働きませんでした。そのとき、別の悪鬼が私を攻撃して来ました。私は叫びました。「主よ、主よ、助けてください。どうぞ、私を助けてください！」私は牧師の奥さんの近くに移動して、手を高く上げて祈り続けました。およそ 100 匹の悪鬼が私の祈りを掻き乱そうとしてやって来ました。私は反撃しました。「お前たち汚らわしい悪鬼どもめ、なぜそんな生き方をするのか？なぜ私たちを苦しめるのか？」鋭い牙を持ったのが私に向かって突進して来ました。「お前たちを地獄に送ってやりたいのさ。」私は応じました。「何ですって？地獄？笑わせるじゃないの！ヘイ、お前たち汚らわしい悪鬼ども、私から去れ。イエスの御名によって、私から去れ。」その瞬間、みんな逃げて行きました。分かりました。私が天国を訪問したいと思うなら、私は邪悪な悪鬼の勢力と懸命に戦う必要があるのです。

*牧師の義務を放棄した牧師たち

私は長い間祈り続けていると、イエス様が現れて私をニックネームで呼ばれました。「セサミ(胡麻)よ！私の愛しいセサミよ、あなたは悪霊たちを追い出すのがとても上手です！」私は答えました。「イエス様、私の父があなたに尋ねたがっていたことを思い出しました。牧師を止めて世の仕事に戻った牧師たちがいます。この牧師はどうなりますか？」イエス様はしぶしぶ答えられました。「それを説明するには、あなたは若すぎますが(訳注: 14 歳)、でも、よく聞きなさい。そして、私が言ったことを正確にお父さんに伝えなさい。」彼は続けて言われました。「牧師であることを諦(あきら)めた牧師たちは続けるのが困難だから止めてしまったのですが、彼らは私の天の父に厳しく裁かれます。天の父が彼らを叱責して、『あなたは、なぜ牧師であることを止めたのか？私があなたに牧師としての義務を果たす能力を与えたのに、なぜ、あなたは私の許可を受けずに止めることを決心したのか？あなたは大きな間違いをした。あなたは悔い改めなければならない！』それから、彼の地上での人生の残りを、彼の歩みは私と共にであって、従順でなければなりません。また、主の日を聖なる日として守らないで、自分の好きなことをしている人たちがいます。再び生まれていない人たちは自分のビジネスを始めます。」

日曜日には、如何なるものであれ、商売上の取引はあるべきではありません。
多くの者が口では救いを宣言しますが、彼らは非常に間違っています。
彼らが本当に救われているのなら、生活でそれを示すべきです！
天におられる私たちの父は、あなた方みんなに鋭い目を向けておられます。
御父にとって、すべての魂は非常に貴重なのです。だから、自分が選ぶことによって魂たちが地獄に行くと、そのことが彼を非常に深く傷つけることになるのです。彼は多くの涙を流されます！」

*牧師を追い出す人たち

「ねたみと党派心のあるところには、混乱とあらゆる忌むべき行為とがある。」(ヤコブ 3:16)

次に、私は尋ねました。
「イエス様、時々テレビで、教会が牧師と争っているのを見ることがありますが、これには私は本当に困ってしまいます。なぜ会衆が自分たちの牧師と争うのですか？そんな場合、あなたはどちら側につかれますか？」
イエス様が言われました。
「あなたはとても若いけれど、いつも、あなたはそんな質問をします。」
私は答えました。
「主よ、私は牧師の娘です。牧師が教会から追い出されるのを見ると悲しくなります！」
イエス様は答えられました。
「牧師はよく失敗します。これが問題です。さらに重大なことは会衆が憤慨して、牧師を追い出すことです。彼らは重大な罪を犯したのです。人が過去に罪を犯しても、彼らが心から悔い改めて、神に従うなら、まだ天国に入ることができます。彼らはそのような罪を決して繰り返してはいけません！」

(ピリピ 2:3)「何事も党派心や虚栄からするのではなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。」

私は質問を続けました。
「イエス様、私たちはみな一緒に祈っていますが、あなたはなぜペク姉妹と彼女の家族だけを天国と地獄に連れて行かれるのですか？私たちは牧師の家族なんでしょう？
私の家族の方がもっと信仰があるように見えるのですが、主よ、なぜあなたはハーク、スン兄弟やユーキュン姉妹やボンニョ姉妹だけを愛されるんですか？」
イエス様は私の質問に大笑いされて答えられました。
「私の親愛なるジューユンよ、それは真実ではありませんよ。彼らはとても困難な生活を送っています。ハークスン、ユーキュンはどちらも心理的な難点があるでしょう？
また、ペク、ボンニョ姉妹も背中での痛みで寝たきりです。
食べ物はずずかで、小さな地下の部屋に住んでいるけれど、彼らは絶えず祈っています！
彼らはいつ通りに蹴り出されるか分からない。しかし、それでも彼らは素直に神に祈っています。
自分たちの制限にもかかわらず、彼らはそれでも熱心に祈るので、私は彼らを特別に愛しているのです！
彼らは私の保護を必要としているのです！
あなたにはとても多くの親族がいますが、彼らは父親もいないし夫さえいないのです。
だから、彼らは私の特別の配慮が必要なのです！」

(出エジプト記 33:19)「主は言われた、「わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう。わたしは恵もうとする者を恵み、あわれもうとする者をあわれむ」。」

「イエス様、私たちの牧師はこれらの霊的な経験をすべて本に記録しています。本が完成したら、あなたはすべての霊の賜物を取り戻してしまわれるのですか？」
主は言われました。
「ジューユンよ、預言の賜物は非常に大切な賜物です。それは簡単に与えられないし、取り去られもしません。預言の賜物は天におられるあなたの父がそう命じられる時には取り去られますが、そうでなければ、そのままあります。」

リー、ユーキュン: ***悪鬼たちがあなたの信仰を恐れる。**

今日、私は、いろんな形に変身するととも怖い悪鬼から攻撃されました。その後、私はイエス様に言いました。「イエス様、悪鬼たちはとても怖いです！」彼は答えられました。

「ユーキュンよ、あなたは悪鬼を打ち負かすことができますよ。悪鬼たちはあなたの信仰を恐れています。だから、心配は要りません。あなたを守るために、天使たちがいつもここにいます。」

ペク、ボンニョ姉妹: ***キム牧師を攻撃した 形のない悪鬼の正体**

私は異言で強力に祈っていましたが、何も見えませんでした。真っ暗でした。さらに深く霊の領域に入ろうと思って、もっと大きな声を出して祈りました。すると、たくさんの丸い物体がぐるぐる回転しているのに気が付きました。彼らは私たちの牧師にひどい攻撃を仕掛けた同じタイプの悪鬼かもしれないと思いました。私は彼らに借りを返してやりたいと思って、徹底的に集中しました。彼らは私を掻き乱そうと私の周りで回転しました。私はイエス様に強烈に祈りました。すると、イエス様が言われました。「**注意深く見てご覧。**」彼らはレンティル・パンケーキのようでした。彼らの内の 20 匹くらいが機会を狙って、教会の上方でぐるぐる回転していました。イエス様は言われました。

「昨日、キム牧師の腕をかじったりひねったりしたのはこの哀れな悪鬼たちです。私が彼らをみんな取り出して、地獄の火の穴に投げ込んだのですが、もう戻って来て、私の僕たちを攻撃しようとしています。ボンニョ、あなたは特に慎重にしなければね！」

私は悪鬼の王が秘密命令を与えたと知らされました。「イエス様の教会のメンバーで霊的な視力を与えられている『ペク、ボンニョ』という者がいるが、彼女は俺たちが何者であるかを識別できるのだ。その女に攻撃を集中しろ！」もし、主がこの悪鬼たちのことを明らかにして下さらなかつたなら、霊的な視力の賜物があっても彼らを見破るのは難しかったでしょう。

私がさらに深く祈るなら、これら無形の悪霊を見ることができると、主が言われました。私は異言で強烈に祈り、火に満たされ、叫びました。すると突然、悪鬼たちの正体が明らかにされて、彼らは消え去りました。すると、天から天使たちが下って来ました。

***大天使ミカエルとガブリエル**

2 人の素晴らしい天使たちが私を天国までエスコートして下さることになりました。ミカエルとガブリエルでした。

彼らは他のどんな天使とも比較できません。「私たちの最愛のイエス様が、ペク、ボンニョ姉妹をエスコートするようにとの命令を受けましたので、私たちは個人的に参りました。」

主が私のような取るに足らない者を特別扱いして下さるとは、私は本当に恐縮してしまいました。

私はどう答えたらよいか分かりませんでした。

私はとても興奮を抑えることができませんでした。私ははやる思いで彼らに従いました。

天国で、イエス様はエデンの園を見せて下さいました。私はあっと驚いてしまいました。

話の中で、イエス様は言われました。

「ボンニョよ、昨日のキム牧師の中にいた悪鬼を追い出すのは難しかったよ。あなたは疲れてしまったでしょう。牧師の中にいた悪鬼どもは張り付いて離れようとしなないダニのようなものでした。

これらの厄介者は自分の正体を偽って、輪ゴムのように伸びたり縮んだりして、自分たちの体を変身させるのです。ミーティングの後で、キム牧師は痛む体を引きずりながら、シン スンキュン姉妹を家まで送りました。これら若い子羊たちは自分たちの牧師を守ろうとする勇気があります。

これを見ると私は深く感動して、すぐに彼らと一緒にいくことに決めました。」

彼は続けられました。「キム牧師の内側に最後まで張り付いていた悪鬼は、できるだけ長い間、彼を苦しめようと決めていたのです。それを引っ張り出すために力を用いなければなりませんでした。

残念ながら、あなたの教会には、若い子羊たちの中では、地獄を見ることができる者はあなただけです。

あなたにとって困難であることは知っていますが、あなたがもっと忍耐強くあって欲しいのです。

たった今、あなたの牧師キム・ヨン ドゥーはそれを書いて記録として保存しなければなりません。

あなたが見た地獄は全体ではなくほんの一部にすぎません。

私たちの天の父の願いはこの働きによって多くの魂が救われることです。

あなたを続けて地獄に連れて行くのは辛いことです。あなたの心が傷つくことも分かっています。

これから先、あなたに少しだけ見せますから、注意深く見て、あなたが見たことを正確にキム牧師に報告しなさい。」

私は言いました。

「イエス様、あなたがそう仰るなら、お願いですから、私の母と弟に会わせないでください。彼らに会った時の苦痛に、私は耐えることができません。」

イエス様は答えられました。

「それは不可能です。あなたが見たくないものを見なければならぬのです。あなたが真実を証言できるためです。」

彼が話し終わられるとすぐに、主は私の手を取って私を地獄へと導かれました。

*地獄に戻る。

地獄の中は恐るべし。

あらゆる悲惨が閉じ込められている場所にいることは私たちの思いではとても想像できるものではありません。

ただ苦しみと呻(うめ)きと叫びだけが存在する呪われた場所です。

主と私は細い道にいました。

両側には計り知れない苦痛にさいなまれた魂たちがいました。

私たちは道の両側が深い深淵になった場所に来ました。

イエス様が注意を促されました。「**注意しなさい!**」道から一瞬でも目を離すと下に落ちるのです。

深淵の両側には空と同じくらいの高さまで積み重なった頭蓋骨が見えました。



頭蓋骨は死んではいませんでした。ゆっくり動いて、叫び声を出しています。

それが私の耳を突き抜けました。

或るものが滑って下に落ちると、頭蓋骨がごちゃごちゃに混乱しました。

彼らは互いに押しあいへしあいしながら一番上まではい上がろうとしました。

彼らは不平を言って叫びました。「おお、俺は窒息しそうだ! この私生児野郎、動きやがれ! お前、動く気はあるのか?」

私は尋ねました。

「お願いします、気分が悪くなります。腐った臭いが一面にあります。

私はここから出たいのですが、いったいどうやってこんなにたくさんの頭蓋骨があるのですか?

彼らはどんな人間だったのですか?」

イエス様はここには多くの異なったタイプの人々がいると言われました。

「ここには盗みをしている間に誤って火事を出して、その火事で死んだ強盗がいます。ホテルで眠っている間に火事にあつて死んだ者たち、男性を唆(そそのか)して火事で死んだ者たち、体を使って働けるのに、働かないで物乞いをした者たち、外出中におぼれた者たち、自分の両親を殺害した者たち、ハイキングをしていて事故で死んだ者たち、その他ありとあらゆる身分の人々がいます。」

とてもたくさんの頭蓋骨があつて、とても数えることはできませんでした。

ある所から、だれかが言うのが聞こえました。

「お前たち私生児め、ここで混雑し過ぎだ。ここは息苦しい場所だ、俺は死にそうだぜ！」

下の方の骸骨が言っていました。

「トップの私生児野郎、俺を踏み潰す気か！俺を踏み潰すのは止めろ！」

下の方の頭蓋骨にはたくさんの刺し傷がありました。

私たちがさらに歩いて行くと、腐った死体の臭いが強くなってきました。

「主よ、その臭気は何ですか？腐れかけの肉の臭いです。」

主が答えられました。

「はい、その通りです。注意深く見てご覧！」

私は腐食しかかった体から出てきた液体が見えました。

それで全体が海のようになっていました。

「主よ、頭蓋骨も骨もここにはありません。ここには体は一体も見えませんが、なぜ臭気はこんなにひどいのですか？」

イエス様が言われました。

「骨と体が腐ってしまったのです。」

*サボテンのような植物

私たちが進んで行くと、広くて平坦な不毛の土地に来ました。

そこには巨大なサボテンのような植物がありましたが、それには目に見える刺(とげ)はありませんでした。

その前に小さな虫が群れをなしていました。そして、その植物の上で何かが動いていました。

イエス様は近づいて見るように言われたので、植物の方に歩いて行くと、無数の裸体と一緒に弟が見えました。

彼らがみんな絡み合って、サボテンに張り付けられていました。

そのだれもが小さな虫に覆われていました。その虫が彼らの肉を食べていました。人々はその痛みで叫び声を上げました。

痛みでみんなが悲鳴を上げている中に、私ははっきり弟の声を聞くことができました。

「姉さん！私の親愛なるボンニョ姉さん、なんでまた、ここにいるの？痛っ！これがたまられないんだ。もの凄く痛いよ！」

あらゆる種類の虫が彼らの肉を噛み、裂き、体の中に穴を掘ると、みんなが痛くて叫び声を上げました。

たくさんの虫が彼らを覆っているので、私は1インチの皮膚さえ見ることができませんでした。

*ウジ虫のいっぱいいる穴の中にいた私の家族

私が左の方を見ると、無数の人々がすし詰めにした巨大な穴が見えました。

彼らはみんな裸でウジ虫に覆われていました。

肉とウジ虫を見分けるのが困難でした。

(マルコ 9:48)「**地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。**」

私はまたもや気が遠くなりそうになりました。

お母さんが見えました。そして、彼女の目を見ました。

彼女はこの穴に投げ込まれるのを待っていました。

私の母さんが叫びました。

「私の娘、ボンニョよ、私はあなたが元気がないと聞いていたけど、なぜあなたはまたここに来たの？」

そして、彼女は泣き出しました。

「お母さん、私は地獄に来たくはないの、だけど、主が続けて私をここに連れて来られるの。私に何ができるの？」

私のお母さんは懇願し始めました。

「主よ、あなたはなぜ私が地獄で苦しんでいるのを、私の娘に見せなされるのですか。彼女がとても傷つくのは分かっておられるじゃないですか？」

私たちは一緒に泣きました。

「お母さん、あなたがとっても苦しんでいるのが分かっているけど、お母さんを助けることは何もできないの。本当にごめんなさい！」私は言いました。

私のお母さんは懇願しました。

「お願い、ボンニョ、地獄に決して戻って来ないで。私は死んで、苦しむために、ここに連れて来られたけど、あなたは最後まで主に従い続けなさいといけないよ。私のように、ここで終わっては駄目。必ず天国に行きなさい。」

私はイエス様に助けて下さいとお願いしましたが、彼は何もできませんでした。

私がお母さんと大声で叫んだとき、邪悪な悪鬼たちが無慈悲にも私の母を穴に投げ込みました。

ウジ虫がすぐに集まって来て、彼女の脚を這い上がり、彼女の肉と骨の中に食い込みました。

彼女は、他の人々がしているように、苦痛で気も狂わんばかりに叫んで跳び回りました。

彼女の悲鳴はすぐにみんなの悲鳴によってもみ消されました。

右手の方からは、私の弟が苦しんでいるのが聞こえてきました。

彼が大声で叫びました。

「姉さん、虫たちが僕の生きている体を食ってる。ああ、痛くてたまらん！姉さん、お願い、イエス様に頼んで、今すぐ僕を助けて！」

虫が弟を刺すと、毒が全身にまわって、彼は黒くなってしまいました。

私の弟は自殺しましたが、そんな行為に対する刑罰がこんな恐ろしいことであるとは、私は全く知りませんでした。

私はイエス様に嘆願しましたが、彼は再び、**遅過ぎる**、と言われました。

私は天の父に大声で叫びさえたのですが、彼も、**ノー**、と言われました。

すぐに、私の弟の体は黒い骸骨だけになっていましたが、彼はまだ叫び声を上げていました。

「姉さん、急いでここを離れなさい。決してここに戻っちゃいけないよ。わかった？」

主がここにいる数人の人たちのことを話されました。

「ここにいるのは、2人、3人の女性と生活していた男性、パートナーを切り換えて乱交した者たち、自殺した者たち、教会に出席していて不倫した者たち、山で死んだ者たち、犬に殺された者たち、その他多くの死んだ者たちがいます。」

イエス様と一緒に先へ進んで行きました。非常に大きな鎌のような大きくて恐ろしいものが見えました。

巨大な悪鬼が鎌を手を持って、人々をぶつ切りする準備をしていました。

イエス様が言われました。

「あの悪鬼は地獄で10番目に大きな悪鬼です。」

それにはたくさんの頭があって、体のあちこちから生え出ていました。それが並んでいる人々を切り始めました。彼らの恐ろしい悲鳴が地獄の空気を通して響き渡りました。

意地の悪い悪鬼たちが他の人たちに拷問を加えるのを楽しんでいました。

彼らが私たちの牧師の父親を細かく切り始めました。

彼が叫びました。

「痛い！お願いします。私を助けてください。すみません。どうか、止めてください！私を赦してください！」

恐ろしいことでした。

地球上の人々でしたら、気が遠くなるか死ぬでしょうが、地獄では死ぬことも気が遠くなることもありません。身の毛もよだつような叫びがあるだけです。

そこでは、すべての感覚が生きています。

牧師の父親が叫びました。

「悲しいことだ。私は病気で死んだ。そして、私が死んだら、すべては気楽に行けると思った。働く必要はなし、安心して休息できると思った。しかし、事実は私の予想した通りではなかった！」

彼は苦々しく頭を横に振りました。

悪鬼が彼の脚をぶつ切りした後で叫びました。

「さあ、今度はお前の胴体を始めるか？」

悪鬼は彼をもっと小さな断片に切り刻み続けました。

それは恐るべき光景でした。詳細はすべてはつきりしていました。

夢ではありませんでした。

その悪鬼はイエス様と私が見ているのを知っていましたが、私たちを無視して、悪辣な仕事をし続けました。

悪鬼は残っている彼の頭を手で半分に割って、油の沸騰している大きなフライパンの中に投げ入れました。

牧師の父親から始まって他の多くの人々がフライパンの中に投げ込まれ、苦しさに叫び声を上げました。

フライにされた彼らの肉や目がみんな溶けてしまいました。

残っているのはあちこちに散らばっている骨だけでした。

苦悩の叫び声だけは変わりませんでした。

悪鬼たちはパーティーでもあるかのように、くすくす笑いながら、興奮して走り回っていました。

「もう一度、俺たちはたらふく食うことが出来るぞ。食べるものが非常に多い。

今日は非常に多くの新人どもが地獄に来たので今日は良い日であった。

だから、我々はパーティーを開いて、彼らをフライにしているのだ。」と、彼らは言いました。

フライパンの中にいる人たちがわめいて言いました。

「ヘイ、意地悪の私生児たち！俺をここから連れ出してくれ。お前は俺を生きたまま焼くのか！今、俺を出してくれ！」

一匹の悪鬼が大きな平べったいしゃもじを持ってフライパンに近付き、うるさいなあと言いたげに人々を、私たちが調理をする時のように、掻き混ぜて蓋をしました。

するとすぐに、ポップコーンがはじけるように叫び声が聞こえてきました。

「ヘイ、意地悪な私生児野郎！何も見えねーじゃねーか。熱い！俺はここで死にそうだ！」

彼らはまた、私が二度と繰り返せないような呪い言(ごと)を言いました。

その後、イエス様はロトの2人の娘たち(創世記 19: 31-38)が燃える穴にいる場所に私を連れて行かれました。そこで彼女らは必死に叫んでいました。

イエス様が非常に悲しみ酷い痛みに苦しまれました。彼はすぐにそこから去ることに決められました。

主が言われました。

「ボンニョよ、私の心はこの2人の娘たちのことでとても痛みます。また、あなたの家族が地獄にいるのを見てあなたの心が痛むのが分かります。しかし、あなたが見たものについて冷静に考えて欲しいのです。」

イエス様は私を地獄に連れて来られる度毎に、彼の心も非常に痛んだけれども、それを私には隠しておられたことを交わられました。

イエス様は言われました。

「さあ、地獄を出しましょう。」

彼は私を教会に戻して下さいました。

19 日目

(ヘブル 10: 35-39)「だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである。神様の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。「もうしばらくすれば、きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない。わが義人は、信仰によって生きる。もし信仰を捨てるなら、わたしのたましいはこれを喜ばない」。しかしわたしたちは、信仰を捨てて滅びる者ではなく、信仰に立って、いのちを得る者である。」

シン スンキュン:* 執事シン スンキュンが霊のダンスを踊ったこと。

私が異言で祈っていると、私の体が燃える火の玉のように感じました。

外は零下 10 度でしたが、私たちはすべての暖房を消しました。

教会の中は寒かったです。

しかし、私たちの上に聖霊がおられて、主が私たちの体を赤々と燃える火に変えて下さったので、ひどい寒さに禍されることはありませんでした。

私たちは厚い冬の衣服を脱がなければならず、軽い半袖の服を着ていただけでした。

私は祈りの炎によって打たれました。それはちょうど輝く太陽の光が照らしているようでした。

私たちはまるで熱い太陽の下にいるかのように、汗でびしょ濡れになりました。

普通ですと、震えていたでしょう。祈りの不寝番をするなど、とてもできないことでした。

私は自分の祈りがどんどん深くなって行くのを感じました。

およそ 1 時間後に、私の手がひとりでに動き始めました。

運動はいろいろ異なっていて、非常に滑らかでした。

それまでは、私は牧師夫人とペク、ボンニョ姉妹の霊の踊りを見ることができたのですが、私もこれと同じ賜物を戴くことを切に願ってきました。

私は懇願しました。

「主よ、私が霊の踊りを踊れるように助けてください！ 私はこの霊の賜物にあこがれています。主よ、私は心からそれを求めます。この霊の踊りが一体全体何なのか、私が経験するのを助けてください。」

私のクリスチャンの人生で、私は霊に満たされた経験など一度もありませんでした。

私はとても罪深く、主のみ前でいつも恥ずかしい思いをしていました。

最近、私は日曜日の礼拝よりは、平日の祈りの不寝番の間に聖霊のパワーを経験していました。

日曜日の礼拝は 2 時間の間だけ賛美、祈り、説教、報告などをもって神に捧げるだけです。

私はさらなる霊的な必要を感じました。

リー、ユーキュン: * 私たちの神様の御座の前で入る。

(黙示録 4: 2-4)「すると、たちまち、わたしは御霊に感じた。見よ、御座が天に設けられており、その御座にいますかたがあった。その座にいますかたは、碧玉や赤めのうのように見え、また、御座のまわりには、緑玉のように見えるにじが現れていた。また、御座のまわりには二十四の座があって、二十四人の長老が白い衣を身にまとい、頭に金の冠をかぶって、それらの座についていた。」

私の祈りが始まるとすぐに、3 つの角を持つ悪鬼が現れました。

私は、「悪鬼め、イエスの御名によって、消え去れ！」と叫びました。

すると、それはいなくなりました。

私は叫びました。

「父よ、あなたが恋しいです！」

イエス様が来て呼ばれました。

「私の愛しいユーキュンよ、あなたが御父を呼び求めましたか？」

私は、「はい」と大胆に答えました。

主は尋ねられました。

「あなたは御父を大声で呼びたいですか？」

私は、「はい、とても呼びたいです。」と答えました。

そこで、彼は言われました。

「大声で呼びなさい！」

私は止めどなく叫びました。

「父よ！ 父よ！ 父よ！ 父よ！ ……」

イエス様は私を天に連れて行かれました。

私は雲に乗って天国を飛び回るのが大好きです。イエス様に賛美の歌を歌いながら、海岸で跳び跳ねるのです。

イエス様は私に尋ねて言われました。

「ユーキュンよ、私が昨日あなたにした約束を覚えていますか？ 思い出せますか？」

私は答えました。

「はい、イエス様。あなたは、御父を私に示すと約束して下さいました。」

イエス様はご自分の約束を忠実に守って、彼の御父に会うために私を連れて行って下さいました。

私たちの父は私たちが想像するよりも大きな方です。天国の空の頂上に届き、太陽より明るく輝いておられます。

彼は途方もなく大きな御座に座っておられました。

私は喜びに満たされて、神様の前で賛美を歌いました。

私は「我が魂よ、主を祝福せよ」を歌いました。御父は私が歌うのを聞いておられました。

彼は喜んで踊られました。彼が動かれる時はいつでも、計り知れないカラフルな光線が彼から流れ出しました。

御父の前には、山よりも大きな本があって、彼はそれを見ておられました。

神様の巨大な手が伸びて来て、そっと私の頭をなでました。

彼の手がどれほど大きいかわかりませんが説明はできません。

神様の体の上の部分は雲のような霧で覆われていました。

イエス様は賛美の歌を続けるように求められたので歌いました。

神様は私の歌を喜んで下さり、一緒に手拍子を鳴らし、私の両手を取って、前後にスイングされました。

私はとってもハッピーでした。私は手を大きく振り回しました。

イエス様は私に注意されました。

「私たちの御父の前では、制御しきれないほどスイングしてはいけませんよ！」

彼は、私に腕を高く上げて、丁寧に頭を下げるようにと教えられました。

その後で、イエス様は私を教会に戻して下さいました。

リー、ハークスン: * あなたの手で悪鬼たちを打ち倒しなさい！

私たちの牧師は前の悪鬼たちの攻撃によるひどい痛みはまだ苦しんでいました。

彼は、私たちは今夜、私たちの手で悪鬼たちを捕らえることができると言って、彼らに報復する準備をするように私たちに求めました。

私たちは一斉に「アーメン！」と叫びました。

祈禱会の時間だったので、私は異言で熱心に祈りました。

イエス様が静かに近付いて来られました。

彼は牧師の奥さんの前に座って、長い間、彼女の祈りを聞いておられました。

それから、牧師の近くに移られて、彼と話しをされました。

「キム牧師、どこが痛みますか？」

牧師は、悪鬼たちが噛み付いたり引っ掻いたりした辺りを指し示しました。

イエス様は牧師の首や背中を絶えずさすることに集中されました。

イエス様が去られた後も、私は異言で祈り続けました。

すぐ、5匹の悪鬼の霊たちが攻めて来ました。

私は牧師の取っ組み合いの格闘についてのメッセージを思い出しました。

私はそれをしかと確信して、両手を伸ばし泳ぐ真似をしました。私の体が温かくなってきました。

両手を広げると、私は何かを捕らえていました。

私が霊の目で見ると、それは白いガウンを着た女性の悪鬼でした。

彼女の脚を私はしっかり掴んでいました。彼女は無力でした。

(マルコ 3:15) **「また悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。」**

私は彼女をヘリコプタープロペラのようにくるくると回しました。

これは奇跡的なことでした。

彼女を回転させてから、隅の方に投げ飛ばしました。

ドシンと音がして彼女の首が折れました。彼女は叫びました。「痛い！お前は私を殺すつもりか。」

私は牧師のメッセージを思い出しました。
「悪鬼たちを見たら、情け容赦なく潰しなさい！彼らの目をえぐり出して、それを踏みつけよ！」
彼らがやみくもに私に襲いかかってきたので、私はこぶしで彼らを打って蹴飛ばしてやりました。
彼らが悲鳴を上げました。
「なんてこった！ああ！たすけてくれ！」
彼らは逃げて行きました。
驚くべき事でした。
私はもう恐れません。
悪鬼たちが大勢で攻撃して来ても、私は彼らと戦う用意ができています。

私は他の悪鬼を回転させて、遠くに投げ飛ばしてやりました。
昨日ジューンが言っていた悪鬼が白い目を回転させながら私に近づいて来ました。
私はその悪鬼が近づくのを待ちました。
それが私の祈りを妨害しようとした時に、すぐ私は無慈悲にもその目をえぐり出して、その悪鬼を床に打ち据えました。
目が失ったので、それは床を這いずり回りました。
「たまん！俺の目が！どこだ、俺の目は？見つけるのを助けてくれ。」
結局、目は見つかりましたが、それを元に戻そうとしても、たくさんのゴミが付いていました。
兎に角、曲がりなりにそれらを入れて逃げて行きました。

破れたアンダーシャツを着た男の悪鬼が、まるで私からサインを覗(うかが)うかのよう、ゆっくりと近づいて来ました。
私は、こ奴をボーリングのボールのように転がしてやろうと考えました。
それが十分近づいたとき、私は手を伸ばして、人差し指と中指を両目に、親指を鼻の穴に突っ込みました。
それをボーリングのボールのように投げると、うまく行って、それは滑って行って消え去りました。

もう一度、長い髪をしてガウンを着た悪鬼が現れました。
私は寒気を感じました。彼女が目と唇から出血していたからです。
私はそれを追いかけて行って掴んで、顔をびしゃっと叩いてやりました。
私は大勝利だと感じました！
私はそいつに言いました。
「ここに来るのを止めろ！お前たち悪鬼が来るとうるさい！」
何度も打ち叩いていると、それが金切り声を上げて逃走しました。
これは驚くべきことでした。
悪鬼たちをびしゃっと叩くことは実に楽しいことでした！

私は異言の祈りを再開しました。すると、金属の仮面を着けた頑強な男の悪鬼が近づいて来ました。
片目だけがマスクを通して見えました。そして、その目はウジ虫でいっぱいでした。
それに触れなくなかったので、私は叫びました。
「イエスの御名によって、私から去れ！」
しかし、それは抵抗して、体をねじらせながら踊り始めました。
それが踊りながら消え去っては現れ、現れては消え去りました。
今度それが現れた時、私はそれを掴んで、ぐるぐる回しました。
それから、その悪鬼を教会の後壁に投げ付けました。すると、それが悲鳴を上げて消え去りました。
その瞬間、イエス様が来られて、私を拍手喝采して下さいました。
「私の愛しいハーク、スンよ、遂にあなたは悪鬼たちを苦しめる標準が上がりましたね。私はあなたを誇りに思うよ。非常に誇りにね。」

説教の間、時々、私たちの牧師の頭に天使が一種の油を注いでいるのを私は目撃しました。すると、彼の説教は、ますます強気に響き渡りました。
説教が確信している悪鬼たちの正体に関するものであったときには、その悪鬼たちは秘かに片隅で隠れて恐ろしそうに震えていました。

キム、ジューン:

私が『グロリー、グロリー、ハレルヤ』を歌っていると、私の体が燃え上がりました。部屋は凍り付くほど寒かったのですが、私は気が狂ったように汗をかいていました。ハーク、スンが戦って、自分の目を入れ間違えたあの同じ悪鬼が現れて不平を言いました。「なんてこった、あの私生児野郎のハーク、スンにしてやられた。」私はそれに応じました。「それは素晴らしい！それを聞いて、とてもうれしいわ。」それが泣き始めました。「止めてくれ！お願いだから、止めてくれ。」私は叫びました。「この汚らしい悪鬼め、イエスの御名によって、私から逃げて行け！」それは逃げて行きました。

何かが私の服をぐいぐいと引っ張り始めましたが、何も見えませんでした。また、私の髪を強く引っ張ったり、脇をつついたりするのを感じました。私は奇妙な物が転がっているのに気が付きました。私はその悪鬼に言いました。「怒るわよ。」すると、それが答えました。「本当？いいぞ、怒れ、怒れ。俺はお前を地獄に連れて行きたいのだ。お前はなぜそんなに祈るのだ。小害虫が？祈るのを止めろ。お前は祈って何か食べ物が得られるのか？なぜ祈る？」私はすばやく応じました。「ヘイ、私が祈るとき、奇跡が起こるんだ。そして、私は報いを積むのさ。この悪鬼め、私から去れ！」すぐ、それは回転しながら去って行きました。

その後、2つの頭のある巨大な蛇にはびっくりしました。私は怖くて震え上がりました。アナコンダよりも大きく、それが私に向かって突進して来ました。私は叫びました。「イエス様、私を助けてください！このものすごい蛇を消し去ってください！」イエス様がすぐ来て下さり蛇を掴みました。彼はそれをとても速く回転させてから、遠くに投げ飛ばしました。私はイエス様に感謝しました。そして、イエス様が言われました。「私の愛しいセサミ(胡麻)よ、あなたが私の名前を呼ぶ時には、いつも私はここにいて、あなたを助けてあげるから、心配は要らないよ。あなたがしなければならないことは、熱心に祈ることだよ。」

*あなたを天国に導くことのできる祈り

今日、私は、2人の美しい天使がゆっくり下っているのを見ました。彼らは人間よりはるかに背が高く、彼らはうやうやしく「こんにちは、ジューン姉妹」と言いました。彼らの手には翼が背にある美しい明るく輝く衣がありました。「ジューン姉妹、この衣はとても美しいでしょう、いかがですか？」私は答えました。「今、それを着てみたいわ。」彼らは優しくそれを私に着せてくれました。天使たちは私の両側に立って私の腕を保ちました。私は強さに満たされて、天国に向かって高く舞い上がりました。



私たちはすぐに大気を出ました。そして、地球が遠くになりました。
私たちは天の川の星たちの点在する場所まで飛んで行きました。
それは壮大で美しかったです。
私の両腕は私の脇に休んでいましたが、私の衣にある翼がはためこうとしているのに気が付きました。
これ以上、先へ行くことができませんでした。
「私は天国に行きたいのだけど、何かあったのかな？」と私は思いました。
天使たちが私に説明しました。「その理由はあなたが一生懸命に祈らなかったからです。それで、私たちはこれ以上遠くに行くことは出来ません。」
私は失望していました。それから、私たちは地球に後戻りしました。

宇宙から見ると地球はとても美しく見えたのですが、それがこんなに小さい惑星であったとは信じることはできませんでした。
今日は機会を逃がした思いでいっぱいでしたが、私は祈りについての重要な学課を学びました。
祈りによって天国まではるばる旅行するためには、私はすべての力をそれ(祈り)に注がなければなりません。

ペク、ポンニヨ姉妹: *イエス様と一緒に散歩をしたこと。

私が祈っていると、イエス様が地獄訪問へと私を連れて行かれました。
すぐに、巨大な柱が現れました。ぼんやりですが、その上にある物体が動いているのが見えました。
近づいて見ると、それは何千という数え切れない人がそれに張り付けにされていました。
彼らは裸でしっかりとロープで縛られていたので、身動き一つできませんでした。
虫たちが彼らの肉を食い続けていたので、人々は苦痛の叫び声を上げました。
肉が食われてしまうと骸骨だけが残されました。彼らの肉はまた戻って、恐ろしい試練が再び繰り返されました。

私は主に、ここにいる人たちはどんな罪を犯したのか尋ねました。
すると、主は答えられました。
「この人たちはぞんざいに朝の礼拝に出席して、ほんの束の間そこに居ただけで、世の天国の楽しみに出掛けて交通事故で死んだ人たちです。また、教会に出席しましたが、密室で飲んだり、時々パー出掛けたりした人々がいます。また、ただ形式的に教会に出席しただけで、主を経験したことのない人たちもいます。」

恐ろしい場面に耐えることができなかったので、イエス様にここから連れ去って下さるようお願いしました。
「よろしい、では、天国に行きましょう。」と、彼は言われました。
彼は私の手を取って天国の空を飛び、私たちはエデンの園に到着しました。
イエス様と私は園の中では腕を組んで、とてもチャーミングな訪問をしました。
私が幸せそうにしているのを見てイエス様は私に囁いて言われました。
「私の愛しいポンニヨよ、あなたの健康がそれほど良くないようだね？今は本当に困難ですが、あなたはそれを我慢しなければなりません。」
彼の言葉はいつも私を慰めて下さり、涙が出ます。

(2 コリント 1:5) **「それは、キリストの苦難がわたしたちに満ちあふれているように、わたしたちの受ける慰めもまた、キリストによって満ちあふれているからである。」**

キム・ヨン ドゥー牧師: *感電したかのように

私は先日の悪鬼の攻撃によるひどい痛みがまだ残っていました。しかし、神様は恵み深く、なんとかしのげる程度の痛みの中で、説教と賛美を捧げることができるようにして下さいました。
私は全身の力を込めて、両手を上げて祈りました。
私は両手を通して入って来る電気ショックを感じ始めました。

電流は強くて、それが絶えず私の体のあらゆる部分を流れました。

神様が私の上に油を注いで下さいましたが、私の肉体の苦痛は収まりませんでした。

私の両手を高くして祈るのはとても辛おことでした。

時折、針で刺されたような鋭い痛みを感じるがありました。

その時は、腕を降ろしました。

痛みが弱まると、再び手を上げて祈りに戻りました。これを絶えず繰り返しました。

私は両手を上げて祈ることに決めていました。

突然、左手の手のひらがわずかに外側に動きました。

次に、1時間以内にさらに少しばかり動きました。そして、私の左手の手のひらは内側から外側に向きが変わりました。

右手の手のひらが、ゆっくりと内側から外側に向きが変わるのに、およそ3時間かかりました。

私は長い間、この位置に固定されていました。

腕も手もしびれてしまいましたが、4時間以上その状態で祈りました。

それは拷問のようでした。

***あらゆる罪を悔い改めること。**

私の働きが本当に主からであったかどうか分からなかったので、私は叫びました。

「サタン、私から去れ！私から、離れよ！」

イエス様は何も言葉を発せられませんでした。

彼は、その代わりに、喜び、平和、そして、聖霊の火を私の震える体に注ぎ続けられました。

私の人生における過去の罪を思い出し始めました。それで私は悔い改めを始めました。

私は牧師として相応しくない生活やスポーツへ中毒などを悔い改めました。

その罪が私をずさんな奉仕へと導いたのでした。

私はあらゆる罪を悔い改めようと試みました。

両腕、両手がねじれた状態で、私が痛みで倒れるまで、私が持っていたあらゆるものを祈り続けました。

「あなたのかたくなな、悔改めのない心のゆえに、あなたは、神の正しいさばきの現れる怒りの日のために神の怒りを、自分の身に積んでいるのである。」(ローマ 2:5)

私は本当にスポーツが好きです。私がプレーすると、主を完全に忘れて、深くのめり込んでしまいました。これが彼を傷つけました。

私の中毒は広い範囲に及びました。ボーリング、サッカー、そして特にバドミントンなどがそれです。

私は心から適任の状態を保ちたかったのですが、多くの時間をスポーツに費やしてしまいました。

私は鉱泉水リゾートの近くのバドミントン公園によく出かけました。

そこで、私がすべてのストレスを発散しました。

スポーツをするのは間違いではありませんが、多くの事が私たちの心を占有してしまいます。

霊的な領域の経験が深くなればなるほど、スポーツへの愛が私を中毒のままに止めていることが分かりました。

これらの障害が蓄積し続けて、私の霊的生长を阻害しました。

私はすべてのことを泣いて悔い改めました。

私の人生では、ひところ、私の教会のメンバーが、1人の年配の紳士を残して、全員が他の教会に去ってしまいました。

教会は全く成長していませんでした。

幸いなことに、私の良く知っているソウルの牧師が数百人を擁する教会の筆頭牧師の職があると申し出てくれました。

私は、「よし、それは素晴らしいことだ！」と思いました。

私はその申し出を受ける準備をしました。

出発の前日、私が祈っていると、イエス様が天の頂上から地球までもある途方もなく高い杖を持って現れました。

イエス様は私に、**ひざまずいて身を屈めなさい**、と命じられましたので、私は従いました。

イエス様はその長い杖を取って大きな力で私を打たれました。
それによって私は傷つきませんでした、主が私を愛して下さっていることを感じました。
しかし、彼の顔は悲しみに満ち、涙が彼の顔を伝って流れ落ちていました。
イエス様が尋ねられました。

「私の最愛の僕よ、あなたの集会の数が増えて、あなたは何をしたいのか？キム・ヨン ドゥー牧師！キム牧師、聖壇にあなたはどんな供え物を捧げるんだね？」

私は主に答えることができませんでした。
私の答えが私の恥ずかしい心の真実を明らかにするのが分かっていました。

牧師たちが集まれば、私たちはみな、教会の迅速な成長、何人集まったか、教会の建設に何年かかったか、先端を走っているのは同僚牧師の中のどれか、などについて話します。これらが私のお決まりの答えでした。

主の前で頭を垂れてひざまずいて、私は恥ずかしくて立つことは出来ませんでした。
私は何もできず、ただ泣きました。

イエス様はそっと私の背中を撫でて、彼の温かく慰めて下さいました。

「私の愛しい僕よ、私は今まであなたの(教会の)建築資金の献金を望んだらうか？」

私はあなたの教会に数の復活を求めたらうか？」

こんなことを覚えておくことはない。むしろ、あなたには私の願うことに従って欲しいのだ。

私があなたに求めるのは、それが 1 頭であれ 100 頭であれ、数が問題ではない、私の失われた羊を見つけ出すことである。あなたに彼らの世話を十分にやって欲しいのである。

最も小さなことに、忠実でありなさい。

あなたの周りの、大きな物事に逸らされてはならない。そうではなく、熱心に祈って、私の時を待ちなさい。

最後に、失望してはいけなよ。」

牧師の妻カン、ヒュンジャ: *深く悔いた霊の祈り

今日、私の手が私たちの牧師のようにねじれていました。

イエス様はジューユンの預言の賜物を通して、それについて説明して下さいました。

牧師と彼の妻にとって、彼らの霊の目が開かれることは困難です。それは非常に苦痛な過程です。

多くの異なったタイプの祈りがありますが、その過程をスピードアップする最も強力な祈りは涙をもって悔い改めることです。

他の人と比べて、私はそれほど頻繁に涙を流しません。

それは私の強い個性のためかもしれません。

私がどんなに強かに主に祈り、叫んでも、私がたとえ泣こうとしても、泣くことができません。

私は牧師に助けを求めました。すると、彼は言いました。それは私に深く悔いた霊が欠けているからだと言いました。

彼は私に深く悔いた心を主に求めるようにと勧めてくれました。

「主は心の砕けた者に近く、たましいの悔い改めを救われる。」(詩篇 34: 18)

午後の間ずっと深く悔いたそして悔い改めの心をもって祈りました。すると主が悔い改めの涙の祝福を注いで下さいました。

聖霊様が涙と汗で私を覆って下さいました。

抑えきれずに泣いたとき、私は涙で言葉が詰まってしまいました。

神様はジューユンを通して語ることにより、涙ながらの悔い改めが彼に受け入れられることを語って下さいました。

私たちが行っているすべての働きにつき、敵はいつも攻撃する機会を覗(うかが)っていました。

私たちは決して警戒を緩めることはできませんでした。

悪鬼たちの正体が霊的視力の賜物を持つ若いメンバーに明らかにされて来ているので、彼らは祈りによって徹底的に

武装しなければなりませんでした。

私たちは非常に弱い者たちですから、イエス様がなぜ私たちを選んでこんな死闘を演じるようにされたのか分かりません。

イエス様は私たちに言われました。「**あなた方イエス様の教会の可愛い子羊たちは、邪悪な悪鬼たちと戦うことを通してのみ、あなた方の信仰を維持することが出来ます。私に信頼しなさい。私の手を握っていなさい。私はいつもあなた方と一緒にいるから、心配することはない。**」

20 日目

(使徒 1: 8)「**ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。**」

*キム、ジューンが悪鬼たちを攻撃する！

牧師は悪鬼を恐れるのではなく、直接、彼らを攻撃するようにと私たちに言いました。

彼は叫びました。

「彼らを踏み付けて、痛い目に遭わせよ！彼らの目をえぐり出して、押し潰しなさい。彼らを掴んで、振り回しなさい。」

それは非常に面白くてエネルギーが湧き上がって来ました。

私はすぐに怖がるものですから、牧師は悪鬼に恐怖心を見せてはいけない、でないと、彼らの攻撃はひどくなるから、と言いました。

私はタフになる決心をしました。

最初に見た悪鬼は私が一番恐れたものでした。

それは白いガウンを着た女性の悪鬼でした。

それが恐ろしい叫びを上げて来たときには、鳥肌が立ちました。

私はドキドキしましたが、ありったけの力を絞って、彼女の髪をつかんで、グイと引っ張りました。

(マルコ 9:23)「**イエスは彼に言われた、「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる。」**」

彼女が叫び声を上げました。「痛い！放して！あなた、私を傷つける気？もう、いや！怪我するじゃないの！」

私は情け容赦なく彼女の髪を全部引っっこ抜いてやりました。

彼女が叫びました。

「私の髪が！髪が！」

そして、彼女は姿を消しました。

大きな頭の男性の悪鬼が私を怖がらせようとしてきました。

それが大きな口を開けて私の方に近付いて来ました。

私は、その口を引き裂き、目をえぐり出し、そいつを踏み付けてやりました。

それが叫びました

「痛てっ！俺の目は！俺の口は！どこに行った？探さんと！痛っ！」

それが狂ったようにして床を捜し回りましたが、見つからないまま、消え去りました。

その後で三日月形の目をした悪鬼がやって来ました。

私はその体をばらばらに引き裂いてやりました。するとそれが叫び声を上げました。

それがばらばらになった体のパーツを集めてから、逃走しながら言いました。

「今に見てろ、仕返しをしてやるからな。」

*悪鬼たちのミーティングと天的な武器を求める祈り

その後、私が祈っていると、悪鬼たちのグループが隅で話しているのが聞こえました。

およそ 30 匹の悪鬼たちが車座になって座り、ミーティングをしているのが見えました。

位の高い悪鬼が言いました。

「こんなイエス様の教会のような所からは出て行くと言うのか？ 急いで彼らの祈りを攪乱してやれ。何とかしろ、お前ら間抜けめが！」

他の悪鬼が言いました。

「あの醜い女ジューユンだ。あのセサミ(胡麻)という子だ！ あんな子に負けるとは恥ずかしくはねーか？」

他のが叫びました。

「俺のことか？ 俺の口は引き裂かれて開いたままだぜ！ 出血がひどかった。」

他のが言いました。

「ヘイ、あんたが持ってたものは何もないじゃないの！ 私は髪を全部なくしちゃったよ。つんつるてんだわさ！ 私たち、どうしよう？」

その後、頭蓋骨の悪鬼が私を攻撃して来たので、私はすぐに祈りました。

「主よ！ 斧をお願いします！」

突然、斧が私の横にありました。

悪鬼が近付いて来たので、私は斧を取って、その頭蓋骨を粉々に打ち砕いてやりました。

リー、ユーキュン： *ユーキュンが悪鬼たちを攻撃する！

今日、私が祈り始めると、すぐに、白いガウンを着た女性の悪鬼が現れました。

彼女はドラキュラのような牙を持ち、口からはだらだらと血を流していました。

彼女を叱っても逃げないので、私は決心して彼女の髪を掴んで、力まかせにぐるぐるとひねり回してやりました。

「痛い！ 私の髪を放して。放して！ お願い！」と彼女が泣き叫びました。

私は勇み立って言いました。「この汚らわしい悪鬼め、今までは私がお前を怖がっていたわ！ 今度はお前が仕返しを受ける番だ！」

私は彼女の髪を引っ張ってぐるぐる回転させました。すると、彼女がわめき立てました。「お前が死んだら絶対に地獄へ引きずりこんでやる！」

そして、彼女はいなくなりました。

禿げ頭の男性の悪鬼が私に近づいて来ました。

私はその頭で掴んで押し倒しました。

「いてっ！ 死んじまう。頭を押さえ込むのは止めろ！」とそれが叫びました。

とても面白かったです。

私が非常に強く押したので、破裂してしまいました。

そして、私は力まかせにその悪鬼をぶん殴ってやりました。すると、それが隅にぶっ倒れました。

私が祈り続けていると、イエス様が私の前に現れて言われました。「**私の愛しいユーキュンよ、あなたの信仰はたいへん成長しましたね。あなたは今や、こぶしで悪鬼たちに痛手を加えることができるようになった。**」

彼は微笑まれました。

私は言いました。

「イエス様、私は天国に行きたいです！」

彼は地獄を訪問すると強く言われました。

地獄に到着すると、私たちは金属の釜のある場所に来ました。その釜は火で真っ赤になっていました。

イエス様が言われました。

「**ユーキュンよ、釜の中を注意深く見てご覧。だれが見えますか。**」

私が注意深く見ると、中に私の祖母が見えました。それと一緒に別の男の人が見えました。

二人は跳び上がって「熱い！」と大声で叫びました。

「お願い、熱くてたまらん！」

祖母が私を見て言いました。

「ユーキュン、私はもうこの熱さには耐えられないわ！お願い、お婆を助けてちょうだい。主にお願ひして、私をここから出して。」

彼女はどうしたらよいか分かりませんでした。

彼女は気が狂ったように走り回っていました。

彼女の白い衣にさえ火がついていました。

祖母が叫びました。

「ユーキュン、あなたがここにいるのでうれしいよ。お願いだから、私をここから出してちょうだい！この熱にはとても耐えられないよ。」

私は手を伸ばして彼女を引っ張り出そうとしましたが、主が、それはできないことをしっかりと私に思い出させられました。

「イエス様、祖母が苦しんでいるのを見ていると胸が張り裂けそうです。私はどうしたらよいのですか？」

私は泣きました。

イエス様は私をしっかりと抱いて、私の涙をふき取って下さいました。

私は繰り返しイエス様をお願いしました。そこで彼が言われました。

「ユーキュンよ、涙を流すのはお止めなさい。これ以上泣いてはいけません。あなたがまたお婆さんに会いたくなったら戻って来ます。だから、泣くのは止めなさい。」

祖母は止めどなく走り回り、叫び続けました。

「熱くて死にそうだ！この火で私は死んじまう！だれかここから出してくれ！ユーキュンや！あんたはお婆ちゃんを可愛そうだとは思わないかい？」

イエス様が私の手を取って言われました。

「もう十分だと思う！ここに居れば居るだけ、事態は悪くなる。さあ、ここを離れよう！」その瞬間、イエス様と私とは既に天の川(銀河)にいました。

イエス様と話しをしていると、怖い悪鬼が私たちの前に現れました。

イエス様が叫ばれました。

「もし、お前たちがジューユンかユーキュンを苦しめたなら、私がすぐにお前たちを地獄の火の穴の中に投げ込んでやる！」

悪鬼は頭を抱えて逃げて行きました。

イエス様は私の手を取り、私を教会まで連れ戻して下さいました。そして、彼は天に戻られました。

リー、ハークスン: *鉄の仮面をかぶった悪鬼

私が祈っていると、白い鉄の仮面をかぶった筋肉隆々の男の悪鬼が私の前で大きな刀を振り回し始めました。

私は恐れませんでした。

その代わりに、私はその刀を奪い取って、それで悪鬼の頭を打ってやりました。

カーンという金属と金属とがぶつかる音が聞こえました。

仮面を剥ぐと、顔一面にあのいやなウジ虫がたかっていました。

別の悪鬼が現れました。それからは煙が流れ出ていました。

その煙がすぐ人間の形になりました。

人々が煙の中に捕えられていて、助けを請い求めているのが見えました。

この悪鬼が人々を呑み込んだのだと分かりました。

私は異言で祈り始めました。そして、イエス様に大声で呼び掛けました。

「イエス様、私を助けてください！悪鬼が私を呑み込もうとしています。急いで私を助けてください！」

大声で呼ぶと、主がすぐに現れて、その悪鬼を滅ぼして下さいました。



その少し後で、体中に角の生えた悪鬼が大きな黒板を運びながらやって来ました。

そいつが言いました。

「祈るのを止めろ。祈るのを止めるんだ！」
私はそれを無視して異言で祈り続けました。
そいつが黒板を引っ掻き始めました。
私はその雑音には我慢できませんでした。
私は耳を塞いで叫びました。
「サタン、イエスの御名によって、消え失せろ！」
そいつは黒板を引っ掻きながら言いました。
「ヘイ、おもしろいね！」
私は叫びました。
「イエス様、私を助けてください。この邪悪な悪鬼が私を苦しめます！」
イエス様は光の中に現れて下さいました。悪鬼は後ろも見ずに逃走しました。

====
21 日目
====

(マルコ 16:17, 18) 「**信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる。**」

キム、ジューン:

私は異言で祈りつつ燃えていました。
その時、3頭のぞっとするような龍が現れました。
最初の龍は赤いボディー全体にわたって様々な模様があり、また円い形の模様がありました。
2番目の龍には赤と青の縦縞が混ざっていて、それを見たとき、私は混沌とした感じを受けました。
3番目の龍は青と黄色の横縞が混ざっていました。
彼らは私を呑み込もうと思っているようでしたが、私はしっかり3回立て続けに叫びました。
「イエスの御名によって、私から去れ！」
すると、彼らはすぐに逃げ去りました。

見回して見ると、何匹かの悪鬼たちが輪になって座りミーティングをやっていました。
リーダーがはげ頭の悪鬼に言いました。
「お前、今度やれ！」
それがすばやく私に向かって来ましたが、私は、前と同様に、頭をつかんで、ぐいと引き寄せました。
両目を突いてやりました。すると、それは私から逃げて行きました。
次に、鋏(はさみ)の指を持った悪鬼が来ました。
それが黒板を引っ掻きました。
キーキー鳴る音に耐えられなくて、私はその金属の指を奪い取って、そいつの顔を引っ掻いてやりました。
「ヘイ、俺の指を返してくれ！なんで俺の指を取るんだ？この小さな害虫め、俺にちょっかいを出すな。お前の信仰、どうやってそんなに強くなったんだ？」
こうして、その悪鬼は姿を消しました。

私は強力に祈り続けました。
大きな蛇が怒った様子で私の方に這いずって来ました。
そのうろこがいろいろな色に変化しました。そして、尻尾を私の前で前後に振りました。
私はその蛇をつかんで、壁に投げ付けてやりました。

(マルコ 16:17, 18) 「**信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる。**」

包帯で全身を包んだ悪鬼が現れました。
それを見ると私は中国のデーモン・アニメのキャラクター『カンシー』を思い出しました。それが言いました。「ほれ、小娘、と

っても面白いぞ。」

それが包帯を解き始めました。

包帯の下には、からだ中に無数の虫やムカデやヤスデがいて這いずり回っていました。

私はゾッとしました。すぐイエスを呼びました。すると彼が現れて、その悪鬼をつかんで、投げ捨てて下さいました。

「イエス様、どうもありがとうございます！」

彼は微笑んで、そっと私の頭をなでて下さいました。

「私の愛しいセサミよ、あなたの信仰はとても成長したよ！熱心に祈りなさい。」

今日、イエス様は特別な金の衣を着ておられました。そして、彼の胸の赤いハートが様々な光を放っていました。



イエス様が去られた後に、年取ったおばあさんに変装した悪鬼が現れました。

彼女は黒い服を着ていて、長い斧を持っていました。

「祈ってはいけない！この次にしなさい。今日はだめ、分かった？なぜ、あなたは今日祈ろうとするの？明日、やりなさい。明日祈ると、イエス様があなたに会って下さるよ。そうおし。」

彼女はさらに大声で繰り返したので、私は叫んで言いました。

「ヘイ、このオバタリアン、イエスの御名によって、私から逃げて行け。」

彼女は姿を消しました。

リー、ユーキュン:

私が祈っていると、悪鬼が近づいて来ました。

「ほら、あんた！あんたは私に謝らなくちゃいけないんじゃないの？」

私は言っていることを信じることは出来ませんでした。そこで私は言いました。

「どうして、私が謝らなくてはならないの？お前こそ、私の邪魔をして私の祈りを掻き乱しているじゃないか。」

悪鬼は私を馬鹿にし続けました。

私はその悪鬼の頭を掴んで、そいつの顔面をひっぱたいてやりました。悪鬼が私の顔を叩き返しました。

「お前、よくも俺の顔をぶん殴ったな？こっちへ来い！殺してやる！」

私も怒りがこみ上げて来ていたので、そいつの目をくり抜いて、投げ飛ばしました。

悪鬼は大声で泣き出しました。そして、言いました。

「わー、俺の目が！俺の目を返せ！」

そして、ひざをついて、自分の目をあちらこちらと探し始めました。見つかると、それを元の位置に戻しました。

しかし、まづいやり方だったので、斜視(ひがら目)になっていました。その顔を見て、私は吹き出してしまいました。

私のほおが腫れてきました。私はわずかな注意散漫で悪鬼から叩かれた事実をそのままにしておくことはできませんでした。

この次にはきつし返しをしてやると心に決めました。その時、何かを掴んだ感じがしました。

驚いたことに、骸骨頭の悪鬼の足を掴んでいたのです！

びっくりして、私はそれを横壁に投げつけました。するとそいつの骸骨が半分に割れました。

悪鬼は歯ぎしりをしながら私の方に向かって来ました。

半分に割れた頭を手でつなぎ合わせてから、それが金切り声を上げながらやって来ました。

「ヘイ、お前は幸せだよな！」

そこで私は尋ねました。

「なぜさ？」

すると、悪鬼が言いました。

「イエスがお前の中に住んでいるからよ。俺はお前の中に入ることはできねー。俺が願ってもな！俺は死ぬよ！」

それを聞いた時、私は吹き出しました。

「その通りよ！あんたは死んだ肉さ！だから、イエスの御名によって、私から去れ！」

こう言うと、その悪鬼はすぐに逃げて行きました。

しばらくして、白衣の女性の悪鬼が現れました。

彼女は泣いていました。

「不公平よ！あのろくでなしのハーク、スンが私を打ったのよ。あの邪魔者、ジューユンが私をぴしゃりと叩いたのよ。」

私は彼女が近くに来るのを待ちました。そして、指で彼女の目をえぐり出しました。

彼女は痛さに跳び上がって逃げて行きました。
別の女性の悪鬼が言いました。
「ヘイ、私たちにあんなことをしておいて、何もなしで済ませるとでも思ってるのかい？」
彼女の髪をつかんで、私は彼女を大きく回転させ遠くに投げ飛ばしました。
私はお願いしました。
「イエス様、斧をお願いします。」
私は斧で彼女の頭を打ち砕いてやりました。
頭がなくなったまま、彼女が私のところに来て、叫びました。
「ヘイ、あんた、私になんの同情もしてくれないのかい？」
彼女はあちらこちら自分の頭を探し回りながら言いました。
「私の頭はどこにあるんだ？私の顔はどこだ？」

後で、私はイエス様に会いたくなりました。
私は力いっぱい大声で叫びました。
「父よ！父よ！」
イエス様はにこやかな微笑をたたえて私を迎えて下さいました。
「私の愛しいセサミよ、あなたは見事だったよ。私のユーキュンは自分一人でうまく悪鬼たちを打ち負かすことができるようになった。」
また、彼は言われました。
「ユーキュンよ、キム牧師が説教の中であなたのことを『セサミ』と呼んだら、大声で答えなさい。大声で確認することも信仰です。分かりましたか？」
私は、「はい、主よ、アーメン。」と答えました。

すぐに御使いたちが来て言いました。
「ユーキュン姉妹、あなたは悪鬼たちを打ち負かしましたね。あなたには驚きましたよ。その調子でがんばれ！また悪鬼たちが攻撃して来たら、今までのように大胆に彼らを打ち破ってください！」
彼らは皆、私を応援してくれました。
イエス様は私を天国訪問に連れて行って下さいました。
私は天国の訪問はいつも大好きで楽しみです。
そこに着くと、イェジ(訳注: 執事シン、スンキュン姉妹の娘、9歳)と私は主の前で踊り始めました。
私たちは彼にお願いしました。
「主よ、シン スンキュン執事とジョセフに悔い改めの涙を注いで下さい。二人は涙を流して悔い改めの祈りをしたいと願っていますが、泣くことができません。」
しかし、主は答えられました。
「人々が心からの悔い改めの祈りをしているときだけ、私は悔い改めの涙を与えることができます。」

私たちはエスコートされて教会に戻って来ました。
イエス様は私の叩かれたほおに触って言われました。
「愛しいユーキュンよ、強くありなさい。分かりましたか？」
彼は波と共に姿を消されました。

リー、ハークスン: *チェーンソーを携えた悪鬼たち

私が異言で祈っていると、3匹の悪鬼たちが一斉に私を攻撃して来ました。
1匹は人間の顔を持ち体は龍でした。
他のは頭蓋骨の悪鬼、そして、最後のものは金属の仮面を付けていました。
驚いたことに、それがやかましいチェーンソーを持っていて、私の手を切り落とそうとしました。
私は全神経を集中しなければなりませんでした。
1秒でも警備を怠るなら、切られてしまいます。
負けないように、攻撃に身をかわしながら逃げました。



戦っている間に、私はチェーンソーを取り上げて、悪鬼の手を切り落としてやりました。
そいつが金切り声を出したので、他の2匹の悪鬼たちは命からがら私から逃げて行きました。

その後、別の悪鬼が私に近付いて来ました。

私はそいつを誘って言いました。

「ヘイ、こっちに来いよ。おもしろいこと教えてやるよ。こっちだよ！はやく！」

悪鬼は疑い深く来るのを拒みました。

「ヘイ！ここにおもしろいものを持って来いよ。見せて上げる！」

私は言いましたが、私を信用しません。

そいつが私に尋ねました。

「俺を罰しないと約束するか？」

私は応じました。

「俺がなんでお前を罰するんだよ？ただ、おもしろいものがあるから、見せてやろうと思ってるんだ。こっちに来いよ。」

そいつが興奮して私に近付いて来たので、私はその腕を掴んで空中にぐるぐる回転させました。そして、壁を目がけて投げ付けました。

しかし、私が悪鬼と戦っていると、突然、私の過去の罪が思い出されました。

私の祖母の生前に、私が彼女をいかに面倒見ることしなかったかを思い出しました。

思い出すひとつひとつの罪を神様の御前で泣きながら悔い改めました。

私が狂ったように泣き祈っていると、突然、私の周りで軍隊の行進する大きな足音が聞こえてきました。

何百もの足が一斉に行進しているように見えました。

私は、悪鬼たちの大きなグループが、みな軍服を着て、私に向かって襲いかかって来るのが見えました。

主が私に強さを与えて下さっているので、私は恐れません。

いや、たとえ、悪鬼どもが押し寄せて来ても、私は大胆で強かったのです。

私を攻撃してくる悪鬼たちが、以前よりは遙かに強力な者たちであることは分かりました。

悪鬼どもがどんなに強くとも、私がイエス様の御名を唱えたと、どの悪鬼も自分の命が可愛いので逃げ去るのです。

この光景を見るたびに、イエス様が如何にすごいお方であることを認識させられるのです。私は溢れんばかりの喜びに満たされています。

悪鬼の軍隊でさえ、イエス様の名前の存在で逃げ去るのです。

キム ヨン ドゥー: *両腕がひねったプレッツェルのように回転した。

私は両手を高く上げておよそ30分の間、主に大声で叫んでいました。

その後、私の手が頭の上で自動的に何度も何度も円を描き始めました。

そして、ちょうど指先が触れあう時に、1秒間隔で、組織的に、左手が内側から外側に動き始め、右手は左手を真似るように、外側に向かって、組織的に、動き始めました。

突然、両方の手がねじれプレッツェルのように外側に向けてねじれ始め、その位置で固定しました。

これは拷問です。この前の悪鬼どもの攻撃で痛めつけられた辺りが、その位置でとても痛みました。その都合の悪い位置で耐えるのは容易なことではありませんでした。

それから、1秒の間を置いて、再び、両手は反対へ、即ち外側から内側へとねじれ始めました。

最初に、左手、次に右手が内側にねじれました。そこで、もう30分の間、私はその位置で固定されました。

その進行が非常に遅かったので、私は忍耐できなくて少しずつ腹が立ってきました。

キム牧師が聖霊の賜物を自分自身の栄光のために求める

「主よ、あなたはどのようにこんなに私を苦しめられるのですか？」

悪鬼が噛み付いた個所がどんなに痛い、あなたはよくご存知の筈です。しかし、あなたは私には耐え難い方法を採用されました。

それにあなたはなぜこんな満足のいかない量の天の賜物を示されるのですか？」

もしあなたが私をぱっと裏返しになさるのなら、早くそうして下さい。それとも、あなたは私を弄(もてあそ)んでいるので

すか？あなたはいったい私に何をしてくるんですか？私は気が短いです。
だから、私に必要なものを一度に下さい。両方にとってそれが都合が良いんじゃないですか？」
私は不平を言って主を攻撃し始めました。
私の恐るべき性質が、とどまるところを知らぬ不平によって続きました。私のひどい言葉は止むことなく、彼を攻撃しました。
「主よ！あなたが私を火で打たれるのなら、あなたの聖なる火によって私の霊の目を開けて下さい。これはどちらにも益となるんじゃないですか？
それを受けるのが難しいのであれば、だれがその霊の賜物を受けることができるのですか？
これはあなたにとっても私にとっても、退屈であきあきすることですよ。たった今、急いで霊の祝福を注ぎ出すことは、どうなんですか？今すぐ、お願いですから、今すぐ！これでどうです？」
私が霊の賜物をどんなにせがんでも、もし、主がそのノーだと決めておられるのなら、それだけの話しです。
しかし、その時の体の調子が禍(わざわい)して、私は理性を欠いた要求を突き付けることによって、暴君になるという罪を犯しつつあったのです。
私はカー杯叫びました。しかし、主は依然として聖霊の働きによる私の腕の捻(ひね)りを継続しておられました。
彼はそれを12回行われました。私は考えました。『主が私に与えてみようとしておられる霊の賜物とは、いったい何だろう？どんな霊の賜物なんだろう？』
私はいらいらが激しくなりました。
私は燃えるような聖なる火を暴風のように直ぐさま与えてくれるように求めました。しかし、主は私の衝動に同意されませんでした。一層のろのろ運転が続きました。
どれほど祈ったでしょうか？少なくとも4時間は祈りました。今まで続いていた捻(ひね)りが突然、ストップしました。
左手が前後に激しく動き始めたのです。右手も同様にそれに続きました。
私の両手はキラキラ星のボディワープをしていました。
今やっているのは、これまで長時間にわたって手を高く上げていたからであろうと私は考えました。
それで、私は様子を見ようと思いました。
私は両手を静止させようとしたが、動きは続きました。
私が手を下ろし、また、上げた時にも、動きを止めようと思っても、私の手はリズムカルに動き続けました。
私は驚きまた可笑しくなりました。そこで私は目を開けて長い間、私の手をながめていました。
娘のジューンが驚いて彼女もそれを眺めていました。
祈りのラリーの後に主に尋ねました。
預言や霊的な視力の賜物を戴いているメンバーを通して、主は、私が癒しと奇跡のパワーの賜物を受ける途中にいることを再確認して下さいました。
これまで、霊の賜物の求め方はあいまいでした。
聖書に述べられているように、御言葉を読んで、霊の賜物を熱心に祈り求めれば、その賜物を受けることができると思はれて、誤解していました。
そうではなく、主は霊の賜物の基本を、祈りのラリーを通して、私たちに徹底的に教えようとしておられたのです。
毎日、私たちは真の祝福を経験しています。そして、私たちの日々は喜びに満ち、私たちの生活は豊かです。

主が地獄ツアーへ招待

ペク、ボンニョ姉妹:

私が霊のダンスを楽しみ、異言で祈っていると、10人の天使が天から下ってきました。
天使たちは祈っている会衆の辺りを前後に行ったり来たりしていましたが、その後、私の横にやって来ました。
今回、なぜここにいるのですかと、私は天使たちに尋ねました。
彼らは答えて言いました。
「イエス様が言われました。『イエス様の教会が今祈りラリーを始めた。言ってボンニョ姉妹を連れて来なさい。』それで、今、私たちはここにいるのです。」

天使たちが私を地獄に連れて行くのではないかと恐れて、私はもう一度彼らに尋ねました。
「こんなことが前にあったのだけど、あなた方は私を天国に連れて行くの？それとも、地獄に連れて行くの？」
彼らは答えを知らなかったの、主はただ私を連れて来るように言われたのに違いありません。
彼らは私がどこに行くかを知らない訳ですから、私は彼らと一緒に行くしかありませんでした。
私たちは宇宙と天の川を通り抜けました。その時、イエス様が嬉しそうに私を迎えて下さいました。

イエス様は話しておられる間、注意深く私の表情を見ておられました。

「私の愛しいボンニョよ！あなたが知っているとおり、あなたのキム牧師は天国と地獄に関する本を書いています。私はキム牧師を地獄に連れて行って、彼に地獄を見せて必要な項目を記録して貰いたいんだけど、彼の霊の目がまだ開かれていないので、あなたを連れて行くしかないのです！地獄の光景を適切に記録するために、訪問に連れて行けるのはあなただけです。お願いだから、しばらく辛抱して欲しいのです！では、一緒に地獄を訪問しに行きましょう！」

主は毎日、これと同じ路線を用いられます。

イエス様は私の手を取られるとすぐに、私たちはもう地獄の道を歩いていました。

腐れかかった肉の臭いをかいだとき、その臭気で私の胃がでんぐり返りそうでした。前には、見渡す限り無限の暗黒でした。

私の主に頼り依存する以外に何もありません。ですから、歩いている間は、主の手をしっかりと握っていました。

「激しい苦しみに泣き叫ぶ家族との再会」

地獄！地獄に終わりがあるのでしょうか？

いつ痛みが静まるのか、そして、どこで、それが終わるのでしょうか？

その質問には1つの答えしかありません。

地獄には永遠の痛みがあるだけです。

イエス様と私が少しばかり歩いた時、火の穴の中で、人々が助けを求めて叫んでいるのに気が付きました。

火がとても強く、またその炎は生きていて、それが釜の側面を流れ、また、中に吹き込みました。釜の中の人たちはみな裸でした。私たちが近づくにつれて、人々の悲惨さと悲しみに私は圧倒されました。

途方もなく大きなドラム缶のようなものの中で、無数の人々が、跳んだり叫んだりしていましたが、それがどれほど熱かったことでしょう。

私はまたもや、とても恐ろしくなりました。

私が地獄で見たものはすべてがショッキングなものでしたが、私が戻ると、とても心に傷を受けていました。

キム牧師の父親が鎌で大根のように切られる光景は、私の裸の父を見つめている光景と同じほどに耐えられないことでした。

私の父が私を見て、泣き始めました。

「ボンニョよ！お前はここで何をしているんだ？私はお前に会うたびに、心の痛みには堪えられないのだ！私がお前にしたことは申し訳なかった！だから、私がしたこと代価をここで払っているのだらうと思うよ。」

私は何も言えませんでした。

私はただ止めどなく泣きました。

地獄で受ける苦痛は私が地上で父の下で苦しんだ虐待や迫害よりも、想像を絶するほど大きなものでした。

私が地上で経験したことなど何でもありません。

地獄の巨大な悪鬼は、鎌で多くの人々をスライスしては大いに楽しみ、嬉々として鼻歌を歌いさえました。

この邪悪な悪鬼は、私の父をとらえてから、ナイフで足の先からスライスし始めて、うどんのように千切りにしてしまいました。

「ああああ！助けてくれ！お願いだ！お願いだ、今、私を殺してくれ！」

私の父の悲痛な叫びと、いつまでも続く悲鳴で私は目まいがしました。

私の横に主がいて下さらなければ、私は何度も気を失ったことでしょう。

地獄！そこは苦難に終りがありません。ただ呪いと永遠の後悔があるのみです。

希望はありません。永遠に希望はありません。

地獄に行かない唯一の道は、私たちが神の国に入ることができるように、イエス様を私たちの救い主として受け入れて、

忠実に生きることです。

私の父の体が鎌で切り刻まれるのを見る場面から私を取り去って下さるようお願いしました、そして、やっと出て来ました。

私の父の悲しみと苦悶の叫びを後に残して、私は主と共に移動しました。

しばらく歩いた後に、前方に木が見えました。

私が近づいてよく見ると、再びショックを受けました。

主はなんで、私に、これほど恐ろしい、私の記憶から消去することのできない、イメージを何度も何度も押しつけられるのでしょうか？

その木の上には、私の母さん、弟、義兄弟、甥(おい)がみんな裸で、足首を縛られて逆さに釣り下げられていました。

その木は白い蛇のように身をくねらせて、動き回っていました。その横には山より高い悪鬼が立っていました。

私は悲しげに母を見つめました。すると、母もまた、木に釣り下げられながら、私を見ていました。

他の親族も、私の方を見て、大声で叫びました。

「ボンニョ！ 私たちを助けることができないのに、なぜここにいるの？なぜまた来たの？あなたは私が苦しんでいるのをそんなに見たいのかい？」

そして、彼女は泣きました。

イエス様はその悪鬼を指さして、あれは地獄で2番目に大きな悪鬼ですと言われました！

この2番目に大きな悪鬼は、人々の体を打ち叩いたり肉を剥(は)ぎ取ったりして楽しんでいました。

それから、悪鬼はその体を情け容赦なく火の中に投げ込むのを繰り返しました。

私は、地獄にいるすべての悪鬼たちを捕らえて、ばらばらに細かく裂いて、地獄の火の中に投げ込んでやりたい思いがしました。

第2位にランクされた悪鬼が命じると、直ちに僕の悪鬼が鉢を持って来て、私の家族が掛けられている真下に置きました。そして、その鉢に黒い昆虫をいっぱい入れました。

その時、これらの昆虫が私の家族の髪や体をよじ登り始めました。

昆虫たちは情け容赦なく彼らの肉や目や鼻の中に掘り進んで肉のごちそうに与りました。

彼らの体は昆虫で黒く覆われました。

「ああああ！助けてー！ボンニョー！大きい姉さーん！姉さーん！痛っ！義理の姉さーん！私を助けて！おばちゃん！私を助けて！お願い、助けてー！」

私の家族の痛みと助けての叫びを聞いて、私に何ができますか？

あのいやな昆虫がウジ虫の形になりました。

昆虫は鋭い歯を持っていて、どんなものの中へでも噛み進んで行きます。彼らの目は光り輝いていました。

昆虫がいったん人体に群がると、肉は溶けて落ち、骨だけが残ります。

それから、昆虫は骨の中へと深く掘り進んで、骨まで溶かしてしまいました。

私の母、弟、義理の兄弟、甥(おい)は、痛みで絶叫し続けました。

その恐ろしい痛みが永遠に続くのです。そして、私はこの真実を知った痛みに持ち堪(こた)えられませんでした。

それが私の心をばらばらにしました。

このカオスの中で、私の母さんが叫びました。

「ボンニョ！私は虫が怖い。私は虫を捕まえることは出来なかったわ。でもここには虫だらけ！この虫は決して死なないんだよ！お願い、どうか、私を助けて！」

私の家族は私の助けを当てにして大声で叫びましたが、私はどうしようもなく、彼らを見つめていました。

家族を助けるには私が無力であることを知る苦痛に、耐えなければなりませんでした。
「主よ！ お願いします。私の家族を昆虫のいるこの場所から解放して、どこか他の場所に移動させて下さい。私の家族を憐れんで下さい！」
そして、私は泣き叫びながら懇願しました。
しかし、イエス様は答えられました。
「私にはできません！ 遅過ぎます！」
私はもう一度、主に懇願しました。
その時、主が私の手を取って言われました。
「もう行く時間です！ 遅くなっています！」
私たちは移動しました。

イエス様と私の果てしない歩みを続けて、私たちは大きな山のある所にやって来ました。
私たちはもっとよく見えるように近くまで歩いて行きました。
その山全体に大きな石のように見えるものが点在していました。
遠くからは大きな石が小さな岩のように見えたものは、よく見ると、それは希望を失って絶望的な人々があちこちに立っているのです。
彼らは激しく打たれて腫れ上がっているように見えました。
彼らの目や顔は腫れ上がり、体は疲労困憊してじっとしていました。

人々の横には怖い悪鬼がいて、陰しい目つきをしていました。それが私を見ると、話し始めました。
「よく見る顔だな！ なんでまたここに来たんだ？」
私は非常に腹が立ってそいつを呪ってやりました。
「ヘイ！ ろくでなし！ 私の家族のように、お前を細かく引き裂いて、火の穴に投げ込んでやりたいよ！ お前をとっ捕まえてやる！」

悪鬼は大声で馬鹿にしました。
「お前はあの俺が怖いもんだから、中で叫んでいるじゃねーか。いい気味だ！ お前はどうするんだ？」
私の両親が苦しみに耐えていることを思うと腹が立ちました。
私は身動き一つしないで悪鬼と戦いました。
「イエス様！ その悪鬼を殺してやりたいです！ あの悪鬼が憎いです！」
しかし、悪鬼はますます私を馬鹿にしました。
私は続けて言いました。
「主よ！ あなたは、なぜ何もしないで、ただ立ってばかりいるんですか？ 何か彼らに見せてください！」
私は主にお願しました。その時、突然、彼は右手を上げて振り回されました。
すぐに悪鬼の体がすくんで動けなくなりました。

悪鬼は石の柱のようにじっと立っていました。その間に石のように突っ立っている人々の体は様々な昆虫に覆われて、彼らの肉と骨は虫たちのご馳走になりました。
昆虫は目以外の体をすべて食べてしまいました。そして、彼らの空しい悲鳴が地獄の空にこだましました。
イエス様は「**どこか他の場所に行こう！**」と言って私の手を取られました。

韓国の元大統領に会う

イエス様は言われました。
「次にあなたが会う魂たちはあなたがよく知っている者たちです。だから、よくよく注意しなさい！」
主の話しが終わらないうちに、私の視界に韓国の元大統領が入って来ました。
私はびっくりして叫びました。
「おお、主よ！ ひどいです！ とても見ていることはできません！」
その時、主が私の手をしっかり握って下さいました。
彼は何にも縛られてはいませんが、白い大型の蛇が彼の全身を、目以外の足から首までしっかりと巻きついてい

ました。

それから、数匹のカラフルな蛇が白い蛇に近付きました。そして、白い蛇の上で互いに巻きつきました。

その蛇たちは、いよいよきつく、互いに巻きつき合いました。

ちょうど蛇たちは、どれが一番きつく巻きつくことができるかを競っているようでした。

元大統領は叫び声を上げました。そして、彼が窒息しそうになったので、咳をし始めました。

「ああああ、止めてくれ、息が苦しい！お願いだ！止めてくれ！お願いだ、助けてくれ！」

この苦悩の中にいるのに、彼は私に話し始めました。

「あんたはだれだ？なぜここにいるんだ？以前、私は名誉ある韓国の大統領であったが、今は地獄で苦痛にさいなまれている。私が地球にいたとき、多くの牧師が、私を教会に出席させようとお願ひしてきたが、私は彼らを皆、無視した。彼らが地獄について話しても、関心を向けなかったが、これが本当に存在するとは、夢にも思わなかった。婦人よ、この状況はどうにかなるのかな？どうしたらいいと思う？私の子供はまだ今日までイエス様を知らないのだ。それが私にはとても心配なのだ！私の子供は、彼がまだ生きている間に、イエス様を受け入れて、彼が天国に住むことができるように救いを受ける必要があるのだ。

私がたった今、行って、この真実を語ることができたらなあと思うよ。それはできないし、私はどうしたらいいだろうか？ああああ！心が痛む！」

彼は、子供のところに行って、イエス様のことを話してくれるようにと私に懇願しました。

私は、彼の願いがとても真剣なものでしたので、私はイエス様にお願ひしました。

「私の最愛の主よ！彼の話を知ると、私の胸が痛んで、とても耐えられません！主よ、大統領の息子さんに地獄がどんなものか、夢で見せて下さいませんか？」

イエス様は一言も言わずに、ただ聞いておられました。

突然、私の思いは私の家族が地獄のどこかで苦しんでいるイメージでいっぱいになりました。

私は、罰のあまり酷くない場所に導かれたらいいんだけどなあ。』と考えました。

そう考えながら、私は泣き出しました。

そんな所があるものかとイエス様に笑われるかも知れません。でも、自分の愛する人たちが考えられないような苦痛を受けているのを目撃した人なら、同じように考えるかも知れないと思います。

私の家族を地獄から救い出して下さい、という不可能な要求をしつつ、私はこらえきれずに泣き出しましたので、イエス様は御使いたちに命じて私を地上に戻されました。

私は大声でイエス様に訴えかけました。

「主よ！私の母と家族はみんな地獄の火の中にいて言語に絶する苦痛を受けています。しかし、ここにいる私のいったい何が善なのですか？それが何だか私には分かりません！私は本当にこれがいやです！両親の代わりに私をその火の穴の中に投げ込んでください！」

私は真剣にお願ひしましたが、無駄でした。

私の懇願が無駄なことはだれよりもよく分かっていましたが、そうするより他ありませんでした。

私のすべてを使って、思いと体と魂を使って泣き続けました。その時 10 人の天使が現れて、忙しそうに私の涙を金のボールに集め始めました。

私は悔い改めの祈りを祈り始めました。

「主よ！私は大変間違っていました！どうぞ、私をお赦し下さい！」

その時、主は悲しそうに私を見て言われました。

「私の愛しい娘よ！二度とそれをしてはいけません！」

そして、彼は私を慰めて下さいました。

しかし、私は用心深く尋ねました。「主よ！もう一度母に会いたいです！会ってもよろしいですか？」

主は、私が再び母に会うことを簡単には許されませんでした。

それで、私は応じました。

「主よ！二度と同じようなことは致しませんから、二度と泣きませんから、お願いします。」

そう言うと、主は私の手を取って言われました。

「それでは、あなたのお母さんに少しばかり会ってから、戻ることにしましょう！」

「地獄の母の前で歌を歌う」

私の母はさらに別の火の穴の中で苦しんでいました。彼女は熱さを避けようとして、金切り声を上げながら、いたる所を

跳んだり跳ねたりしていました。

私は大声で叫びました。

「お母さん！私よ！あなたの娘のボンニョですよー！」

彼女は私の方を見て、私だと分かると、泣き始めました。

母が言いました。

「ボンニョ！なんで、また来たの？ここはあなたの来る場所じゃないよ！急いで、戻りなさい！あなたは健康が優れないんだからね。二度とここに来ちゃだめ！痛い、私は焼かれてしまう！とてもこの痛みには耐えられないわ！」

私はもう一度母さんに向かって叫びました。

「お母さんがいないから、とても寂しいわ！私は、どうしたらいいのかわからないのよ！」

私の母さんは痛みの真っ直中に要求をしてきました。

「私の大好きなボンニョ！一度でいいから、あなたの歌を聞きたいわ！」

分かって頂けますか？私の母さんは、火の燃える穴でひどい苦痛にあえぎながら、私の歌を求めてきたのです！これは信じられないことでした。花火を見て楽しんでいるのではありません。

しかし、どうやって拒めばよいでしょう！

私の口はもう歌を歌う用意をしていました。

私が歌い始めると、涙がほおをこぼれ始めました。私は母さんが炎の中で苦しんでいるのを見つめていました。

「わたしを産んだ時の苦しみをあなたは忘れ

わたしを育ててくれた

夜となく昼となく、あなたはすべてを犠牲にして

ベッドの汚れたところから乾いたところに、わたしを動かしてくれた

あなたの手足がすり減るまで、あなたは犠牲にし、苦しんでくれた……。」

もうこれ以上歌うことができませんでした。そして、こらえきれずに泣きました。

ぞっとするような残酷な苦痛に苦しんでいる母にどんな歌を歌えばよいのですか？

私の心の痛みが極みに達しました！

私は母さんに、泣きながら大声で叫びました。それから、また呼んで、さらに泣きました。

自分のことを思えば思うほど、私が如何に恐るべき娘であったかを、いよいよ思い知らされました。

私は病気の母の面倒をまともに見ませんでした。そして、私の怠慢ゆえに、適切な医療を受けることもありませんでした。

だから、母はイエス様のことを学び受け入れて、天国に行く機会を失ったのです。

私こそ地獄がふさわしいのです。母さんだけに犠牲を強いて、私の私生児の子供たちを育てさせ、苦難の中に死んだのでした。

私こそ地獄にふさわしい卑劣な人間であり、私の愛しい母こそは天国にふさわしいのです。

ところが、すべては逆であり、さらに悪いことに、二度目のチャンスが全くないのです。

これこそは私が非常に腹の立つことなのです。

私の母さんに望みはありませんー永久に！

私はどうすればよいのですか？

いったん、地獄に来たら後戻りが出来ない、という事実には私はひどく腹が立つのです。

====

22 日目

====

(1 ペテロ 1: 6-9)「そのことを思って、今しばらくのあいだは、さまざまな試練で悩まねばならないかも知れないが、あなたがたは大いに喜んでいる。

7 こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変わるであろう。

8 あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないが、彼を愛している。現在、見てはいけなけれども、信じて、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれている。

：9 それは、信仰の結果なるたましいの救を得ているからである。」

リー、ユーキュン： *悪鬼がピアノを弾く。

私が祈っていると、黒い顔をした四つ目の悪鬼がやって来てピアノの椅子に座りました。

それがピアノを弾こうとして、それをいじくり始めました。

私は非常にいらいらして、叫びました。

「ヘイ、汚らわしい悪鬼め！なんでお前は私のジューン姉妹のピアノを弾いているか？そのピアノは彼女が礼拝に使用するものだ。」

それが私に、だまれ、と言ったので、私は非常に腹が立ちました。

「何だって？お前は私を馬鹿にする気か？お前はおしまいだ！」

私はそれを追いかけて行って掴み、首をひねって床に打ち付けてやりました。

他に3つの悪鬼が現れました。

1つは骸骨の形をしていて、額に目が1つ付いていました。

それが翼でコウモリのように飛び回りました。

それがピアノの椅子に着陸して、ピアノを弾き歌い始めました。

その歌声は気味が悪くて、音楽もリズムがはずれていました。

「ヘイ、そのピアノはジューンのものだよ。なんでそれを触っているの？私が祈りに集中できないじゃないの！」

と私は叫びました。

彼らが話し合っているのが聞こえました。

「あの子は集中できないんだと、なら、うんと弾いてやれ。」

彼らは一緒になってピアノのキーを強く打ち鳴らしました。

私はピアノが壊れるかもしれないと心配になりました。

私は彼らに言いました。

「私の言うことが聞けないのか。」

私は彼らのところに走って行って、両方をぐいっと掴み、一匹を遠くへ投げ飛ばし、もう一匹を蹴飛ばしてやりました。

彼らは鼻血を出したり、頭に怪我したりで、金切り声を上げながら逃げて行きました。

私は再び祈り始めました。

白い服を着た悪鬼が現れました。口から血を流していました。

それには目がなくて、奇形のように見えたので、私はそれを嘲ってやりました。

悪鬼が言いました。

「ハーク、スンが俺の目をくり抜いたんだ。だからこんな格好になってしまった。なんで笑う？」

それが私に喧嘩を仕掛けて来ているようでした。

私は叫んで言いました。

「私のお婆さんはお前のせいで苦しんでいるんだぞ！なぜ婆ちゃんを地獄に引きずり込んだ？」

その悪鬼は私をからかい、いらいらさせました。

「彼女は地獄の住人さ。それに相応しいのだ。もっと苦しむだろうよ。」

私は猛然と悪魔の顔を力いっぱい引っ掻いてやりました。

悪鬼はたくさん血を流して逃げて行きました。

再び祈り始めると、私は別の悪鬼にいらいらさせられました。

私はいらいらしていて、それに立ち向かいたくはありませんでした。

私は「イエス様の血」と言って、私の権威を使用することに決めました。

しかし、その反応は、「血？だれの血だよ？イエス様の血？おお、お前の血かい？」

「よし、戦いたいなら、来い。戦ってやる！」と私は叫びました。

悪鬼たちはグループになって私を攻撃してきました。でも、不思議なことに、私がこぶしを振り回すと、彼らはみんなグループになって負けてしまいました。

悪鬼の腹を打てば、目がとび出しまし、

彼らの鼻を打つと、鼻血が出始めました。

脚をつかんで、振り回すと、彼らの脚はゴムのように長く伸びました。

悪鬼たちは負けているにもかかわらず、私を悩ませ続けました。

彼らは私の祈る能力を妨げようとしていました。

私は考えました。

「よし、戦って、どっちが勝つか見てやろう。」

私に近付いて来た悪鬼なら、どれでもお構いなく鼻孔を突き、髪の毛をつかみました。

私は手足を武器として用いました。

奇妙なことに、私が彼らを打ち負かし続けていると、彼らの数が増加するのです。

終わり頃になると、夥しい数の悪鬼になっていました。

彼らがすべて一斉にやって来ました。

大急ぎで、私は叫びました。

「助けてください！すぐに、聖霊様！私を助けてください！」

すぐに、主が現れて下さいました。

主はすべての悪鬼を叱って、私を慰めて下さいました。

「ミス斑点よ！あなたが大仕事をやったのを知っていますよ。」

以前、私が他の教会に通っていたとき、大抵の人が私にあまり利口じゃないと言いました。

私に祈りと伝道することを教える代わりに、彼らは食べ物くれたただけでした。

彼らは物質的なものだけで私を助けようとしていました。

だから、私がしなければならぬすべてのことは、礼拝に自分の聖書を持って行くことだと思いました。

しかしながら、イエス様の教会の牧師の指導によって、私は異言で祈り始めました。

異言で祈り続けるにつれて、さらに深いレベルの祈りを得ることができました。

今では、私は悪鬼を見ることができ、彼らと戦うこともできます。

私が戦いに負けるか、疲労を感じる時にはいつでも、私がやるべきことは主イエス様の御名を呼び求めることです。

彼はいつも私を守って下さいます。

初めは、無数の悪鬼が攻めてきた時には私は怖くなりました。

しかし、今ではイエス様が一緒にいて下さるので恐れは全くありません。

事実、悪鬼たちに対する勝利は実におもしろくてスリル満点になりました。

キム、ジュン: *禿げ頭の悪鬼が現れた。

今日、若い少女に変装した別の悪鬼が現れました。彼女は口を大きく開いていました。

私は彼女に対して怒りを爆発させました。ほおが膨れ上がるまで彼女の顔を強く打ち叩いてやりました。

私は叫びました。

「お前はユークン姉妹のほおを叩いたろうが？もっとひどい罰を加えて、お前をさらに痛めつけてやるぞ！」

彼女は泣き叫びました。

「すみません。二度とユークンを叩きません。本当です！」

私は答えました。

「よし、OK お前は生来の嘘つきだ。」

私は彼女の髪を全部引っかき抜いて、ピアノに向けて彼女を投げつけました。

その時、長い白髪とオレンジ色の目をした頭蓋骨の悪鬼を見ました。

私はその目を突(つつ)いてやりました。すると、悪鬼は耐え難いほどの痛みでヒステリックに跳び跳ねしながら逃げて行きました。

*勝利の教会

私が祈り続けていると、花のような快(こころよ)い匂いがしてきました。

主が来られました。そこで私は彼に尋ねました。

「この甘い香りは、主よ、あなたから来るのでしょうか？」

主は答えられました。

「はい、そうですよ、そばかすよ。あなたはそのにおいが好きですか？」

私はうっとりしながら答えました。「はい、主よ、本当にいい匂いがしますわ。」

イエス様が私に言われました。

「あなたは今日は熱心に祈っていますね。あなたに何か特別のものを示して上げましょう。あなたの教会と韓国の諸教会の状態を注意深く見てご覧。」

主が彼の手を上げられると、すぐにビジョンが与えられました。

遠くに地球が見えました。地球の両側に1匹ずつ2匹の悪鬼が見えました。

彼らは地球全体に縄を振り回して、縄跳びのようなゲームをしていました。

近付いてよく見ると、縄のように見えたものは実は長い蛇でした。

悪鬼たちが縄を振り回すと、韓国の多くの教会がジャンプしているのが見えました。

順番が回って来ると、踏み外して失敗しないように、ジャンプ、ジャンプをしました。

最初はどの教会も失敗しませんでした。縄のスイングが続く間に、彼らは踏み外して失敗してしまいました。

私たちの教会さえジャンプしているのが見えました。

私たちは蛇の体によって踏み外すことはありませんでした。

イエス様の説明によると、悪鬼によるスイングは勝利するための試みでありテストでした。

教会が踏み外して失敗しなかったなら、それは、教会が試みに打ち勝って、勝利したことを意味しました。

イエス様の教会は会衆の人数が最も少ない教会でした。

他の教会にはずっと多くのメンバーがいましたが、彼らはしばしば踏み外して失敗しました。

イエス様が言われました。

「イエス様の教会は大いに勝利します。いろいろの異なった試みが降りかかっても忍耐してジャンプをし続けなさい。今日、あなたは居眠りしないで、長い時間祈りました。だから、あなたにこれを示しました。真剣に祈りなさい。」

リー、ハークスン: *エンターテインメント産業のキャラクタに似ている悪鬼たち

私が祈っていると、悪鬼が私の方に近づいて来ました。

私は地獄にいる祖母を見た後だけに非常に腹が立ちました。それで、私はこの悪鬼に対して怒りを爆発させました。

そいつの両目をくり抜いて投げ捨ててやりました。

この戦いの間、私は刀のことを考え始めました。すると、刀が私の手に出現しました。

私はそいつの腕を切り落としました。私がいろいろのタイプの武器を使用することを考えると、いつでも、それが私の手の中か横に突然現れるのです。

主が要望に応じて下さり、これらの武器を私に下さるのでした。

私は長い間戦ってきたのですが、そのことには全く気付かないまま、偉大な経験を積んできていたのでした。

また、私は確信と大胆さをも獲得しました。

純白のドレスの若い少女に変装した悪鬼が私に近づいて来ました。

彼女はホラーテレビドラマのキャラクターにたいへんよく似ていました。

私はそれらの悪鬼がエンターテインメント産業によって作成されたキャラクターとあまりにそっくりなのに驚いてしまいました！

こいつは有名な韓国のテレビのホラーシリーズに登場する者たちの1つによく似ていて、死後に魂たちを地獄に引きずり込む者でした。

ビジョンでは、年配の男性が祭壇の下で出血して床に横たわっているのを見ました。

年配の男性を襲撃して、その悪鬼はドラキュラのような牙を用いて、彼の血を吸いました。

血がなくなると、彼女は彼の肉をむさぼり食べ始めました。

*悪鬼の針の刺し傷

別の悪鬼が現れました。体中にハリネズミやヤマアラシのような針がいっぱいありました。私はそいつ目がけてこぶしを打ち付けました。私が悪鬼に触れたとき、私のこぶしが針に刺されて非常な痛みを感じました。私たちの祈りの集会後でも、私の手は痛みました。赤く腫れ上がって針の跡が見えました。彼らが私の体に物理的な形跡を残して、肉体的な苦痛を発生させることができることに私は驚きました。

キム・ヨン ドゥー牧師: *手の動きと振動

私が異言で熱心に祈っていると、私の両手が小さな上下動を始めました。間もなく、両手のひらが向かい合って激しく揺れました。時間がたつにつれて、それがいよいよ激しくなっていました。ある牧師が癒しのミニストリーを行うのを目撃した時のことを思い出します。彼の両手も震えていました。彼の手が震えている間に多くの奇跡が起こりました。これは癒しの賜物が発展する途上にあるに違いないと、私は結論を下しました。私の両腕と両手が聖霊の指示によって自由に動きました。私が目を開けて見、また、その動きに抵抗しようとしたのですが、私の意志と考えにもかかわらず、聖霊が私を導かれました。私の意志と考えは付随的なものに過ぎませんでした。

ペク、ボンニョ姉妹: *主が私の信仰をテストされる。

私が祈っていると、イエス様が来て言われました。
「ボンニョよ、今日はあなたの信仰がどれほど成長したかを確認するためにあなたをテストしたいと思います。いいですか？」
私は確信をもって答えました。
「はい、主よ。よろしいです。」
彼が消えて、天使たちが来ました。そして、私に翼のある衣を着せてくれました。それが終わると、天使たちも見えなくなりました。

いつもなら、イエス様と彼の天使たちは私を天国か地獄に導いてくれるのですが、今回は違います。私は熱い心で神様を大声で呼び始めました。私の魂が、翼の付いた衣を着て、天国に向かって飛び始めました。しかし、どんなに熱烈に祈っても、飛ぶのはとてもゆっくりでした。これにはいらいらしたのですが、私は諦めないで、熱心に祈り続けました。すぐ、私は疲れ果てていました。何も見えません。ただピッチのような暗闇だけでした。

主が私の信仰をテストしたいと思っていると言われたのを思い出して、私は祈り続けました。残念ながら、ありとあらゆる障害が起こって、気付いてみると、私は元のスタート地点に戻っていました。

今までは、私が教会で祈るといつも、主が私のところに来て下さって、なんでも私に見せて下さいました。私は知らない間に傲慢になっていたのです。私は、先ほど天使たちに翼の付いた衣を着せて貰っている間に、彼らに質問したことを思い出しました。私は、イエス様はどこにおられるの、と尋ねました。彼らは答えました。
「たった今、彼は、天の川の中であなたに会うのを待っておられますよ。」

残念ながら、その時は私がいかにゆっくり動いていたので遅れてしまいました。
私の信仰だけで、私はそんなに高く飛び上がることはできませんでした。

私は長い間熱心に祈りましたが、まだ何も見えませんでした。
私の心にいろんな考えが浮かんできました。そして、私は悔い改め始めました。
イエス様の助けがなければ、私は何もできないのです。
私は絶え間なく泥沼の中に沈んで行く感じがしました。
そんな気持ちがしばらく続いた後で、私はどこかに閉じ込められていると感じました。
目の前で何かが動いていました。私は地獄にいて、暗いセルの中に閉じ込められていたことがわかりました。

この暗闇では何も見えません。
悪鬼たちが私の周りに群がっています。
無数の悪鬼たちが私の足をしっかりと掴んで、私を行かせまいとしました。
私の首を絞めて息ができないようにし、私の手や足や体を引っ張って全く動くことができませんでした。
私は異言で祈り始めましたが、突然、無意識のうちに、呪いが私の口から流れ出てきました。

「ヘイ、お前たち汚らしい悪鬼どもめが！なんで私を苦しめるのさ？とっとと失せろ！」
私は呪いのを止めることができませんでした。
私がイエスに会う前、過去に使っていた汚らしい言葉がすべて、私の口を衝いて出て来ました。
私が悪鬼たちをどんなに罵(ののし)っても、彼らは情け容赦ない攻撃を止めませんでした。
私は大声で叫びました。
「イエス様、私を助けてください！」

私は主を呼び続け、異言で熱心に祈りました。
ほんのわずかの時間の後に、私は地獄からなんとか逃げ出して、天国に向かって飛んでいました。
私は飛んでいる間祈っていました。
空中では、強くて強力な悪鬼たちが後ろから追い掛けて来ました。
彼らの後ろには限りない悪鬼たちの行列が見えました。
私は地獄から逃げ出せたので安全だと思っていました。
しかし、私は最強の悪鬼たちと対峙しなければなりません。
これは大変なことになったと思いました。

まだイエス様も天使たちも見えません。
私は考えました。
「私は単独でこの悪鬼の軍隊に直面しなければならない！」
私がこんな戦いに直面するとは思っても見ませんでした。
私は空中に悪鬼たちの軍隊がいるとは知りませんでした。彼らの目的はクリスチャンたちの祈りの生活を妨げるためなのです。
子供が両親の手を取って嬉しそうに歩くように、イエス様はいつも私の手を取って、天国と地獄をガイドして下さいました。
私は非常にナイーブでした。すべてが簡単だと思っていました。
私は注意を払わず祈りました。

悪鬼たちは私が前進するのを妨げるために、私が少し進む度毎に、たくさんの障害を設置しました。
私は大声で叫びながら熱心に祈りました。
涙と汗が体から流れ出ました。
一匹の悪鬼が叫びました。
「ヘイ、あそこを見ろ！地球からの別の祈りが昇って来るぞ！」
他ののが答えました。
「ヘイ、あの祈りには力も権限もありやしない。」

まるでりんごをちぎって食べるように、悪鬼たちは地球から上って来る祈りを掴んでは「食べました。」

その時、私はパワーのない祈りが役に立たないことを知りました。

居眠りしながらの祈り、焦点の合っていない祈り、人間的な願望に満ちた祈り、利己的な祈り、物質的な願望の祈り、偽善的な祈りはすべて効果がありません。

驚くほどに、私は地球から昇って来るいろんなタイプの祈りを区別することができました。

効果のない祈りは、悪鬼たちの大好きな「果物」であって、彼らがすぐに食べてしまいました。

生死に関わる必死の祈りと誠実な叫びの祈りだけが空を貫いて、天に達することが、今、分かりました。

牧師が祈る際に、あれほど大声で必死に叫ぶ理由を学んだ次第です。

私はしばしば牧師の祈りにいらいらしながら考えていました。

「多くの人がここにいる訳ではないのに、なぜ、彼はあれほど絶叫するんだろう？彼はあんなに大声で叫ばなければならないのだろうか？」

正直なところ、私は牧師のやかましい叫び声にいらだちながら、自分に祈りを強制したことが何度かありました。

私はいらだちを悔い改め始めました。

私たちはあのよう祈る理由が確かにあるのです。

私は時間がたつのも気付かずに祈り続けました。

私が疲れ果ててしまい、力もなくなってしまったと気が付いたちょうどその時、遠く天の川の方からたくさんの星が明るく光り輝いているのが見えました。

すぐに、私は内にわずかに残っている力を掻き集めて、異言で祈り始めました。

天の川に到着した時には、私は疲れ果てていました。しかし、そこに最愛のイエス様が嬉しそうに私を出迎えて下さいました。

イエス様が私を見るとすぐににこやかに笑って言われました。

「**ボンニョ、よくやった。あなたを誇りに思うよ！**」

私はその時少し怒っていました。私はある態度でイエスに質問しました。

「主よ、あなたは どうしてこんなことをなさったのですか？説明して下さいればよかったのに。」

「なんの警告もなしに、なぜ、私を置き去りにされたのですか？」

私が話し終えると、イエス様はただ笑っておられました。

主はこの後、わずかばかり話しをされてから、再び姿を消されました。

突然、すべてが暗くなりました。そして、私は地獄の崖っぷちに立っていました。

主は、再び、私の信仰をテストするために私を置き去りにされました。

すぐ、イルカに似た悪鬼が私に襲撃を試みました。あぐりと口を開けて、鋭い歯を見せながら、私に噛み付こうとしました。

私は引っ掻く格好をしながら叫びました。

「やるなら、来い。」

悪鬼はすぐに消え去りました。

私の前に細い道がありました。

私はその道を前に歩き始めました。しばらく歩いていると、何かが私の方に近づいて来るのに気が付きました。

それが近づくにつれて、様子が見えてきました。それは頭があるにもかかわらず、目も鼻もないいやな悪鬼でした。

その悪鬼の左耳から右耳まで大きな切れ目があって、その歯は鮫の歯のように鋭い歯をしていました。

その悪鬼と顔と顔を突き合わせたとき、私は言いました。

「へい、私はお前より遙かに大きな悪鬼と戦って勝ったぞ。お前なんか屁でもない。私の中には三位一体の神によって創造された火がある。私の体に触れてもしたら、お前は焼かれて灰になってしまうぞ。来て私と戦ってみろ。」

悪鬼は恐れてすぐに逃げ去りました。

私は独りで限りない道を歩きました。すると、私は地獄の深みに入り込みつつあるようでした。私は怖くなって内側では震えていましたが、怖がるのを見せたくはありません。私は穏やかさを保ちつつ、身を引き締めました。

私は道に沿って歩き続けました。前方に生きているように見える大きな葉が見えました。葉は開いたり閉じたりを繰り返して、私を呑み込もうとしました。しかし、私は叫んで言いました。「よろしい！私がここに来たからには、お前を殺してやる！だれが生き残るか見よう！」私が力まかせに反撃したので、悪鬼はすぐに消え去りました。

私はさらに進んで行きました。悪鬼たちが群がっていました。彼らは昆虫のようにして道の両側から私を掴もうとしました。悪鬼たちの恐ろしい叫び声が聞こえて寒気がしました。いろいろの叫び声が聞こえましたが、私はそれを無視して、大声で異言で祈りながら、歩き続けました。私は叫びました。「三で一の神よ！私に力を下さい！物理的で霊的な強さとパワーを下さい！」私は真剣に祈りました。すると、すぐに、聖なる炎が私の内側で燃え上がってきました。

これまでどれくらいの旅をして来たのだろう思っていると、遠くに道の終点が見えて来ました。突然、明るい光が私の前に現れて、そこにイエス様がおられました。私は感嘆の念に打たれました。「はい！主よ、私は遂に救われました！」私はイエス様に走り寄って抱きつきました。主は私を彼の腕にしっかりと抱き締めて言われました。「**私の最愛のボンニョよ、ここに来るまでにたくさんの所を通して来ましたね！私の横に座りなさい。あなたを休ませて上げよう。**」私は主の御腕に寄り掛かって、目をつぶって休息しました。

また、始まるのかな？私が目を開けると、どこを探しても、主はおられませんでした。私は考えました。「こんな暗い地獄から、私はどうやって戻ることができようか？」私がどんなに大声で主に叫んでも、空しいこだまだけが返って来るだけでした。主を呼んでも、彼はそこにおられませんでした。私はイエス様に騙されたのかも知れないと考えない訳にはいきませんでした。イエス様がはっきり言われました。「**ボンニョよ、あなたはよくやった。ほとんど終わったから、辛抱してここで休みなさい。**」彼がこう言われて後、私が安全だと感じている時に、彼は再び私をテストされたのでした。

私の怒りは未解決のままでした。私は動物園の動物のように金網の檻の中に監禁されたことが分かりました。いろんな格好をした無数の悪鬼たちが私の檻を取り囲んで、じろじろと私を見ながら、私に尋問してきました。彼らは私を見ながら小突いては笑いものにしました。頭蓋骨のヘルメットをかぶった何千からなる軍隊の悪鬼がいました。

私が金属の檻の中に監禁されている間、悪鬼たちは私をじっと観察していました。

私は怒鳴りつけました。

「ヘイ、お前たち、ろくでなし、お前たちはどこから来た？」

彼らは答えました。

「俺たちはあちこち歩き回ってからここに来たのさ。お前はどうかだ、なんでここにいる？」

私はイエス様が私を地獄に連れて来て、ここに残して行ってしまわれたことを話しました。

これを聞くと、彼らは私を嘲って言いました。

「ヘイ、お前の主は戻っては来ないぜ。これでお前の終わりさ！」

私は異言で大声で祈り始めました。

頭蓋骨のヘルメットをかぶった悪鬼たちの目が赤くなり始めました。

彼らは怒って私を見つめました。

異言で祈るパワーが悪鬼たちを圧迫して、彼らに変形するのが分かったので、私は尚一層大声を出して祈りました。

「三一の神よ、私を赤々と燃える火に変えてください！」

すべての悪鬼が金属の檻をとり壊そうとそれに襲いかかりました。

しかし、私の中で燃える聖なる火がみんなを焼き尽くして灰にしていきました。

檻の鉄の棒は破損もせず元のままでした。

再び、いろいろな動物の叫び声と悪鬼たちの声が辺りに反響しました。私がここにもう何カ月もいるような気がしました。

私がどんなに叫んでも、足をばたばたさせて泣き喚いても、地獄の檻の外に出ることは出来ませんでした。

徐々に、私の魂は疲労で苦しくなってきました。

熱心に主を待ち望む気持ちから燃える心の痛みに変化してきましたが、私は祈りを止めることはできませんでした。

私は祈りました。

「主よ、私は力が必要です。力を下さい！また、癒しの賜物を下さい。そして、私がここから逃れるため金属の檻を溶かすことができるように、火で私を満たしてください。」

私は目を開けました。依然として、私はまだ檻の中に監禁されていました。

地獄の檻の中にはどんな夢も希望もありません。

どんなに大声で主を呼んでも、まだ私は檻の中に捕らわれたままです。

これは私が地獄で永遠に苦しむことなんだろうか？

私は身動きできないほどに弱って、隅の方にうずくまっていました。

まるで4カ月ほども檻の中に捕らわれているような気分でした。

しばらくして、再び、私は叫び始めました。

「主よ、私を助けて下さい！あなたはどこにおられるのですか？」

私の主の影さえ見えません。悪鬼たちは私の体を引っ張ったり突いたりしましたが、私は15日間彼らと戦いました。檻の中では、日々の過ぎ行くのがはっきりと感じられました。

「主よ、助けて下さい！お願いです、私をここから出してください。ここから逃げ出すのを助けてください！」

私は自分に祈っていました。

だれかが笑っているのが聞こえました。

私は叫びました。

「ワー！これは主の声だ！」

主が輝く光の中から現れて、暗い檻の中と私の周りを明るく照らしました。

イエス様は大声で笑い始められました。そして、言われました。

「**愛しいボンニョよ、地獄での経験はどうでしたか？**」

私は主を問い詰めました。

「おお、主よ、あなたは私に何をしたんですか？私を苦しみに遭わせようとしたんですか？なぜこんなことをされたんですか？」

私は苦情を言って、とても悲しくなりました。主は答えられました。

「**すみません。どれほどあなたの信仰が成熟したか、あなたを個人的にテストしたかったのです！」**」

私はそれに何も言うことができませんでした。

主はどこにおられたのですかと質問したところ、彼は地球上のいろんな教会を訪問して、愛しい群を顧みたり面倒を見たりしていたと答えられました。

私は私の最も深い内側にある気持ちを告白して、彼の赦しを求めました。

「主よ、私はこの地獄の檻の中に捕まっている間に、私はあなたに憤慨して苦い思いになっていました。私を赦して下さい。」

私の感情が燃え上がって、苦情を言う気持ちと自己憐憫で、私の話しの調子が変わりました。

「主よ、私は4カ月の間、檻の中に閉じ込められていたんですよ。」私は涙が流れてきました。

主は、さらに大声で笑い続けられたので、私は叫びました。

「私が悲しくて惨めな思いをしているのに、あなたはなんでそんなにハッピーなんですか？私は地獄でとても苦しんだんですよ。何がおかしくて、笑うのですか？あなたは、私が苦しんでいるのが、おもしろいのですか？」

彼は優しく答えられました。

「ボンニョよ、あなたが教会に行き始めて、たった2カ月ですが、あなたの信仰はとても成熟しました。私はあなたを誇りに思っていますよ！」

彼はそっと私の背中をたたかれました。

イエス様は天使たちに、私が地獄で着ていた戦いですり減った衣を取り去って、綺麗な輝く翼の付いた衣を私に着せるようにと命じられました。

彼が言われました。

「あなたはとても辛抱した、だから、さあ天国を訪問しよう！」

彼は私の手を取られて、私たちは天国に向かって飛び始めました。

今日は、私がこれまでの人生で経験した中で最も厳しい日でした。

私の魂が地球から天の川まで行くのに3年かかりました。また、地獄では4ヶ月半過ごしました。

合計3年半が瞬間に過ぎたようでした。

空中の悪鬼たちと地獄の邪悪な悪鬼たちはすべてタフで強力でした。

主の保護がなければ、私は悪鬼たちと1分、いえ、1秒でさえ戦っていることはできません。

私が天国に到着したとき、多くの天使たちが微笑んで私を慰めてくれました。

「姉妹、よくやりましたね！」

天使たちの言葉は私の霊を高く引き上げてくれました。

天国にいるといつでも、私が地獄で経験した苦難はことごとく忘れてしまいます。

私は教会に通い始めて2カ月しかたっていませんから、あまり知りません。

映画と説教で見たものから、海を分けたモーセという人について少し学びました。

私は一度だけモーセに会いたいとイエス様にお願いしました。

イエス様は私を金の砂浜に導かれました。

天使たちは私を親切に海岸まで連れて行ってくれました。

イエス様がモーセの名を呼ばれると、彼が私の方に近づいて来て、うやうやしく私を迎えてくれました。

「天国へようこそ！」

モーセは非常に背が高く素敵でした。

***天国のモーセの奇跡を目撃する。**

イエス様は私をモーセ殿に紹介して下さいました。

私は言いました。

「モーセ様、あなたをよくは存知ませんが、私の牧師からあなたのことは説教でお聞きしておりました。」

彼が答えました。

「おお、そうですか？姉妹よ、あなたがここにいるのを嬉しく思います！」

私は続けました。

「あなたが地球におられたとき、あなたは海を分けたり、たくさんの奇跡を行われましたね？」

モーセ殿は謙遜して答えられました。

「私は何もしませんでした。私に力を下さったのは神です。私がしたすべては従うことでしたよ。」

私は言いました。

「私はまだ 2 カ月しか教会に通っていませんが、あなたのことを聞くと、すぐにあなたにお会いしたくなりました。でも、主はいつも私を地獄訪問に連れて行かれましたので、あなたにお会いすることが出来ませんでした。あなたの奇跡をいくつかを見せて戴きたいのですが、お願いできますでしょうか？」

イエス様はモーセ殿が金の砂で巨大な山を造ることを許可されました。

一瞬の間に、2 つの山の頂上が出現しました。

600 階建ての家を造って下さい、とお願いしました。

彼が空中に手を上げて一度振り回すだけで、680 階建てのアパートが出現しました。

私はあっけにとられました。

彼は私のために地球から天国へと導く金の階段を造ってくれました。

モーセ殿は言葉では説明できないような他のたくさんの奇跡を行ってくれました。

私は言いました。

「モーセ様、私の未熟な信仰で申し訳ありません。あまりにたくさんの質問をして、あなたをテストしたりしてあなたを困らせてしまって失礼しました。」

彼は応えました。

「何も心配ありませんよ。まだ質問があるなら、遠慮なく尋ねてください。」

聖書に書いてある海が別れところを見たいですとお願いしました。

彼は天国の海を二つに分けました。それを現場で目の当たりにするとは、実に壮観でショッキングな経験でした。

イエス様は私の横で静かに見ておられました。

「イエス様、モーセ殿、私は信じて間もない者であり知りません。それで、私の要求は出しゃばりかもしれませんが、どうかお許し下さい。すみません。私が教会に戻って、私が見たものを録音して牧師に交わります。こうやって彼は世界に知らせることができるのです。」

イエス様とモーセ殿の二人は感激して喜んで下さいました。

イエス様が言われました。

「**モーセよ、ペク、ボンニョ姉妹は地球に戻らなければならないから、彼女にさようならを言いなさい。**」

モーセはうやうやしく頭を下げて、「姉妹、さようなら。」と言いました。

イエス様は私に説明して下さいました。

「**天国でもモーセはいつも忙しいのです。彼は天国中を旅行しています。面倒を見なければならないことがたくさんあるのです。**」

私は、天国のモーセ殿に会ったことは決して忘れないでしょう。

イエス様は私を教会まで導き戻して下さいました。そして、私は祈りを結びました。

23 日目

(1 ヨハネ 3: 7-10)「**7 子たちよ、だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行う者は義人である。**

8 罪を犯す者は、悪魔から出た者である。悪魔は初めから罪を犯しているからである。神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしまうためである。

9 すべて神から生れた者は、罪を犯さない。神の種が、その人のうちにとどまっているからである。また、その人は、神から生れた者であるから、罪を犯すことができない。

10 神の子と悪魔の子との区別は、これによって明らかである。すなわち、すべて義を行わない者は、神から出た者では

ない。兄弟を愛さない者も、同様である。」

キム・ヨン ドゥー牧師: *カン、ヒュンジャ夫人が油断をしていて悪鬼から不意打ちを食らう。

午前 11 時頃、妻、ジョゼフ、ジューン、私は農協の建物の向かいにあるレストランの前で立っていました。妻が前に進んだ時、彼女は何かにぶち当たって地面に倒れました。妻は硬いアスファルトの道路上に転倒してから、氷の上を滑るように 5 メートルほど滑りました。彼女が転倒したとき、それがあまりにも瞬時に起きたため、私たちは彼女を抱き留めるチャンスがありませんでした。彼女が悲痛な叫びをあげましたので、すぐに、私たちはみんな走って行って助け起こそうとしました。彼女は掌を擦りむいており、指の爪が剥がれて、腕は血だらけでした。

私たちは、そんな酷い転倒を引き起こしたものが何なのか道路上を探しました。しかしながら、道路は非常にきれいで、平坦であり、いい形をしていました。これを引き起こした物的証拠は何もありませんでした。

その後、ジューンはこのことでイエス様に尋ねました。主の説明によると、私たちの日課は教会へ行くこと、祈ること、家に帰ることから成っていて、私たちには少しのレジャー時間ありません。レジャー時間がなければ、悪霊たちには弱点を見つける機会がほとんどありません。しかしながら、今日は久しぶりに、私たちの霊的な日課から踏み出して、家族はレジャーの時間を取ったのでした。私たちの日常の習慣を外れたのを(見て)、悪霊が彼女を打って、彼女は転んだのでした。

イエス様は私の妻の負傷した掌に触れて下さいました。私も妻を慰めました。「愛する妻よ、神に感謝を捧げよう。私たちは、警戒を怠ったことを悔い改めなければならぬよ。そして、主に感謝を捧げよう。彼はもっと大きな恵みを下さるよ。終わりまで忍耐して、勝利を得よう。」私が彼女を元気づけてから、彼女はひざまずき、怪我をした手を上げて、主に感謝を捧げました。

悪霊たちが私たちをひどく攻撃して妨害するからには、私は常に注意深く、用心深くしようと決心しました。私たちが警備を怠ると、すぐに悪霊たちは攻撃して来でしょう。私たちが祈りを 1 日ミスするなら、私たちの心は弱くなり、攻撃を受けることになるのです。悪霊たちは弱い瞬間を覗いているのです。ですから、私たちを常に完全武装していなければなりません。

私たちの祈りの集会の残りはあと 1 週間になりましたが、攻撃はいよいよしつこくなってきました。私たちは皆、霊の目がひとりひとりと開かれてきました。敵はこれを大いに恐れましたが、その攻撃は貧弱なものでした。私たちの祈りはますます強くなり、私たちの信仰は成長しました。さらに強い霊たちが派遣されて来ました。そして、私たちの戦いは絶え間なく続きました。

午後、突然、私はジョゼフの足のひどいイボを見たくまりました。これまで私たちはそのために集中して祈ってきたのです。私はそれを見てびっくりしました。皮膚の中にあったイボが、今やその根が外に露出していたのです。私の霊の目で、イエス様が毎日ジョゼフの足の裏にご自身の血を塗って下さっているのを見ることができました。私は言いました。「ワー！すごい。ジョゼフ、皮膚科の先生のところに行って、証しをしてくるべきだなあ。」

その後、私の妻が咳をして痰を出し始めました。
ジョゼフ、ジュン、私とは彼女の首に手を当てて熱心に祈りました。
純白のドレスを着た長い髪の少女の形をした悪霊が私たちの前に現れました。
この霊こそ妻がつかずいて転んだ原因でした。
この霊が彼女を押したのです。そして、今度は妻の首を攻めて痛みや咳や痰を引き起こしたのです。

私は片手を彼女の首に置き、もう一方の手を振りながら祈りました。
するとすぐに、その悪霊が叫びました。
「キム牧師、お前の手を離すのだ！すぐに手を離せ！祈るのを止めよ！おお、熱い、私は気が狂いそうだ！」
それが金切り声を上げて消え失せました。

イエス様が来て言われました。
「私の子供たちよ、悪霊は逃げて行きました。しかし、その悪霊が痛みを残して行ったので、しばらく、それを我慢しなければならぬよ。絶え間なく祈ると、早く治るから心配は要りません。」
それから、イエス様は何か質問はないかと尋ねられました。

キム、ジュン:

私は尋ねました。
「イエス様、天の私たちの家と宝物蔵はどれくらいの大きさですか？」
イエス様は答えられました。
「祈ってから、天国に行く自分の目で確かめてはどうですか？今はあなたに見せることはできないよ。信仰と熱心さによって、答えを知ることができるように求めなさい。そうすればあなたの霊の目が開かれます。そうなれば、天国に来て、答えを見ればよろしい。」

「イエス様、父の祈りはどれくらい進歩したのですか？」
主が答えられました。
「キム牧師が祈ると、聖霊が顕現します。牧師の両手が様々な動きをします。これは癒しの賜物が彼に来たということです。しかしながら、これがキム牧師の最初の経験なので、彼は祈りの間、目を開けています。だから、彼の祈りは御座までは届かず天の川止まりです。
もし彼が祈り続けて、手の動きに気を取られずにいれば、彼はすぐ霊的に開かれて、天国を訪問することができます。」

主はジョゼフ兄弟の悔い改めは非常に弱いと言われました。
主は彼に心から真剣に悔い改めるようにと言われました。
しかしながら、神様は母の涙ながらの悔い改めと同情的な祈りに満足されました。

私は言いました。
「イエス様、私の父方の祖母は執事ですが、彼女は飲み過ぎのように見えます。」
主が答えられました。
「あなたのお婆さんの中にアルコールの悪霊がいます。キム牧師に祈る時間があるときにはいつも、彼女のことを祈るべきです。また、彼が彼女に救いと信仰の確信を告白するように導くべきです。」

キム牧師:

(ヤコブ 4: 4-5)「**4 不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと
思う者は、自らを神の敵とするのである。**

**5 それとも、『神は、わたしたちの内に住ませた霊を、わたむほどに愛しておられる』と聖書に書いてあるのは、むなし
い言葉だと思ふのか。」**

*牧師と教会のメンバーとの不倫

牧師たちのダーティな秘密が新聞の見出しに載ったり、テレビで暴露されたりするのを見ると私の心が痛みます。
そんな時、私はテレビを消すか、新聞をシュレッダーにかけます。私の家族がそれを嗅ぎつけるのが嫌だからです。

私は牧師として非常に恥ずかしく困ってしまいます。

私は戸惑ってしまって、どうしたらよいか分かりません。

私も牧師ですから、私が暴露されたような気がするのです。

私には他の墮落した牧師の汚い隠された秘密を議論したり暴露したりするような気持ちは全くありません。

しかしながら、主はこの本に詳細を記録するようにと私に強く要求されました。

イエス様は、私たちが姦通の罪を決して犯さないようにと命令されました。

無数の人々が地獄に行く中で、その多くが姦淫を犯した人々です。

主が私に思い出させられました。

**「あなたの教会の信者たちで地獄で苦しんでいる姦通者たちを目撃しませんでしたか？姦淫は悔い改めるのが非常に
難しい罪です。」**

主はご自分の民に霊的な姦淫を犯すことを憎まれますが、彼はまた肉体的な姦淫を犯す人たちを尚いっそう軽蔑されま
す。

多くの牧師たちと教会の信者たちは、イエスの御名によって罪を告白すれば、彼らは絶対に赦されると思って欺かれて
います。

その結果、彼らは同じ罪を犯し続け、また悔い改めて、彼らは恵みによって覆われたと考えるのです。

彼らは恵みを踏み付けておいて、再三にわたって同じ姦淫の罪を犯すことをためらわないのです。主は彼らの妄想に憤
慨しておられます。

(黙示録 2: 21-23)「**わたしは、この女に悔い改めるおりとを与えたが、悔い改めてその不品行をやめようとはしない。22 見
よ、わたしはこの女を病の床に投げ入れる。この女と姦淫する者をも、悔い改めて彼女のわざから離れなければ、大き
な患難の中に投げ入れる。**

**23 また、この女の子たちをも打ち殺そう。こうしてすべての教会は、わたしが人の心の奥底までも探り知る者である
ことを悟るであろう。そしてわたしは、あなたがたひとりびとりのわざに応じて報いよう。」**

人がイエス様に来る前、彼らは無知から悪事を働きます。

イエス様を主として受け入れた後にも、同じ罪をためらうことなく繰り返す人々を、イエス様は非常に怒っておられます。

主は怒って叫んで言われました。

**「秘密裏に姦淫を犯す牧師たちを赦すのは非常に難しい。彼らが心から悔い改めないなら、彼らの最後は地獄である
る！」**

私は憐れみの心からお願いしました。

「主よ、彼らは人間です。彼らは肉です。彼らは墮落して、誤りを犯すことがあり得るのではないのでしょうか？

人が死ねば、その人には悔い改める機会はありません。しかし、その人が生きている間に悔い改めるなら、赦されない
のでしょうか？人が悔い改めるなら、あなたが赦すと言っている個所が聖書にはたくさんあります。」

主は答えられました。

「牧師たちは聖書を非常によく知っています。だから、姦淫を犯すなら、彼らは厳しく裁かされます。彼らが赦されるのは困難です。」

私は主にしきりに嘆願をして、引き下がるのを拒否しました。

私はアブラハムがしたように嘆願しました。

「主よ、あなたは正しくてられるのですが、あなたが彼らの過去の罪ゆえに赦さないで、彼らを地獄に送られるなら、それは不公平に見えるでしょう。

彼らの中には、恐らく多くの魂をあなたに導いた人たちがいる筈です。

おそらく、何人かの牧師たちは彼らの教会を適切に導いているでしょう。

姦淫を犯した人々のグループにそんな人がいないでしょうか？」

主は怖い顔で私を叱責されました。

「牧師として、あなたは聖書を知らないのか？」

イエス様は私に思い出させて下さいました。

「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。」(ピリピ 2:12)

主は私を叱責されましたが、私は彼と論争を続けました。

「私の愛する主よ、その牧師たちは彼らの全生涯をあなたのために犠牲にしています。彼らは地球上における彼らの時間をあなたに仕えるために過ごしてきました。あなたは彼らに悔い改めの機会をお与えになるべきではないでしょうか？

牧師は地獄へ行く、と主張したら、だれが私を信じるでしょうか？」

一瞬沈黙がありました。

それから、主は静かに威厳をもって語られました。

「父神は私に同意された。姦淫を犯した牧師たちが心から恐れをもって悔い改めるなら、彼らは赦されます。

しかし、彼らが悔い改めた後に、ひるがえって、同じ罪を犯すなら、彼らは神をあざ笑っているのです！

これは小さなミニストリーであるとか、メガミニストリーであるとかの問題ではない。大きなミニストリーを導いたか、弱いミニストリーを導いたかの問題ではない。

彼らは神が最も忌み嫌う罪を犯したのである。あなたはそのことを覚えておくように。」

あるビジョンの中で、主は教会の若い姉妹と恋に落ちたある牧師を、私に見せられました。

彼らはしばしば会っては性的な関係を結びました。

結局、この事が牧師の妻にばれてしまいました。

彼女は大変ショックを受けて、彼女のストレスが大きくなり、危険な状態になりました。

妻は悔い改めるように牧師に説得を試みましたが、彼は聴きませんでした。

妻は苦痛とショックに我慢できなくなって、遂に鬱になってしまいました。

彼女は自殺しました。不信者がする選択を実行したのです。

現在、彼女は地獄で激しい苦悶の中にいます。

主が言われました。

「私とその娘を見るときは、いつも私の心が張り裂けそうになります。

どうしてその牧師を地獄に行かせられなかったか、ですか？その牧師はまだ奉仕しています。

彼の悔い改めは本物ではありません。今日でも、彼は迷いと自己欺瞞の生活を送っています。

彼の考え方は腐敗しています。だれも私を欺くことはできません。だれも偽りによって真実を覆い隠すことはできないのです。」

***命の書から名前を消すこと。**

かつて、ある執事が私たちの教会にいました。
彼女が忠実に生きている間は、聖霊から多くの賜物を受けました。
しかしながら、賜物がすべて取り上げられてしまいました。
その後、すぐに彼女は頻繁に酒を飲み、喫煙をし始めたのです。
その上、彼女はある男性に毎日電話を掛け、秘かに彼と会いました。
私は、その男性とデートするのを止めるように、彼女を説得し続けました。
私は彼女をどなりつけさせたのですが、彼女は男性に会い続けました。
神様は人々のことで忍耐強いお方です。
しかしながら、人々が悔い改めないなら、彼らは神の怒りに服することになります。
神様はビジョンの中で、彼女の名前を命の書から削除されたのを示されました。
私たちがそれを見たとき、私たちは皆、恐れおののきました。

神様が私たちにチャンスを与えられるとき、たとえ何があっても、私たちはそれを取らなければなりません。
イエス様は言われました。

**「その特定の聖徒が神を嘲って聖霊を悩ませました。
だから、もし彼女が嘆き悲しんで、心から悔い改めをしなければ、彼女は天国には入ることはありません。
もし教会のメンバーたちへの裁きが厳しいのなら、ましてや、姦淫を犯している牧師を私は裁くのです。
牧師たちは死ぬほどまでに悔い改めなければなりません。現代の牧師たちは神を馬鹿にしています。
彼らは言います、『今は恩みの日である。だから、福音は私たちを解放する。
ただ悔い改めよ。そうすれば、無条件に赦される。』今は旧約の時代よりはもっと恐れることが必要です。」**
主は私たちを警告して言われました。私たちの行為について申し開きをしなければならない時が来る、と。

本章を書いていると、私は何時間にもわたる落胆とあつれきを経験します。
イエス様は言われました。

「すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法は確立するのである。」(ローマ 3:31)

事実、私たちは主の驚くべき恵みの中で日常生活を送っています。
しかしながら、彼の恵みの中で生きることは、私たちの罪が消え去ることではありません。
もし私たちが悔い改めないなら、私たちは神の恵みを乱用しているのです。
日々の悔い改めの生活こそは、神の憐れみと同情へと至る最速にして最短のルートです。

***牧師に反対する人々** (霊的な権威)

私自らが牧師であるため、牧師の見解からこの本を書いているように思われるかもしれません。
しかし、私には他の牧師の行動を弁護するつもりはもうとうありません。
私はそうするように命令されたから、記録し書いているのです。
如何なる偏見によっても書こうとは思いません。

主が言われました。「**私は奉仕者を訓練します。**」
さらに、主は、彼は牧師を訓練するのに教会の会衆を用いないと言われました。
イエス様は、秘密の罪を犯した者たちを大いに裁き訓練されるでしょう。

主は(1 サムエル 4: 11-22 訳注: 23 日目の最後に掲載)を与えられました。
また、主は、彼が牧師に反対し追放しようとグループになって共謀する教会の信者たちの行動を受け入れもしないし許容もしないと言われました。
(民数記 16: 26-35)でコラとダタンとアビラムを対処されたように、彼は人々を大いに罰せられます。

私は再び主に嘆願をしました。「イエス様、教会の信者たちが無知から時々グループを作りますが、彼らの当初の意図は教会を改善することであったかもしれません。

もしそうであるなら、なぜ彼らは裁かれるのでしょうか？」

イエス様は答えられました。

「教会に関して言えば、人間的な方法で解決はできません。それを受け入れることは決してできません。」

主は追加して言われました。聖徒が前あるいは現在の牧師に反対することによって霊的な権威を危険にさらすなら、その人が恐れおののいて悔い改めなければならない。さもないと、その人は地獄に行く危険があります。

その後、彼は忠実、真実、注意深く生きなければなりません。

また、会衆に霊的な権威を危険にさらすことを許容した牧師も、会衆以上に、心から悔い改めなければなりません。

メンバーと牧師すべてが恐れおののいて悔い改めなければならないと主は強調されました。

彼らがイエス様に祈ってさえおれば、彼がその問題を解決するために介入して下さった筈です。

***主は世界中の教会を訪問される。(黙示録 2: 1)「エペソにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『右の手に七つの星を持つ者、七つの金の燭台の間を歩く者が、次のように言われる。』**

私は主に続けて質問しました。

「主よ、だれかが言っていましたが、あなたは同時に全世界のすべての教会において現れることができになると。これは本当ですか？」

主は答えられました。

「私は霊だから、世の物理学によって妨げられることはありません。私はいつでも、どんな教会、諸教会にも一度に現れることができます。一度に一つの特定の教会ということはありません。私は世界中のすべての教会を監督しています。その霊(The Spirit)は一つであり同じです。その霊は疲れるようなことは全くありません。どんな教会においても、だれかが祈るとき、私は即座に彼らの祈りを聞きます。私は同時に、私の子供たちのすぐ横にいて、そのすべての(祈り)を聞くことができます。だれかが熱心に祈るなら、その人の霊の目が開かれ、そして、時には、その人に天国と地獄を見せることができます。」

キム牧師よ、あなたとあなたの妻は霊の目を継続して求め続けています。

あなたとあなたの妻に私は楽しませて貰っていますよ。

あなたが何度も涙ながらに叫んで、熱心にそれを求めているので、私はあなたに天国と地獄を見る特権を与えようかと考えています。熱烈に祈りなさい。

最初、父神はあなたとあなたの妻が霊的に目覚めることを許可されませんでした。

しかし、あなたとあなたの妻が夜の早い時間から翌朝まで、毎日、非常に熱心に求め、また礼拝しているので、父神は非常に感動しておられました。

あなたは特に大声で叫んでいましたね。

父神が言われました。『私は彼らのような聖徒たちを、他に見たことがない。』父神があなたの霊の目を開く、と述べられました。」

霊的な覚醒には2種類あります。

それは霊の目が開かれている場合と、そうでない場合です。

殆どの教会の霊的な覚醒は霊的な領域を見る能力のない覚醒です。

ほとんどすべての教会はこのタイプの霊的な覚醒です。

このタイプの霊的な覚醒は、聖徒の必要に応じて、聖霊様が印象、確信、御言葉を与えて下さいます。

ある人の霊の目が開かれると、イエス様と会話をすることができます。

韓国には、イエス様の教会以外に、この能力を持っている聖徒たちが少数います。

彼らはイエス様を呼び求めて、彼と話すことができます。

イエス様は言われました。**イエス様の教会の霊の目の開かれた人たちは、主と何度でも話す機会がある。**

キム、ジューン:

(1ヨハネ 5: 1-5)「**すべてイエスのキリストであることを信じる者は、神から生れた者である。すべて生んで下さったかたを愛する者は、そのかたから生れた者をも愛するのである。**

2 神を愛してその戒めを行えば、それによってわたしたちは、神の子たちを愛していることを知るのである。

3 神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない。

4 なぜなら、すべて神から生れた者は、世に勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。

5 世に勝つ者はだれか。イエスを神の子と信じる者ではないか。」

***異なる悪鬼たちとの闘争**

私たちの礼拝のときに、私が神を熱烈に賛美していると、若い少女に変装した悪鬼が私の面前に移動してきました。

私の物理的な目を開けたまま、私は前に突進して行って女の髪を掴んで情け容赦なく彼女を振り回しました。

彼女は金切り声を出していましたが、部屋の隅に向けて投げつけてやりました。

その時、影のような悪鬼が私に近づいて来ました。

最初は、気が付きませんでした。主の助けによって、私はそれをしっかりと掴んで、振り回し、足で踏みつけました。

次の悪鬼が私の視界に入って来たとき、私はその脚をつかみ、首をねじって、打ち叩き、踏みにじってやりました。

それが床一面に血を流しました。

休憩前に、別の悪鬼が現れたので、胃の辺りを殴ってやりました。

それが「痛い！胃が！」と叫んで床に座りこみました。

私は、髪一束をつかんで、それをユーキュンに引き渡しました。

私は言いました。

「姉妹、ここをしっかりと掴んで！」

姉妹が答えました。

「分かった、見えるわ！」

彼女は揺さぶって投げ飛ばしました。

今日、私たちは総攻撃を受けたようでした。

いつもなら、彼らは私たちが一緒に団結して祈り始めるときに現れるのですが、今回は、作戦を変えて、礼拝の始めに、私たちの邪魔をしにやって来たようです。

どういうわけか、今日、私たちは少女の形をした悪鬼をたくさん経験しています。

彼らの一匹が再び私に近づいて来たので、私はそれを掴んで、両ほおをぴしゃっと叩いて、顔を引っ掻いてやりました。

彼女が叫びました。

「痛いっ！痛いわよ！」

彼女が引っ掻き返してきたので、私は驚きました。

私の背中に彼女の爪の傷跡をはっきり見ることができました。

私は、物理的な目で確認してもらうために、牧師と教会のメンバーにそれを見せました。

リー、ユーキュン:

私が礼拝の間に主を賛美していたとき、顔に2つの色を持つ悪鬼が私に近づいて来ました。

顔の半分は白、反対側は黒でした。

それに青色の顔をした悪鬼が加わりました。

私は、即座に2匹の悪鬼を掴んで、容赦なく振り回し始めました。
2色の顔を持つ悪鬼を遠くに投げ飛ばしました。
青い顔の悪鬼は揺り動かすのに我慢できなくて、怒って私の手の甲を引っ掻きました。
手の甲を引っ掻いた後で、私に噛み付いてきました。
私は痛くて叫び声を上げました。
私は非常に腹が立って、それを出来る限り遠くまで投げ飛ばしてやりました。
悪鬼に引っ掻かれた所と、噛み付かれた所を見ると、白い引っ掻き傷があつて皮膚が剥(む)けていました。
指の傷の所が腫れてきました。
集会のメンバーは物理的な傷跡を見てとても驚きました。
悪鬼による傷は非常に痛みました。
私は痛みをこらえようとして涙ぐみました。

リー、ハークスン: *ジョゼフが蛇に噛まれる

ユーキュン、ジュユン、と私は霊の目が開かれていますので、悪鬼、または、悪霊の行動を見ることができます。
しかしながら、ジョゼフは私たちほどはうまく出来ないの、少しストレス気味です
ジョゼフは、祈るときはいつも、聖霊の働きによって、体が火のように熱く感じられると言いました。
彼は礼拝の間、いつも私の隣に座ります。
ですから、祈るときはいつも、私は彼のために特別のお願いをします。

ジョゼフと一緒に主を礼拝し賛美していた時のことです。蛇の形をした悪鬼がすーっと私たちの方に向かって滑って来ました。
それがジョゼフに取り付いて、彼の両脚に巻き付きました。
私が叫びました。
「ジョゼフ、蛇が君の体に巻き付いているぞ！」
彼が答えました。
「何だって？僕には何も見えないよ。」
私は蛇の首を掴んで、それをジョゼフに渡しました。
私が興奮して叫びました。
「これをしっかり掴むんだ。そして、それを地面に叩き付けろ！」
ジョゼフには私が見たものが見えないものですから、混乱気味でした。
彼は現実が理解できませんでした。
彼が言いました。
「ハーク、スン兄弟、僕には何も見えない！」
私が繰り返して言いました。
「ジョゼフ、それを地面に叩き付けるんだ！」
彼は蛇をつかんで、それを揺らし始めました。

この場面を見ている人は、ジョゼフがただ何かを掴まえているふりをして、空中で腕を揺らしているように見えたでしょう。
しかし、霊の目を持っている人なら、ジョゼフが蛇の首を掴んで、それを揺らしているのを目撃したでしょう。
霊の目がないと、この出来事は物質界では説明不可能です。

ジョゼフは蛇が見えないので、空中でゆっくりと両腕を振り回しました。
その結果、蛇は自分で動き回ることができて、彼の腕に巻き付き始めました。
蛇が彼の手を噛み付きました。
今や、彼は本当であることがわかりました。
手の甲に蛇の噛んだ傷がはっきりと現れました。
牙による2つの小さな歯の痕がありました。そして、そこから出血し始めました。
牧師は、何が起きているか悟って、蛇と一緒に祭壇に来るように言いました。

牧師が手を挙げて叫びました。
「イエスのみ名によって！」
この言葉で、蛇は半分に裂け、頭は粉々に潰れてしまいました。
それを見て、私はあっけにとられました。

今日、私たちは悪霊たちと戦うのに何時間もかかりました。
私たちは防戦と攻撃の両方をおこないました。
悪鬼たちを追いかけ、追い出し、打ち負かすのに、私たちは多くのエネルギーを費やしました。
しかしながら、私たちが彼らを掴んで、牧師まで持って行くと、悪霊たちは彼によって弱くされてしまいました。
牧師には聖なる燃える火の賜物が与えられているので、彼が命令すると、聖なる火が彼から出て悪霊たちを焼き、それらは塵(ちり)となって見えなくなります。

*悪鬼狩り。

すべての悪鬼を見ると、私たちはそいつらを捕まえて、牧師が立っている祭壇まで持って行きました。
彼は聖なる燃える火によって彼らを壊滅させました。
これは非常に疲れる仕事で、私たちがまるで総攻撃を受けたようでした。
夥しい数の悪しき霊どもで、とても数を数えることなど、できませんでした。
私たちがどれほど強打し打ち負かしても、さらなる悪霊どもの群が出現しました。
祭壇からは、イエス様が私たちの戦い振りをうなずいて見ておられました。
彼は十字架の前に立っておられました。
私たちは礼拝の最中に、悪鬼たちを追いかけて戦いました。
混乱が生じて、礼拝を終えることができませんでした。
私たちは全員協力して悪鬼を打ちのめしました。

その戦いの間に、ジョゼフは 3ヶ所に負傷しました。2ヶ所は蛇に噛まれたもの、他の1ヶ所は悪鬼の少女による傷でした。
すべての傷から出血していました。
引っ掻き傷と噛んだ傷跡がはっきり見えました。
みな両手の甲にありました。
ジョゼフの傷は大した傷ではないよ、と私たちが言ったので、彼も大した被害とは感じませんでした。
それは名誉の戦傷だと言って、私たちはみんな彼を励ました。

カン、ヒュンジャ:

礼拝の最中に、ハークスン、ユーキュン、ジューユン、ジョゼフが叫びました。
「牧師！カン、ヒュンジャ夫人！悪鬼の群が多数襲撃してきます。どうしましょう？」
牧師は言いました。
「心配しないでよろしい。我々には三一の神がおられる。あなた方すべては戦って打ち破ることができるべきだ。」
子供たちは、「ワー！」と興奮して叫びました。
「よし！汚らしい悪鬼どもめ！お前たちは皆、今日で終りだ！」
彼らはみな部屋中を走り回って悪鬼と戦いました。

私たちの物理的な目で見ると、子供たちが手と腕を空中に振り回しながら走り回っている光景が見えるだけです。
しかし、霊の目で見ると、本当は何が起きているのかを見ることができるとは。

一瞬、私は弱気になってこう考えました。
「他の教会の人たちがこれを見たら何と思うだろう？お客さんや新しいメンバーがこれを見たらどう思うだろう？」
しかしながら、今はそんなことは重要な問題ではありません。
子供たちが悪鬼を追いかけて走り回っている間、私は異言で熱烈に祈り、御霊の中で踊りました。
私は右手が力に満たされたと感じ、何かを掴んだ感覚がありました。
私の手が風車のように回転を始めました。
その回転の速さが増し、パワーも増し加わってきました。
私は、「何が起きたのだろう？」と思いました。

私には何が起きているのか考える暇はありませんでした。
私の手と腕はいよいよエネルギーが増し加わって、ますます速く回転しました。
回転は止まろうとしません。
私はただ座って起こるままにしていました。
私は足で起き上がり、走り回り始めました。
しかし、私の手はまだしきりに回転していました。
ペク、ボンニヨ姉妹の方を見ると、彼女もまた同じことをしていました。
不意に、私の手が椅子の角に当たりました。
物理的な観点からは、私が何をしているのか分かりませんでした。

私は霊の目を開かれた子供たちに尋ねました。
「ジューン、お母さんの腕を見て。なぜ私の手と腕が回転しているの？どうして止まらないの？」
びっくりして、彼女が答えました。
「お母さんは手で悪鬼を捕まえているよ！その悪鬼をもっと振り回しておいて、打ちのめしてやったらいいわよ。」
今の状況を自分でコントロールできる訳じゃないけれど、私はもっと激しく回転させてやろうと思いました。
牧師が言いました。
「カン、ヒュンジャ夫人、回転させながら祭壇の方に来なさい。」
私は祭壇の方に歩いて行きました。そして、牧師が「聖なる火！」と叫びました。
私の手が自然に止まって、悪鬼は打ち倒されました。
それは聖なる火によって焼かれて塵となってしまいました。

本当に、驚異的、驚くべき出来事でした。
見ると、すべての悪鬼が完全に退治されていました。
私たちの霊的な能力が如何にパワフルで強力であるかを再認識しました。

キム、ジューン：*悪鬼たちが牧師の体に触れて灰になる。

夕の礼拝の後、私が異言で祈っていると、一匹の悪鬼が私に近づいて来ました。
私はイエスの御名の権威によってそれを打ち破りました。
しかし、さらにたくさんの群をなした悪鬼たちが、みな白い衣服を着た若い少女に変装して現れました。
私は数えられないくらいのが来たのでびっくりしました。
彼らは4、5人のグループで行進し、階級順に並んでいました。
彼らは少女のようでしたが、顔はそれぞれ違って、ユニークな顔をしていました。
取り囲まれて、私は決心しました。よし、手当たり次第に掴んでは打ち叩いて、引っ掻いてやろう。
彼らは逃げようとしたのですが、私は簡単に彼らを掴んで、猫を振り回すように振り回しました。
それを火で燃え上がっている牧師のところに持って行きました。
彼らは彼がいやで、たいへん恐がりしました。
私が彼らを牧師のところまで持って行くと、彼の体に触れただけで焼けてしまいました。



彼らは叫んで、灰になりました。
牧師は何が起こっているのか全く気が付いていませんでした。
彼はただ祈り続けていました。

私は戦いの間、苛立ちながら考えました。
「今日、私は主に熱心に祈って、天国を訪問できるかどうかお願いしようと思った。しかし、悪鬼たちが私の邪魔をしたので、願い事に集中することができなかった。今日は、天国訪問は中止だ。よし。今日、天国訪問ができないなら、悪鬼で怒りを発散させよう！」
視覚に入った者たちをみな打ち負かしました。

100以上の悪鬼に遭遇し、霊的に非常に困難な日でした。
しばらくして、イエス様が現れて、牧師が祈っていた祭壇の方に行かれました。
牧師は数日前に悪鬼たちから受けた傷の痛みがまだ完全に治っていませんでした。
彼はその痛みにもかかわらず、教会の奉仕と礼拝を導いていました。
祈りでさえ、彼は、痛みで随分弱くなっていました。
イエス様は彼の隣に立って、愛情を込めてご自分の手で牧師の頭、背中、体をさすられました。特に傷のある所はそうされました。
主が牧師を見られるときはいつも、主はとてもしゃいでおられます。
イエス様は牧師と一緒にいるのが好きです。
イエス様は歌を歌うことさえされました。
「傷があるにもかかわらず、あなたはまだ熱烈に祈っています。素晴らしい！」
主はとて嬉しそうでした。

私がそれを見ていると、私がちょっと油断している間に、目に見えない悪鬼が私の右の腕と手をひねり始めました。
その悪鬼の冷たいエネルギーが私の爪先から腕へとゆっくりと広まってきました。
すぐに私は右手をぎゅっと握って、冷たいエネルギーが広まるのを止めました。
私は叫びました。
「イエスの名によって、お前に命じる。汚らわしい悪鬼め、私から離れよ！離れよ！」
冷たいエネルギーの悪鬼はゆっくりと消え去りました。
私が祈っている間、右の手と腕が元に戻るまでどんと叩きました。

*ユーキュン、懸命に悪鬼狩りに挑む

1つの黒い顔と5つの体が結合した悪鬼が私に近付いて来ました。
イエス様の名前を呼び、それを掴んで振り回しました。
男の格好をした白い服の悪鬼が現れました。
その悪鬼は非常に背が高く、まるで天まで届くのではないかと思われました。
私はその2つの悪鬼を振り回しながら、異言で祈り始めました。
私が祈っていると、鋭い角のある悪鬼がピアノに座って私を嘲り始めました。
この悪鬼は尻尾が長く、とても嫌な感じがしました。
私はこの悪鬼も捕まえることができたので、その悪鬼がびっくりしました。
それがコウモリに似た翼をばたかせながら逃げようとしていました。
しかし、私はそれを地面に引き据えて、足で踏み付けることができました。
私は容赦なく攻撃を加えました。

私が悪鬼をどんと打ち叩いていると、主が私の横に来られました。
「おお、ユーキュンよ、偉大な仕事をしているね。あなたは悪鬼を打ち負かしているよ。」
私は、あなたを天国に連れて行って、あちらこちらを見せてあげようと思っているのだけど、あなたは悪鬼との戦いで忙

しいね。あなたはどう思うかね？」

私は答えました。

「イエス様、天国訪問は後でできます。今は、すべての悪鬼を滅ばさなければなりません！」

主が言われました。

「分かった。悪鬼を滅ぼして、勝利しなさい。」

主は私の隣に立って見ておられました。

悪鬼たちはイエス様を見ると、さらに怯えて、逃れようとしてました。

イエス様は牧師が祈っている祭壇の方に歩いて行かれました。

彼は牧師の頭を、特にはげかかった箇所を軽くたたかれました。

主はジョゼフのところに行って、そっと彼の足と体に触れられました。

イエス様は痛い箇所に触れておられました。

イエス様が私の側を離れられたので、私は面白くありませんでした。

私は大声で叫びました。「アツバ、アツバ！」

イエス様がいったん離れて行かれると、祭壇の辺りに現れた一匹の悪鬼が、私に向かって来ました。

それが嫌みを言うので、私はいらいらしました。

それを無視しようとしたのですが、それがからかったり、罵倒の言葉を浴びせたりするのを続けました。

私の気性がテストされていました。

私は非常に腹が立ちました。

私はそいつを掴んで振り回しました。

悪鬼が不平を言いました。「目まいがする。ひどい目まいが！俺を放せ！」

その悪鬼の目の中にさらに目があるのに気が付きました。

両方の内側の目が私を見つけていました。

これにはゾッとしました。

私は荒々しい声で言いました。

「お前はよくも俺を見つめたな！」

私は指で悪鬼の目を突きました。

その悪鬼は目の中に複数の目があるので、何度も突かなければなりませんでした。

「ああ！俺の目が、俺の目が！」

悪鬼は怖がって金切り声を上げましたが、私はそいつを放しませんでした。

私はぐるぐる回転させました。

そいつが叫びました。

「放してくれ！俺を一人にしてくれ！俺を放さないなら、噛み付くぞ！」

そいつが私を脅すので、私はいよいよ強く振り回しました。

悪鬼が力まかせに私の手に噛み付きました。

それが噛み付いたので、私は手を放して、遠くまで投げ飛ばしました。

イエス様が私の側に近づいて来られて、励ましの言葉で私を賞賛して下さいました。

「おお、私のユーキュンは悪鬼を打ち破った。素晴らしい！」

彼はそっと私の手を保って、私を励まし続けられました。

「ユーキュンよ、別の悪鬼が近づいて来るよ。打ち負かしてやりなさい！」

主は立って、私とその悪鬼と戦うのを見ておられました。

骸骨の形をした悪鬼が現れて言いました。

「俺と一緒に地獄に来い！」

私は首を大きく横に振って言いました。

「いやだ！ノー！」

私はそいつを掴んで、力いっぱい床に叩き付けてやりました。
悪鬼は悲鳴を上げて消えました。
イエス様が私の隣に立って手を叩いて言われました。
「ワー！私のユーキュン、素晴らしい仕事だ！あなたの信仰はとも成長したよ。」
彼はしばらく私と一緒に居て、私を励まして下さいました。

イエス様は天に戻られました。
私はあと少しばかり、異言で祈りました。
私は当日はおおよそ 50 の悪鬼と戦って打ち破ったと思います。

*ハーク、スンが聖霊の油注ぎによって変化する

悪鬼の数が徐々に増加し続けました。
彼らはグループで私たちを攻撃しました。
私は彼らの目を突いてそれを抜き出し、打ち叩いて振り回しました。
こちらには手が 2 本しかないので、攻撃している時には、自分を守ることができません。
彼らは実に大勢でした。
私の力が弱くなってきました。そこで考えました。
「もし私に聖なる剣があるなら、間違いなく、彼らを打ち破ることができる。」
私は戦闘中に、よくこんなことを考えました。
私が神のパワーを受けるには、もっと祈るべきです。
私は熱心に神の言葉を読み研究するべきです。
これをやるなら、私は聖霊の剣を戴くことができるでしょう。

今日、悪鬼たちと戦っている時に、多くの事がわかりました。
私が彼らを打ち破れば破るほど、攻撃して来る数がどんどん増えて来るようです。
彼らがどこに隠れているのか分かりません。
新しい悪鬼が出現して攻撃して来るだけではなく、一度ジョゼフ、ジューユン、ユーキュンに打ち負かされたのが再び攻撃して来るのです。
彼らは礼拝の時間と祈りの時間に私たちを妨害しに来ます。
実際、祈りの時間に私たちを攻撃して来る悪鬼の夥しい数には驚いてしまいました。

ハゲワシのように、餌食の周りをぐるぐる回りながら集って来ます。
もう御馳走の時間になると、大勢のハゲワシたちが一斉に餌食に襲いかかります。
悪鬼たちも同じ様にして、一斉に攻撃して来ます。そして、目に見えないものは、どこからともなく現れるのです。
隠れている者たちはいつも絶好の時を待っています。
私も地獄にいるサタンを見ることができました。
サタンの部下たちが攻撃に参加するために配備されると、彼が部下たちに命令を発して叫んでいました。
私はこんなにたくさんの悪鬼との戦いを経験したことは一度もありません。
今日は悪鬼の群れが教会の天井や壁に張り付いていました。
悪鬼以外何も見えないほどでした。

私は神様に、聖なる火を下さい、と叫びました。
「三一の神よ、どうぞ、聖なる火を下さい！悪鬼を焼き尽くす火を！」
神様が火の玉を下さいました。それがすばやく、私の胸の中に入って来ました。
聖なる火が私の体に入ってくるや否や、悪鬼たちは私を避け始めました。
火が私の体内に入る前は、私は非常に疲れていました。

赤々と燃える火が入ったとたん、私の力が戻って来たのです。
私は悪鬼を捕らえて、打ち破ることができました。
すべての悪鬼を打ち破った後に、私は感謝の祈りを主に捧げました。
すべてのことに、私はとても感謝しました。
その時、私が牧師をひどく悲しませた日のことを思い出し、そのことで、私の目にいっぱい涙が溜まりました。

礼拝の最中に牧師が「サム」と呼びました。私は即座にアーメンと言って答えました。
牧師は非常に強力に礼拝を導きます。
私は、私の魂と霊が急速に成長し変化するのに気が付きました。
私は2ヶ月前の私とは完全に異なった人間です。
そのうえ、霊的に目が覚め、預言ができ、霊的な識別が出来、異言で祈ることができ、知識を得、知恵を得て、私の信仰が強くなりました。
イエス様と話するとき、よく父神の御座が見えます。

聖霊様は霊ですが、私は霊の目で彼を見ることができます。
私は教会に来るのが大好きです。
おもしろくて、わくわくします。
一晩中の礼拝が楽しいです。
伝道したり祈ったりする時に経験する喜びをどう表現したらよいか分かりません。
礼拝は夜から早朝、普通午前6時か7時頃まであります。
祈禱会の後、午前5時までお互いに証しをします。
また、一緒におにぎりを食べます。
朝食を取った後、太陽が出始めるまで、また少々祈ります。
祈りの集会が終わると、牧師が私たちを家まで送ってくれます。
家までのドライブにイエス様が一緒です。ハレルヤ！

ペク、ボンニヨ姉妹：*地獄で十字架の苦しみを待つ人々。

私が異言で熱烈に祈っていると、イエス様が現れられました。
私は、すぐに、私を地獄に連れて行こうとしておられると感じました。
主が私の旅を明らかにするのを少々ためらっておられるようでした。
主が私に質問される前に、私の方から尋ねました。
「イエス様、なぜあなたは躊躇しておられるのですか？また私を地獄訪問に連れて行こうとしておられますね、そうですね？」
主はぎこちない面持ちをされました。
しかしながら、私は主に背くことはできませんでした。
「イエス様、私の家族が苦しんでいるのを見せられないのであれば、地獄の終点までもついて参りますわ。両親が苦しんでいるのを見たくありませんもの。」
主は私の手を取られて一言も言われませんでした。

いつものように、主が私の手を取られると、もう、私たちは地獄にいました。
私たちは狭い経路を歩き始めました。
間もなく、腐った死体のおいが辺り一面にし始めました。
私たちは広い野に到着しました。
そこには際限なく並べられた十字架がありました。
すべての十字架は地中深くに埋めてありました。
既に、十字架には大勢の人がはりつけにされており、そして、さらに大勢の人が並んで十字架に掛けられるのを待っていました。
私の母が群衆の中で、十字架に打ち付けられるのを待っていました。

母はまだ人のいない十字架の下で立っていました。

大きな恐ろしい生き物が十字架の番をしていました。

母の番が来ると、生き物は母を十字架につないで、釘打ちの用意をしました。

その生き物が私の方をひと目見ました。それから身を転じて彼女に語りました。

「お前の娘に言え。教会へ行くな、イエスを信じるのを止めよとな。さもないと、お前は今日本当に死ぬぞ！」

母はとても怯えているようでした。

生き物が私の方を見て叫びました。

「もし、お前がイエスを信じるのを止めると言うなら、お前の母親を苦しめないで助けてやる！信じるのを止めると言え！」

生き物が私と交渉を試みました。

「今、そう言え！誓え！急げ！」

生き物が要求しました。

状況は非常に緊迫しました。

生き物の頭は馬で、体は人でした。

それは凶悪な奴でした。

私はそれを直視することができませんでした。

馬の頭をした生き物が大きな光る刀を抜いて、部下に命じました。

部下はすぐに従いました。

それから、生き物が母に圧力をかけました。

「早く、お前の娘に言え！さあ！地獄はお前の娘のせいで混乱状態にある。お前の娘が通う教会は一晩中祈っておる。俺たちはあらゆる点で邪魔されている。地獄に来る筈の人間が教会に行く。だから、俺たちはいらいらしておるのだ。すぐに！さあ、お前の娘にお願いしろ！彼女の牧師は俺たちの正体をばらし、地獄をばらす本を書いている。俺たちはその本を書くのを止めさせねばならんのだ。さあ、早く、娘にお願いしろ！」

母は私を見て、止めどなく涙を流しました。

イエス様が私の隣に立っておられたので、母は何も言うことができませんでした。

ただ、がっくりとうなだれて、泣き続けていました。

生き物は、我慢しきれずに怒りが爆発しました。

母は剥ぎ取られて、十字架に掛けられました。

彼らは母をしっかりとロープで縛り付けました。

短時間の間に、私の弟と甥が連れて来られて裸にされました。

彼らも十字架に掛けられました。

その邪悪な生き物は容赦なく彼らみんなを十字架に釘で打ち付け始めました。

生き物たちは彼らの肉をスライスし始めました。

彼らの肉が頭のとっぺんから爪先に至るまでスライスされました。

彼らの体は、カットされたりスライスされたりして骨ばかりとなってしまいました。

私の家族の肉は油の沸騰した釜の中に投げ込まれました。

釜は赤々と燃える火で加熱されました。

母と弟と甥は目と耳だけを残して骨ばかりの姿になっていました。

他のものはみな切り取られてしまいました。

そんな哀れな姿になっても尚、彼らは叫ぶことができました。

「ボンニョ、早く行きなさい！私たちはもうここに来ないように、と言ったでしょう。なぜ来続けるの？私たちが苦しんでいるのを見て、あなたはなんともないの？お願いだから、もう来ないで！」

私は泣きじゃくりながら叫びました。

「お母さん、私の可愛そうなお母さん！後3回来たら、例え願っても、もう来ることはできないわ。イエス様が言われたの。」

3度目の訪問が終わったら、もうここに私を連れて来ないって。母さんたちが苦しんでいるのを見ると、私の心はもたえ苦しむのよ！」

生き物が、雷のような声で、私たちの話を中断して、再び叫びました。

「最後に訊くが！これが最後のチャンスだ！イエスを信じないように娘に言え。すぐに！祈ることと教会に行くことを止める、と強制しろ！すぐにだ！」

生き物が母にがみがみ言うので、私が母に代わって言いました。

「お前、この邪悪な生き物め！言うことがあるなら、この私に言え。なんで私の母を脅かすのか？そんなばかなことは止めろ！」

私が生き物を叱ると、生き物は弾丸のような速さで母の方に走って行きました。

生き物は、母の頭の皮を剥ぎ、耳を切り取り、目をくり抜いてしまいました。

母が痛くて叫びました。

「助けて！お願い！」

私は、もうこれ以上、苦悩する母を見ていることはできませんでした。

この哀れな光景を表現する言葉はありません！

可愛い弟と甥も母と同じ苦痛を経験しました。

生き物は残りの体の部分を油の沸騰している釜の中に投げ込みました。

沸騰している釜の中から、私の家族の苦痛の悲鳴を聞くことができました。

生き物の怒りはそれで収まりませんでした。

今度は、昆虫をボールに盛って、それを私の家族の直下に置きました。

昆虫はすぐに家族の体に取り付きました。

昆虫は彼らの体をがりがり噛み、砕き、骨の中に食い込んで行きました。

家族は絶叫しました。

母の苦痛がもっとひどいように見えました。

母が叫びました。

「悪魔め！私は既に死んでいるのだよ！死人をなぜ苦しめるの？悪魔め、この昆虫を取り去りなさい！この痛みを止めて！お願い！」

不可能とは分かっていたのですが、私はお願いしました。

「イエス様、彼らの苦痛はいつ終わるのでしょうか？」

私は呻(うめ)いていました。イエス様は言われました。

「いったん地獄に入ったなら、決して逃がれることも、別のチャンスもありません。永遠に苦痛の中にいるのです。」

私は主に取りすがり、泣きながら懇願しました。

「イエス様、私の母は地獄で永遠に苦痛の中にいることでしょうか。私はどうして天国で楽しく暮らせましょう？私はもうこれ以上、母の悲惨な姿を見ていることはできません。お願いです。私と母を交代させて、母を救って下さい！」

イエス様はすぐに天使を呼ばれました。

私はショックで気を失いかけていました。

主の命令で、大天使ミカエルと他の天使たちがやって来て、私をイエス様の教会に連れ戻してくれました。

イエス様はモーセまで呼んで、私を慰めるようにと、彼に頼まれました。

イエス様もモーセも心が張り裂けんばかりでした。

彼らは私を彼らの胸に引き寄せて、私の涙をふき取り、慰めてくれました。

私の涙がこぼれ落ちるのを見ながら、彼らも私と一緒に嘆き悲しみました。

1 サムエル 4: 11-22:

4:11 また神の箱は奪われ、エリのふたりの子、ホフニとピネハスは殺された。

4:12 その日ひとりのベニヤミンびとが、衣服を裂き、頭に土をかぶって、戦場から走ってシロにきた。

4:13 彼が着いたとき、エリは道のかたわらにある自分の座にすわって待ちかまえていた。その心に神の箱の事を気づかっていたからである。その人が町にはいって、情報をつたえたので、町はこぞって叫んだ。

4:14 エリはその叫び声を聞いて言った、「この騒ぎ声は何か」。その人は急いでエリの所へきてエリに告げた。
4:15 その時エリは九十八歳で、その目は固まって見るができなかった。
4:16 その人はエリに言った、「わたしは戦場からきたものです。きょう戦場からのがれたのです」。エリは言った、「わが子よ、様子はどうであったか」。
4:17 しらせをもたらしたその人は答えて言った、「イスラエルびとは、ペリシテびとの前から逃げ、民のうちにはまた多くの戦死者があり、あなたのふたりの子、ホフニとピネハスも死に、神の箱は奪われました」。
4:18 彼が神の箱のことを言ったとき、エリはその座から、あおむけに門のかたわらに落ち、首を折って死んだ。老いて身が重かったからである。彼のイスラエルをさばいたのは四十年であった。
4:19 彼の嫁、ピネハスの妻はみごもって出産の時が近づいていたが、神の箱が奪われたこと、しゅうとと夫が死んだというしらせを聞いたとき、陣痛が起り身をかがめて子を産んだ。
4:20 彼女が死にかかっている時、世話をしていた女が彼女に言った、「恐れることはありません。男の子が生まれました」。しかし彼女は答えもせず、また願ひもしなかった。
4:21 ただ彼女は「栄光はイスラエルを去った」と言って、その子をイカボデと名づけた。これは神の箱の奪われたこと、また彼女のしゅうとと夫のことによるのである。
4:22 彼女はまた、「栄光はイスラエルを去った。神の箱が奪われたからです」と言った。

民数記 16: 26-35

16:26 モーセは会衆に言った、「どうぞ、あなたがたはこれらの悪い人々の天幕を離れてください。彼らのものには何にも触れてはならない。彼らのもろもろの罪によって、あなたがたも滅ぼされてはいけないから」。
16:27 そこで人々はコラとダタンとアピラムのすまいの周囲を離れ去った。そして、ダタンとアピラムとは、妻、子、および幼児と一緒に出て、天幕の入口に立った。
16:28 モーセは言った、「あなたがたは主がこれらのすべての事をさせるために、わたしをつかわされたこと、またわたしが、これを自分の心にしたがって行うものでないことを、次のことによって知るであろう。
16:29 すなわち、もしこれらの人々が、普通の死に方で死に、普通の運命に会うのであれば、主がわたしをつかわされたのではない。
16:30 しかし、主が新しい事をされ、地が口を開いて、これらの人々と、それに属する者とを、ことごとくのみつくして、生きながら陰府に下らせられるならば、あなたがたはこれらの人々が、主を侮ったのであることを知らなければならない」。
16:31 モーセが、これらのすべての言葉を述べ終ったとき、彼らの下の土地が裂け、
16:32 地は口を開いて、彼らとその家族、ならびにコラに属するすべての人々と、すべての所有物をのみつくした。
16:33 すなわち、彼らと、彼らに属するものは、皆生きながら陰府に下り、地はその上を閉じふさいで、彼らは会衆のうちから、断ち滅ぼされた。
16:34 この時、その周囲にいたイスラエルの人々は、みな彼らの叫びを聞いて逃げ去り、「恐らく地はわたしたちをも、のみつくすであろう」と言った。
16:35 また主のもとから火が出て、薫香を供える二百五十人をも焼きつくした。

==== 24 日目 ====

(2 テモテ 3: 1-5)「1 しかし、このことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。
2 その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、
3 無情な者、融和しない者、そしる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、
4 裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快樂を愛する者、
5 信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。こうした人々を避けなさい。」

キム・ジョゼフ:

私が異言で祈っていると、突然、悔い改めの涙を流して泣き出しました。
私は、長い間、心から涙を流して悔い改めることを求めています。

私の体が火の玉になっていたのので、蛇の形をした悪霊が現れたとき、私はそれを掴んで投げ飛ばしました。

リー、ユーキュン:

私が熱烈に祈っていると、とてもいやな悪霊が現れて私の上を通過しました。コウモリの羽でもって、その悪鬼が私の前でホバリングをしました。カエルのような目と赤らんだ鼻と長い舌を持っていました。それが私をなじるので、私はいらいらして、その翼を引きはがして、空中に投げ捨ててやりました。その負傷した辺りから赤い血が落ちていました。

同時に、黒くて醜い蛇が私に近づいて来ました。私は蛇が大嫌いで、とてもいやな生き物です。それが私の方に近付いて来たので、叫び声を上げるしかありません。「主よ！怖いです！蛇がここにいます！」イエス様がすぐに現れて下さり、蛇を掴んで遠くまで投げ飛ばして下さいました。

主が尋ねられました。
「**ユーキュンよ、大丈夫ですか？恐れることはないよ！さあ、天国を訪問しに行きましょう。**」
私はイエス様の手を取って、天国に向けて出発しました。私たちが天の川(銀河)を飛行する間、イエス様に賛美歌を歌ってくれと頼まれました。私たちは、『わが魂よ、褒め称えよ！』を何度か歌いました。天国を訪問した後、私たちはイエス様の教会に戻りました。そして、私は祈り続けました。

イエス様はキム牧師に近付いて、彼の祈りを注意深く聴かれました。イエス様は長い間聴いておられました。そして、彼は牧師が痛みを感じた辺りに触れられました。彼の痛みは背中の悪鬼が噛み付いた所でした。イエス様はジョゼフに近づいて叫ばれました。
「**悔い改めなさい！もっと、もっと、もっと！泣き叫びなさい！あなたが大声で泣き叫ぶときだけ、天国のドアが開くのだよ！**」
ジョゼフは今日はとても泣き叫びました。彼は悔い改めの涙を経験しつつありました。

イエス様が私のところに戻って来て下さいました。何人かの天使も現れました。主が大胆に言われました。
「**ユーキュンよ、病気になってはいけない。いつも健康でありなさい。元気でありなさい！**」
天使たちも叫びました。
「**聖ユーキュンよ！病気になってはいけません！**」
主が言われました。
「**元気でありなさい！**」
それから、私たちはさよならを言いました。

リー、ハークスン: *天使に提供された保護の円陣

私が祈っていると、たくさんの天使たちがドアから入って来ました。天使たちが私を囲んで、保護の円陣を造りました。私は彼らに、何をしているの、と尋ねました。彼らは私を取り巻いて、保護の円陣を造るんだと言いました。天使たちが保護の円陣によって私を覆うと、聖なる燃える火で私は熱くなりました。

保護の円陣の外に悪鬼が立っているのが見えました。

悪鬼はナイフを持っていました。それを見て、私はホラー映画のチャッキーを思い出しました。

悪鬼が天使のひとりに近づいて、彼を突き刺しましたが、ナイフはすぐに溶けてしまい、さらに彼の手に火がつきました。

他の悪鬼が近づくのが見えました。

それは非常に古い木のようでした。

それがゆっくりと私の方にやって来て、手を突き出して保護の円陣に触れました。

それが保護の円陣に触れるや否や、それに火がつきました。そして、その木は炎に包まれました。

木は逃げる際に金切り声を上げました。



天使たちは祈っているシン執事の周りにも保護の円陣を敷いていました。

天使たちは全部で 200 人くらいいました。

彼らは皆、教会の信者たちの周りに保護の円陣を敷くために働いていました。

私の保護の円陣のすぐ外側に、筋骨たくましい男に似た悪鬼がいるのに気が付きました。

それが私に向かって来ました。

悪鬼は保護の円陣の中に入ろうとしましたが、円陣が燃える火のように非常に熱くなりました。

それは中に入るのを諦めました。

悪鬼は次にシン執事の方に向かいました。

幸い、彼女は保護の円陣と火に覆われていました。

それは彼女の円陣の中に侵入することはできませんでした。

悪鬼が私の母に向かって飛んで行きました。

私の母に近づいた時、それに火がついて見えなくなりました。

突然、大きな明るい光が天から差してきました。

巨大な天使が白馬に跨って教会に向かって来るのが見えました。

あっと驚くような光景でした。

私の心臓が非常に速く打ちました。

天使が私の方に向かって来て自己紹介をしました。

「こんにちは、私は大天使ミカエルです。」

一人の光り輝く天使が彼の後ろに従っていました。その名はガブリエルと言いました。

ガブリエルはポールに取り付けられた大きな旗を持っていました。

彼らの説明によると、大天使ミカエルが悪鬼を打ち負かすと、大天使ガブリエルがミカエルの後ろで勝利の旗を左右に振り回すのだそうです。

大天使ミカエルとガブリエルはほぼ同じくらいの背丈でした。

彼らは静かに立って、牧師が祈っているのを見守りました。

この驚くべき光景を見て、私はびっくり仰天してしまいました。

私は夢を見ているのか、現実のものを見ているのか、区別するのが困難でした。

キム、ジュン: *多くの悪鬼がグループで突進して来るが、私たちの信仰は強力となった。

前に祈ったとき、三日月の形をした悪鬼がごろごろ回転しながら私に向かって来ました。

今日は、満月の形をした一つ目の悪鬼が私に向かって回転しながらやって来ました。

悪鬼が私に近づいたとき、私とその目を突いてくり抜いてやりました。

私は眼窩の中を指でぐりぐりひねり回しました。

すると、その悪鬼から血がぱっと辺り一面に飛び散りました。

そのすぐ後に、少女に変装した悪鬼が現れたのですが、コマのように頭で回転しながらやって来ました。

私は彼女の髪の毛の束を掴んで、何回か揺さぶったり振り回したりして遠くまで投げ飛ばしました。

イエス様が近付いて来られて、私の行動を称賛して言われました。
「そばかすよ、素晴らしい働きです！」

イエス様が続けて言われました。
「そばかすよ、今日はあなたは特にきれいに見えるよ！だれがあなたの髪を編んでくれたの？」
私は答えました。
「シン執事です！」
主が賞賛されました。

「本当？彼女は素晴らしい仕事をしましたね！」
執事はまだ霊的に目覚めていなかったのので、イエス様が彼女の近くに來られたのが分かりませんでした。
多くの天使がイエス様に随行していました。
私はいつもイエス様に天使たちが随行しているのを見ていますが、今回は、ずっと多くの天使たちがいました。
天使たちの中で、何人かがペアになって、教会の信者たちが祈っている横に座りました。
天使たちは自分たちの手を使って金でできた広口のボールを持って、熱心に聖徒たちの祈りをボールに満たしました。

もう一度、悪鬼のグループが部屋の隅に現れました。彼らが私たちに向かって来ました。
彼らが近づいたとき、ユーキョン姉妹が悪鬼をつかんで、振り回し、遠くまで投げ飛ばしました。
私もそのいくつかを掴んで、振り回して、遠くまで投げ飛ばしてやりました。
ハーク、スン兄弟とジョゼフ兄弟も悪鬼たちと戦っていました。
彼らは悪鬼たちを掴んで振り回し投げ飛ばしました。
私たちは皆でこの戦術を何回も繰り返しました。

悪鬼たちが床や壁にぶち当たった際の音を聞くことができました。
とても大きな音がしました。
祈りの集会の終わり頃になって、さらなる攻撃があるのに気付きました。
しかしながら、各々の攻撃は私たちの信仰がどんどん強くなる結果をもたらしたのでした。

ペク、ボンニョ姉妹: *キム牧師がイエス様を笑わせる。

私は多くの霊的な事柄を目撃し経験してきました。
この特権と共に、多くの痛みに耐えなければなりませんでした。
イエス様は私を天国の花園に連れて行かれ、私を驚かせて下さいました。
彼はその花園で楽しませて下さり、リフレッシュする時間を与えて下さいました。
私は好きなだけの時間を園で過ごすことができました。
園では天使たちと一緒に、子供のように転がったり、跳んだりして遊びました。
天国の花園は想像を絶するほど巨大で美しい所です。
花々の甘い香りはとても貴く、けっしてそれが変化することはありません。
私の体が弱くて疲れ果てていましたので、イエス様の教会に戻った後で、私は横になって休みました。
朝の礼拝の間、牧師が語りながら右、左と歩いていました。イエス様は彼の側にぴったりくっついて歩いておられました。

私たちの牧師はとてもおかしいので、牧師のことを思っただけで、私は笑ってしまいます。
好奇心から、牧師に質問しました。
「牧師、私がこの教会に通い始める前から、そんなにおかしかったんですか？」
牧師が答えました。

「私たちの教会はね比較的新しいんだよ。私にはおかしいと思うような事は何も思い出せないね。私たちの集会中に何かユーモラスなことがあったかどうかとも思い浮かびもしないのだよ。私はいつも失意の中にいたから。私は重たく哀れた

なという感じだったね。」

私は尋ねました。

「あなたはどのようにして、そんなに変化されたのですか？」

牧師が言いました。

「本当に分からないんだ。私はこの祈りの集会の間に変化したんだよ！ 実際、何が起きているのか私には分からないんだ。私がどのようにしてそうなったのか、また誰が、あるいは何が私に影響を与えたかと尋ねるなら、それは主が楽しい環境を造って下さったと言わなければならないだろうね。」

私たちの牧師にはいろんな人の真似をする独特の才能があります。

実際、それは人だけではありません。

彼は動物と無生物を含むいろんな物を真似ることができます。

イエス様が牧師を真似して、大声で笑っておられました。

説教の間には、2人の天使が牧師の説教する言葉をひとつひとつ記録していました。

天使たちは祭壇の上の十字架の隣に座って、巨大な本に書いていました。

天使たちは牧師の言葉を記録することになっていました。

しかし、彼らは、時折り、牧師がジェスチャーするのを覗き見しました。

その天使たちが大笑いしてうっかり牧師の言葉のいくつかをミスすることがありました。

天使たちが記録をミスすると、イエス様が彼らを叱責されました。

「牧師を見てはいけない。ただ真剣に記録しなさい！」

イエス様が微笑んだり笑われたりされる時には、天使たちはいつもみんな彼の楽しい雰囲気に加わります。

しかし、イエス様が嘆き悲しまれる時には、天使たちは静かになります。

説教の最中に牧師が私に質問しました。

「姉妹、イエス様は今どこにおられますか？」

私は答えました。「あなたの真後ろに立っておられます。」

牧師はにやにや笑いながら言いました。

「おお、私はどうしよう？ 私はおならをして、ひどい臭いがします。だれも堪えられないのではないかな。後ろにおられる主には大変申し訳ないことをしました。彼にも私のガスの臭いがしたと思います。私はどうしよう？」

主が笑いながら言われました。

「私は霊だから関係ない、大丈夫だよ。」

主が牧師の頭と背中をなでられました。

キム・ヨン ドゥー牧師:

教会のメンバーたちは祈りの間に体力を消耗してくたくたになっていました。

止めるどころか、彼らは歯を食いしばって熱烈に祈り続けました。

主は、私たちがそのように献身して祈っているのをご覧になって、感動されました。

私は耐え難い痛みの中にいました。

その痛みは悪鬼が数回攻撃して生じたものです。

このタイプの傷の回復は非常に遅いのです。

容赦のない痛みで私を苦しめました。

長時間、手を上げた状態で祈るのが難しくなりました。

しかしながら、その痛みの中で、聖霊が私の手と腕をいろんな動きをさせられました。

私の腕と手の動きは実にうまく振り付けされたものでした。

私の両手が絶えず動きました。

それが交代で動きました。

突然、私の手は激しく振動し始めました。

また、耐え難いほど熱かったです。

白いガウンを着て私の前を右左と歩いておられるイエス様が見えました。
顔に暖かい夏のそよ風を感じました。
私は彼の強い臨在を感じました。
悲しいことに、私の霊の目はまだ開いていませんでした。
主は私たちの状況と反応を観察しておられるようです。
彼は私たちを評価しておられました。

25 日目

「13 イエス様がピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は人の子をだれと言っているか」。
14 彼らは言った、「ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります」。
15 そこでイエス様は彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。
16 シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。
17 すると、イエス様は彼にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である」。
18 そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない」。
16:19 わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐがれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう」。(マタイ 16: 13-19)

キム、ジューン: *ソバカスが天のクッキーを食べる。

異言で祈っている間に、私は悪鬼と戦っては打ち負かしていました。
私が祈っていると、口が何かでいっぱいになりました。
私はそれを噛み始めました。
噛み続けていると、砕ける音が聞こえました。
私は何を噛んで食べているのか分かりませんでした。
未知の食べ物を食べて、私は独り言を言いました。
「ワー！これは何だろう？美味しいわ。こんなに美味しいものが他にある？」
私の愛する主イエス様が現れました。

彼が私の名を呼んで、私に話し始められました。
「ソバカスよ、これを食べてみますか？」
私は尋ねました。
「イエス様、それは何ですか？」
主は答えられました。
「これはあなたのために天から持って来た美味しいクラッカーだよ。あーん、と言って口を開けてご覧。」
私は口を開けました。主は私の口にクラッカーを入れて下さいました。

クラッカーが舌に触れると、すぐに柔らかくなって溶けました。
世界にはたくさんの美味しいクラッカーがありますが、主が下さったものには驚いてしまいました。
ひと口サイズのクラッカーは白くて円い形をしていました。

私は叫びました。

「ワー、イエス様、このクラッカーはとっても美味しいです！もっと食べたいです。もう一つ、よろしいですか？」

主は言われました。

「いいえ、今はこれだけだよ。」

私は驚いて尋ねました。

「それは何ですか？」

主が言われました。

「これはね、聖徒たちが天国で食べる食物だよ。もっと欲しいのは分かります。今度、あなたが天国を訪問するときにもっと上げるからね。だから、熱烈に祈りなさい。」

涙ながらに私は主にお願いしました。

「イエス様、私を天国に連れて行ってください！」

しかしながら、私が言い終える前にイエス様は私から去って行かれました。

彼が去って行かれた形跡を見て感じることはできただけでした。

明るく輝く光があって、暖かいそよ風を感じました。

イエス様がくださった天のクラッカーのことは、永久に私の記憶に残るでしょう。この素晴らしい味は決して忘れません。

今夜は非常に祝福された夜です。言葉ではとても表現できない夜です。

遠くから、イエス様が親切に語っておられるのが聞こえました。

「ソバカスよ、すぐにあなたを天国訪問に連れて行ってあげるから、いらいらしないでいなさい。じゃあね。」

それから、彼は行ってしまわれました。

力を盛り返してから、私は祈り始めました。

祈っていると、悪鬼たちが私に向かって来るのが見えました。

あらゆる方向から、たくさんの頭蓋骨や骨が私に集中し始めました。

私は彼らの様子を見て笑いました。

悪鬼たちは私の反応に怒りが爆発しました。

私は叫びました。

「お前たち骨たちよ、みんなおかしくてしょうがないよ。イエス様の御名によって、お前たちに命じる。とつとと、いなくなれ！」

彼らは消え去りました。

私たちが何時間も熱心に祈った後で、天使たちのグループが天から来て、私たちの祈りを彼らの金の壺(つぼ)にいっぱいになりました。

1人の天使がいっぱいになった壺を持って昇ると、他の天使が空の壺を持って下りて来て、再び祈りをそれに満たしました。

天使たちはこの過程を続けました。

彼らは忙しく動いていました。

壺は私たちの祈りが満たされたただけではありません。また、私たちの涙や声の調子も含んでいました。

それらがすべて天に届けられました。

リー、ユーキュン: *悪鬼の衣服を引き剥がす。

私が祈っていると、白い服を着た少女に変装した悪鬼を見ました。

私はすぐ彼女の髪を掴んで、髪が全部抜けてしまうまで振り回してやりました。

しかし、服を引き裂くと、彼女は裸の男に変身しました。

彼の姿をすべて見ることができました。すると、彼は私の上に排便したり、小便したりし始めたのです。

私はとても腹が立ったので、その首を掴んで言いました。
「汚らわしい悪鬼め！お前はなぜ私に小便をするか？」
彼の顔を引っばたきました。すると彼が言いました。
「すみません！赦してください。もう二度とここに来ませんから。」
私は散々打ち叩いてやりました。
それを炎に包まれているハーク、スン兄弟の方に投げました。
その悪鬼がハーク、スン兄弟に当たると、分解して灰になってしまいました。

私が祈り続けていると、2番目の悪鬼が現れました。2つの大きな目を持った奴です。
顔の半分は女、半分は男の顔でした。
非常に短い髪をしていました。
その悪鬼を見て、あるホラー映画のことを思い出しました。
それが話すとき、2つの異なるトーンで話しました。
男と女のトーンが口から出て来ました。
私は髪を掴みました。
髪をすべて引っっこ抜いて、衣服を引き裂いてやりました。
悪鬼は裸で立っていました。

悪鬼が反応して言いました。
「なんで俺の服を脱がせた？だれが俺の服を脱がせたのか？」
私は堂々と答えました。
「それは私だ、私がやった！お前はなぜ尋ねるのか？お前は虐待されたと思っているのか？」
悪鬼が懇願して泣き叫びました。
「私に服を着せてください。お願い、急いで！私はとても寒いよ。お願いですから、何か服をちょうだい！」

悪鬼が立って見ている前で、服をずたずたに引き裂いてやりました。
悪鬼は不平を鳴らし続けました。
「だれが俺の服を脱がせてよいと言ったのか？なんでお前は俺の服を台無しにしたのか？」
悪鬼に私はいらいました。
私は言いました。
「お前はばかなことを言う。お前は死んでる！」
私はそいつを床に投げ付けて、打ち叩きました。
それが大声を上げました。
「おお、助けてくれ！これはたまらん！俺はお前を打ち負かすことができるのだが、お前がなんで俺を征服できるのか分からん。俺は怖いよ！」
私は悪鬼の苦情を聞きたくありません。
私はそいつの足を折ってから、遠くまで投げ飛ばしました。
それが部屋の隅に落ちて、粉々に砕け散ってしまいました。
戦いが勝利に終わると、主が現れました。

*ユーキョンが天国の果物を食べる。

イエス様は明るく輝いているガウンを着ておられました。
彼が近付いて来られると、彼が白くて円い物を持っておられるのに気が付きました。
イエス様が言われました。
「ユーキョンよ、これを食べてご覧。これは天国の果物だよ。あなたが熱心に祈るので、その報いに、これをあなたに持

って来たのです。悪鬼たちを打ち負かすあなたの能力が劇的に増加しましたね。果物はとても美味しいよ。すぐに、これを食べてみなさい！」

主がとても優しく私に話されたので、私は嬉しくなって答えました。

「主よ、ありがとうございます！」

私は一口かじって、喜びの声を上げました。

私は果物をすぐに食べてしまいました。

主が言われました。

「ユーキュンよ、天国を訪問しましょう。」

突然、私は翼の付いたガウンを着ていました。

私たちは空に通じるドアのある十字架を通して出掛けました。

空を飛んで、間もなく私たちは天国に到着しました。

天国に到着したとき、イェジちゃん(訳注:シン スンキュン姉妹の娘、9歳、彼女は癌で死亡したのかもしれない)に会いました。

イェジちゃんと私は長い間、主の前で踊りました。

私たちの近くに金でできたピアノがあるのに気が付きました。

とても大きなピアノです。

しばらく、私はそのピアノを見ていました。

それはとても興味深いものでした。

踊っている間、父神が彼の御座で身を揺らしておられるのが見えました。

御座からは、父神が輝く光を放っておられました。

神は光でした。

私には彼を見ることができませんでした。

数人の御使いたちがいて、皆、御座の前に置かれた本に、忙しそうに何かを書いていた。

父神は途方もなく大きなお方です。

だれも彼の寸法を想像することはできません。

父神を一目見ようとしても、輝く光でそれは不可能でしょう。

光が強過ぎて、だれも見通すことはできません。

父神のガウンは非常に長くて、彼の足首まで達していました。

私は彼の足を見ることができただけです。

父神が私に話しをされると、彼の声が反響しました。

「ユーキュンよ、ここは素晴らしいか？あなたが熱心に祈り続けるなら、もっと頻繁にあなたを連れて来て上げるよ。だから、止めないで、熱心に祈りなさい。」

私はお辞儀をして答えました。

「はい、主よ、アーメン」

私が話した後で、彼の巨大な手が光の中から現れて、私の頭をなでてくれました。

イエス様が言われました。

「ユーキュンよ、私をご覧ください！」

イエス様の方を見た時、私はとても悲しくなって、胸が張り裂けそうになりました。

私は泣き出しそうになりました。

彼の両手首に、釘に刺された巨大な傷跡が見えました。

また、彼の足にも傷跡がありました。

主が続けられました。

「私の血を注ぎ出させた時、私はあなたのために死んだのだよ。いつも私のことを思っていないさい！」

私は主に天国の私の家を見せて下さるよう、しきりにお願いしました。

「天国の私の家を見たいのですが！」

主はこう言って許して下さいました。

「**よろしい、あなたの家を見せて上げよう。**」

主は私の家に連れて行って下さいました。それは、完全に金で造られています。

その家は12階建てでした。

天使たちが私の家を建てるのに忙しくしていました。

私は興奮と解放を感じて、ウサギのように跳び回りました。

私は嬉しくなって、『おお、我が魂よ、褒め称えよ』を歌い出しました。私が賛美して歌っていると、主が言われました。

「**愛しいユーキューンよ、私はあなたと結婚式を上げたいのです。**」

イエジは私が行く所どこにでもついて来ました。

「姉妹、イエス様は素晴らしいわ。たくさんの食べ物を下さるし、愛をいっぱい下さるのよ。私、ここにいる、とても幸せ！
ねえ姉妹、花園で遊ばない。」

イエジと私は花園に行き遊びました。

花の周りを転がったりして楽しい時間を過ごしました。

私たちは花園で長い時間を過ごしました。

主が言われました。

「**ユーキューンよ、もう帰る時間ですよ。イエジにさよならをしなさい。**」

イエジ姉妹が言いました。

「姉妹、元気でね。また来て。」

私たちはぎゅっと抱き合ってから別れました。

リー、ハークスン: *イエス様の血で覆われると、悪鬼たちは近づく勇気がない。

私が祈っている間、聖霊が私の体に火を入れ続けておられました。

私の体は耐え難いほどに熱くなり火の玉になっていました。

たくさんのいろんなタイプの悪鬼たちが私を攻撃して来ましたが、私の体に触れると、彼らに火が付いて、灰になってしまいました。

彼らは皆、溶けてしまいました。

蛇が私に向かってスルスルと滑って来たので、私はそれを掴んで、頭を打ち砕いてやりました。

それを木の棒に巻き付けて火を付けました。

白衣でショートヘアーの悪鬼が私を攻撃しようとしてきましたが、私はそれを掴んで、私の火で燃やしてやりました。

他の霊たちが私に向かって来ましたが、私の体から聖なる火が出ていたので、彼らは逃げ出しました。

悪鬼がなぜ牧師に近付かないのかがやっと分かりました。

彼が祈るときはいつも彼の体が火の玉になるので、奴らは牧師を避けるのです。

彼らが牧師を避けるのを見ていると、まさに、エンターテインメントを楽しんでいるようなものでした。

電気ピアノが『聖霊のバプテスマ』という曲を弾き始めました。そこで私はそれに合わせて霊の中で踊り始めました。

私はダンスをしながら悪鬼たちと戦っては打ち負かしていました。

すかっとしました。

イエス様は喜ばれて、私を賞賛して下さいました。

「**素晴らしい仕事だ。親愛なるサムよ！**」

主の励ましの言葉によって、最高の気分になりました。

電子ピアノが『3本の釘』を弾きました。すると、すぐに私は悔い改めの涙が溢れてきました。

イエス様が私の涙をふき取って下さり、暖かい言葉で慰めて下さいました。

彼が祈っている教会のメンバーたちの間を歩き始められて、彼らの頭に触られました。
牧師のところに来られると、彼の頭を何度も触られました。

大声でイエス様が天使たちに命じられました。

「天使たち、イエス様の教会の入り口に私の血を塗りなさい。悪鬼たちにこの建物の中を行進させてはならない。私の血を空中に塗りなさい。」

天使たちはすぐに現れて、彼の命令を大急ぎで実行しました。

まず最初に、教会の入り口と天井に保護層を設置しました。

入り口とドアと2本の柱が保護層を受けました。

保護層の一番上の層に、天使たちは主の血を厚く塗り始めました。

私たちを保護するための血が塗られると、悪鬼たちが教会の中に入ること、互いに争って混乱が生じているのが見えました。

血が私たちを保護しているので、どれだけの悪鬼がいるかは問題ではなくなりました。だれも教会の中に入ることができませんでした。

それで、私は平和の中で祈りを終えることができました。

ペク、ボンニョ姉妹：*神の保護によって、私は地獄での拷問の間、痛みを感じなかった。

私が祈っていると、主が2人の天使と共に現れました。

彼らは銀河まで私をエスコートしてくれました。

私たちが目的地に到着すると、主は、天使たちに天に戻るように命じられました。

次に、イエス様が言われました。

「ボンニョよ、地獄を訪問しよう。」

私が主の手を取るとすぐに、もう私たちは地獄にいました。

私たちは狭い通路を歩き始めました。

その通路が非常に狭く、田圃(たんぼ)の畦道(あぜみち)を歩いているような気がしました。

その通路の両側は底が見えません。

崖は果てしなく下っていました。

バランスを失えば、道から落ちてしまいます。

下の方からは悲鳴や呻き声が反響して聞こえてきました。

人々の叫び声は多くの苦痛を受けているようでした。

酷い臭いが辺りいっぱい漂っていて、耐え難いものでした。

腐敗した死体と焼ける肉の臭いがしてきました。

黒い煙が絶えず立ち上っていました。

バランスを保つのが大変でした。

私はどちらに進んでいるのかわかりませんでした。

以前、私たちが地獄にいたとき、主から切り離された経験がありました。

それがまた起こると怖いと思いました。

私は彼の手をしっかりと握り締めていよう、と決心しました。

私たちはさらに奥へと歩き続けました。

狭い通路がさらに狭くなりました。

非常に細い道でバランスを取ろうとすると、私は主の手を離さなければならなくなりました。

主は前に歩き続けられました。私は彼のガウンの縁(へり)を掴んで、後ろからついて行きました。

通路の両側からは、「助けて！」という悲鳴がずっと聞こえました。

「私を助けて！熱い！お願い、私を助けて！」

何百万とも思える声の下から反響して聞こえてきました。

悲鳴はとともやかましく、非常に大勢でした。それが私の耳の側で叫んでいるようでした。

誰かが後ろからつけて来るような感じがしてきました。
また、だれかが私の縁(へり)につかまっている感じもしました。
そのとき、私の周りに人々の存在を感じました。
私は、急に落ち着かなくなり、怖くなりました。
私は身構えて、「ただ主を仰ぎ見よ。ただ主を思え。ただ前に歩き続けよ。」と考えながら勇気を奮い起こそうとしました。
私が考えていたように、私が最も恐れていたことが起こりました。
主が姿を消されたのです。
地獄全体が暗くて、ほとんど何も見えません。
しかしながら、わずかな明かりが見えましたが、それも一瞬の間でした。

一瞬の光が見えたのは、それが姿を消される前の主であったことが分かりました。
もう私の周りの何処にも主を見ることはできませんでした。
私は考えました。
「ああ、どうしよう。私はどうやってイエス様を見失ったんだろう。主はとても薄情だわ。どこに彼はおられるんだろう。彼はなぜ私をひとりぼっちにされたの。」
私は絶望を感じました。
「イエス様、あなたはどこにいますか？お願いします。戻って来てください！私を助けてください！怖いのです！主よ！」
私は主を呼び求めましたが、周りのどこにもおられません。
前に歩き続けたかったのですが、暗くてそれもできません。

私は次の一歩が出せずに、立ちすくんでしまいました。
私には何のプランもなし、迷ったと思いました。
突然、何か足の前でうごめいているのを感じましたが、
足の周りに何がいるのか分かった時には、ショックで気絶するところでした。
4匹の黒い蛇が私の両脚にしっかりと巻き付いて、上に上がって来ようとしていました。
イエス様と一緒にいる時には、こんな事は決して起こりませんでした。私が主を見失うとすぐに、蛇が私に巻き付いて来たのです。

私はすぐに気持ちを落ち着けてから叫びました。「よくも私に巻き付いたな。」
蛇をどなりつけてながら、私は彼らの胴体を掴んで遠くまで投げました。
私は暗闇の中を前方へ移動し始めました。
手と足でさぐりながら、ゆっくり動きました。
私の移動がとても遅いので、蛇たちは私に追いつくことができました。
彼らが私に追いつくと、私の体に巻きつき始めました。
私は彼らを掴んで、再び、投げ飛ばしました。
私は前に移動を続けましたが、またも蛇たちは私に追い付いて来たのです。
また彼らを投げ飛ばしました。
まるで悪夢の中で同じ事を繰り返しているようでした。
奇妙なことに、蛇は私に噛み付きませんでした。
彼らは非常に大きくもなく、長くもありませんでした。
異なった色をした中型の蛇でした。

しばらく蛇と戦った後で、前に移動することができました。
遂に頭蓋骨や骨がいっぱいある場所に着きました。
頭蓋骨や骨が山ほども高く積もっていましたが、それが生きていて動いています。
だれかが私の衣服の縁(へり)を掴んでいる感じがしました。
私の縁を掴んでいるのはだれだろう、または何だろうと思って振り返ると、一つの頭蓋骨が私の服を噛んでいます。
私がそれを払いのけようとする、それが抵抗しました。

この骸骨には手はありませんが、縁を掴むのに歯を使ったのです。
それが私に話し始めました。「私も連れて行ってください！お願いします！」
その瞬間、私は苦しんでいた私の両親、弟、甥、義理の兄弟のことを思い出しました。
私が家族のことを思っているとき、私はそのことを忘れてしまって、つい怒りを爆発させて汚い言葉を発してしまいました。

「今は自分のことで精一杯なのよ。よくも私のガウンを掴んだわね！わたしゃ忙しいんだ。出口を探してるんだからね！くそっ！道を開けな！私のガウンを放しな！」
私は叫んでから、その頭蓋骨を打ち叩きました。すると、それが粉々になってしまいました。
今度は、いくつかの手の骨が私のガウンをつかんで引っ張りました。
それを払い除けようとしたのですが、それが抵抗します。
あまりにも多くの骨と頭蓋骨があって対処するのが大変でした。とてもみんなを打ち負かすことはできません。
私は大声で叫びました。
「あんたたち、汚らしい骨たちめ！私の体は聖なる火がかっか、かっかと燃えてるんだ。また、三一の神が私の中に生きておられるんだ。私に触ってみな、あんたたちはね、ばーっと燃えて灰と塵になっちゃうんだよ！私に触るなら、触ってみな！」
頭蓋骨と骨は、それ以上私に近づきませんでした。
私に触ったのは灰になりました。
骨に悩まされることが収まると、その先は何の障害もなしに、進むことができました。

イエス様が以前私に同伴して下さったときには、地獄の中を移動するのはとても簡単でした。
主は光ですから、彼は光を供給されました。
彼なしで歩くのは、非常に困難で紛らわしいものです。
手探りして前進するのは大変疲れました。
暗闇を進むのに、私の精神力を総動員して掛からなければなりませんでした。
私は疲れ果てて、知らない間に座りこんでいました。
私のガウンに付いている翼は破損していました。
それが酷くなって、今はもう飛ぶことはできないでしょう。

私は気持ちを新たにして、勢いを取り戻しました。
前方へ移動しましたが、今度は這いずって行きました。
眠そうになっていたのもう少しで寝てしまうところでした。
私は数秒間、居眠りしました。そして、目を開けたときに、私はセル(訳注:独房)の中にいました。
セルは非常に狭苦しい所でした。人1人が入るだけの余地しかありません。
しかも非常に暗くて、何も見えません。
これはまずいことになった、と思っていると、何か生き物が私の体と髪を引っ張り始めました。
それが何かぞっとするような、呻くような音を出しています。
私の怒りが爆発して、またも汚い言葉が私の口から出始めました。
出口を探しますが、絶望的なようです。
空しい努力でした。
私とその状況に抵抗していると、至る所から手が出て来るようで、それが私の体を引いたり、揺さぶったりしました。
私はそれに勝てないので、私からはますます酷い言葉が出て来ました。

「お前たちの手首をすべてへし折ってやる！私に触るなっ！あんたたちが正しい生活を送っていたなら、こんなところで終わることはなかったんだよ。ふざけるんじゃないよ！」
私は彼らに言いました。
「私はね、地獄の王、この場所の支配者、サタンを退治するためにここに来たんだ。サタンは大勢の人々を騙し惑わしてみんなを地獄に連れ込んだ奴だ。何としても、あの悪鬼どもの王を退治してやる！
私の体には、三で一の神様から貰った赤々と燃える聖なる火があるんだ。私の体に触ってみな、あんたたちはみんな死んじゃうよ！私はイエス様の血で覆われているんだ。だから、私に触ったり掴んだりする者は誰でも焼かれて灰や塵に

なっちまうよ。」

そう警告すると、彼らは皆、驚き恐れて後ずさりしました。

数秒後に、第3のランクにある悪鬼が現れました。

私は以前、彼に遭ったことがあるなと思いました。

彼にはおよそ50の頭と脚がありました。

その悪鬼が私の脚をつかんで、私のガウンを引きはがしました。

私は裸になりました。

私は雷のような声で叫びました。

「お前は悪鬼たちの王に命じられて私の服を引きはがしに来たのか。剥がすなら、剥がしてみよ！

お前が何回私の服を引きはがしても、私は怖くなんかないぞ。悪鬼め、お前なんか怖くないぞ！私の中には三一の神と聖なる燃える火が住んでおられるのだ。お前なんか恐れない！お前がどんなに私を怖がらせようとしても、私は動かされない。私はお前に対して反感を抱いているのだ。

私の両親が地獄で苦しんでいる事実に私の心は痛む。悪鬼たちの王のせいで私の両親は苦痛に耐えなければならない。何としても、あいつを見つけ出して、両親の仇を討ってやる。

お前では相手にならん。私から去れ！悪鬼たちの王を連れて来い！急げ！行け！」

悪鬼が怒って叫び返しました。

「今日は俺が相手だ。俺の兄弟サタンがお前の服を引きはがして、眼球をくり抜くようにと俺に言ったのだ。お前の肉を骨から切り取るように命令された。また、昆虫をお前の肉に入り込ませて、食わせるようにとも言われたぞ。今日、お前は死を味わうのだ！はははは」

と言って笑いました。

彼が私を脅したので、私は答えました。

「何だと？このつまらぬ悪鬼め、好きなようにするがいい！主が私の中に生きておられるから、お前が私の肉を切ったり、目をくり抜いたりしても、痛くも何ともない！私は中に聖なる燃える火を持っているから、気をつけることだ！分かったぞ。お前は何度も私たちの教会に来て、随分邪魔をしてきたな。お前は牧師が本を書くのを邪魔したろう？さて、好きなようにするがいい！」

悪鬼がナイフを見せました。

それは、紺色をしており、非常に鋭そうでした。

彼は私を寿司を切るように私の肉を切り始めました。

何の痛みもありません。私は瞬きもしませんでした。

「おお、元気が出て来た。いい気持ちだ。好きなように、肉をぜーんぶ切ってしまいな。私には三一の神が私を守って下さるから、何の心配もしないぞ。もっと切ったらどうだね！」

私は自信たっぷりに、悪鬼をいらいらさせてやりました。

全能の神が私を保護して下さっており、彼のパワーが私と共にあったとすることができます。

私の目がくり抜かれても、少しも痛みを感じませんでした。

ちょうど痒(かゆ)い所を引っ掻くような気分でした。

私はさっぱりしました。

肉はなくなっていました。

私は骸骨でした。

50の頭を持つ悪鬼はウジ虫がいっぱい入ったバケツを持って来て、それを私の体に注ぎ掛けました。

ウジ虫が私の骨の髄まで侵入し始めました。そして、私の骨髄を食べ始めました。

また、切った私の肉も食べていました。

ウジ虫が私の骨をむさぼり食っても、神の特別な保護によって、私は何の痛みも感じませんでした。

私は異言で熱烈に祈り始めました。

祈りながら、自分の気味悪い姿を見ていました。

ウジ虫が私の骸骨に群がっていました。
それらは何の効き目もありませんでしたが、私に影響したのは、苦痛の中にある私の母のことでした。
私は涙が出てきました。
私は今や干からびた骸骨になってしまった価値のない罪人です。
悪鬼が私に苦痛を与え苦しめようとする中にも、私を保護しておられた主に感謝を捧げました。
私の平和な瞬間は短時間で終わりました。
もう一度、私は家族の苦痛のことを思うと、非常に腹が立ってきました。
私は悪鬼たちに対し悪意に満ちていました。

*地獄の王サタンとの対決。

私の両親のことを思うときはいつも私の体から血の気が引く感じがします。
私はただもう、私の家族の苦痛への復讐のためサタンを見つけ出したいと思いました。
私の家族を苦しませようと悪鬼たちに命令を下すのはサタンです。
しかし、彼の居場所を見つけることができなかったので、私は息が詰まるほどストレスが溜まりました。
私は彼の注意を引くために、不快な言葉を使い、あらゆる方向に向かって叫びました。

地獄の王サタンを見るや、私の怒りが爆発しました。
人々が悪霊とか悪鬼を見たり、サタンの声を聞いたりした場合の彼らの反応は、一般的に、怖くて身震いしたり、圧倒されたりすることです。
しかし、祈りの間、悪鬼と戦っているのも、恐怖には免疫があります。
彼を見たとき、私は動揺することも、まぶたがぴくぴくすることもありませんでした。
突然、私は叫びました。
「ヘイ、お前は犬の糞か、サタン？悪鬼たちの王か？おい、\$ * @ # % & (訳注: 訳の分からぬ言葉)！」

私は止まるとなく、続けざまに口汚く罵りました。
「お前が地獄で私の両親を十字架にはりつけにしたり、拷問を加えたり、火の中に投げ込んだりしているのだな。お前が私の両親を沸騰している油の釜の中に投げ込んで油揚げにしているのだろうか？
お前が地獄の悪鬼たちに命じて、多くの人々を地獄に引きずり込ませているんだな？
私はここでお前に会うために、遙々やって来た。私は平和裏にここを去るつもりはない！
地獄をひっくり返してから去るつもりだ！お前には、人々を苦しめる意外に良い方法はないのか？
事故や不運を引き起こしておいて人々を死なせて地獄に連れ込んだ責任がお前にはあるぞ。
大勢の人々を地獄に引きずり込むことに対する責任がお前にはあるのだ！
お前は犬以下だ！」

*サタンの姿

私が実際に地獄の王サタンの姿を目撃できたのはこれが最初でした。
サタンの姿は私の想像を超えていました。
彼は父神を真似ていました。
サタンのサイズが非常に大きいのです。
私が頭をもたげても、全体像を見ることはできませんでした。
サタンの高さは地獄の境界に達しました。
体の幅は地獄の左端から右端に達しました。
サタンの王座は、また非常に大きく、私の想像を超えていました。

サタンの翼はこうもりの翼に似ていました。そして、それらがゆっくと羽ばたいていました。

私はサタンを見るために、長い間頭をそり返らせていました。
しかし、首が痛くなってきたので、彼の前で横たわることに決めました。
横になると、サタンの全体の姿を見ることができました。
私が彼の正面に横たわっても、サタンは何も言いません。ただ私を見つめるだけです。
故意に彼をいらだたせようと思って、私は口汚くしゃべり始めました。

「悪魔め、お前の醜悪な容貌はどうしたのか？ そんな酷い容貌で、よくまあ、お前は王として仕事ができるもんだ。自分の目を見ろよ！ どちらもお前の顔の側面まで斜めに流れているではないか。私を見よ！ 私はここで仰向けに横たわって、とても快適だ。」
私は、口汚く彼にしゃべり続けましたが、何の反応もありません。
彼は1インチも動かさず、目はピクリともしません。

サタンはどんな姿にでも変身できるのですが、私の前では縦横に大きな姿をして立っていました。
とてもいやでたまらない風貌でした。
顔はヒキガエル、体は人間、髪は体中にまばらに生えており、非常に太っていました。
動くのがおっくうなようでした。
悪鬼たちの王が震えないので、私は再び彼に向かって叫ぶことに決めました。

「ヘイ、私はお前よりはるかに強いよ！ 私は三一の神に仕えているのだ。彼が私を守って下さる。私はお前に挑戦するぞ！」
遂にサタンが話しをしました。
「小さいの、よくまあここに来て、ばかな真似をするものよ！」
私は反論しました。
「お前は私に一度も会ったことがない！ それなのに、よくまあ無礼な話し方をするじゃあないか！」
これには彼も相当いらだって、彼の目がだんだん大きく開いてきました。そして、赤い色をした光のボールが現れました。

サタンが私を笑って言いました。
「ヘイ、お前の首が痛くないか？」
私は叫びました。
「なんで私の首が痛むのか？ 私はお前を滅ぼすために来たんだ。私の首には問題はない。@#%\$#! お前は太っちょだから横になることも出来まい！ お前は自分のことをひとかどの者だとも思っているのか？
お前の体は醜くて、ヒキガエルそっくりだ。体のプロポーションが良くないねえ。思い違いをしないことだ！ 下りて来い！」

私は外側で叫んでいましたが、内側では異言で祈って、三一の神に力を下さるように求めていました。
聖霊からの聖なる火を求めていました。
私がサタンに向かって口汚く話していると、彼は私を嘲ったり、鼻でせせら笑いをしました。
私はあきらめませんでした。
私はずっと彼をいらだたせました。
「サタンよ、私を食って、飲み込んだらどうだい！ お前が私を食べたなら、お前の胃に下って行って、お前が私の両親にするよりも何千倍も苦しめてやる。
お前の内蔵を切り刻んでやる！
お前の舌をえぐり出して、地獄の火に投げ込んでやる。
急げ！ 下りて来い！」
サタンが応じました「俺がなぜ下りるんだ？ お前がここに上がって来い！」
私は激昂して、癩癩(かんしゃく)が爆発しました。
イエス様を見ることはできませんでしたが、私は彼に祈り始めました。

*ペク、ボンニヨ姉妹、サタンを攻撃する

「イエス様、あなたを見ることはできませんが、あなたはいつも私と一緒におられると信じています。イエス様、サタンに一撃を加えたいと思います。
しかしながら、私にとって彼は大き過ぎます。
私は一撃を彼に加えることができません！
お願いします。はしごをください。彼の頭まで上って行って彼を攻撃しましから！」
主の命令で、大天使ミカエルがすぐに天から大きな高いはしごを持って来てくれました。
そのはしごは非常に大きくて、地面から地獄の境界にまで達しました。

大天使ミカエルの助けで、私はサタンの背中にはしごを掛けました。そして、私たちは階段を昇り始めました。
それは非常に高く危険でした。
私は大天使ミカエルの助けなしには、頂上まで行くことはできませんでした。
奇妙なことです、私たちがはしごに登ってもサタンは筋肉一つ動かさませんでした。
私たちが頂上に着くと、私ははしごから彼の肩へ飛び降りました。
私が爪で彼の皮膚を攻めにかかったのですが、効き目がありません。
サタンは筋肉一つ動かさません。
まるで私が彼にとって無であるかのように、彼は私を無視しました。
サタンの背中の皮膚は岩のように固いのです。
私が爪を使って彼の皮膚をどんなに攻めても駄目でした。
彼を引っ掻きながら、私は力いっぱい叫びました。
「この汚らしい悪魔め、これを受けてみよ！」
「三一の神よ、私に力をください！パワーをください」と言いながら、私は異言で自分のために祈りました。
引っ掻き続けていたそのとき、遂に跡を付けることができました。

引っ掻いて激しく攻めたのですが、サタンの皮膚は非常に厚くて、かすり傷程度の傷しか与えることができません。
私は思いました。『これはなぜこんなに難しいんだろう？』

その瞬間に、私に知恵が湧いて来て、私は聖霊に大声で叫びました。
「聖霊様、どうぞ聖なる剣を私にお与えください！今、それを私に下さい！」
私がそう大声で叫ぶと、巨大な金の剣が降りて来ました。
剣が私に近付くと、それを掴んで、サタンの背中に突き刺しました。
繰り返し彼の背中に突き刺しました。
全力で彼の背中全体にわたって手当たりしだいに突き刺してやりました。
彼の背中を切ると、その皮膚の断片が地面に落ちました。

次に、私はサタンの頭に登りました。そして、情け容赦なく、目の1つに突き刺しました。
サタンは目の中に複数の目を持っていました。
もう一度、彼の背中に戻って、翼の1つを切り取りました。
彼は自分の王座から跳び降りて、大声で叫びました。
私は叫びました。
「悪魔め、口を開けろ！私がお前の胃の中に入って、お前を始末してやる！お前の腸を切って、そいつを燃やしてやるぞ！」

私が再びサタンを攻撃しようとしていた、ちょうどその時、上から明るい光が注がれて、主が現れました。
彼が言われました。
「**ボンニヨよ、あなたは素晴らしい仕事をした！さあ、下りておいで。今日は、それで十分だ。さあ、行こう。**」
私は主に抵抗して、すぐ答えました。

「主よ、行きたくありません！私の怒りが、私の中でまだ激しく燃えています。もっと時間が必要です。私の両親はどうですか？彼らは悪鬼に苦しんでいます。今は、行くことができません！今私が行きますと、私の家族は再び残忍なやり方で苦しめられるでしょう。それを知ってて、どうして去ることができますか？今は、行くことはできません！」

主が言われました。

「ボンニョよ、今日あなたは十二分なことをしたのだよ。十分です！もし誰か他の者であったなら、恐怖で凍り付いたことだろう。彼はサタンに怯えたことだろうし、サタンと戦うことなど、できはしなかっただろう。

しかし、あなたが確信して祈ったので、あなたが悪鬼たちの王を攻撃するのを助けるために、私はあなたの中にいた。あなたが十分に爆発したのは間違いないのだよ。さあ行こう。

ボンニョよ、私は地獄を目撃するために無数の人々を連れて来たが、あえて彼の肉に切り込んだり、目を突いたりして、敢えて彼を攻撃するような人は他にだれもいなかった！

あなたは珍しい聖徒だ！今は、それで十分。さあ行こう！悪鬼たちの王は傷を受けたのだ。」

主と私は大天使ミカエルのエスコートで天国まで旅行しました。

***ペク、ボンニョ姉妹が天国の泉で体を洗う。**

天国にいても、サタンが私の家族に復讐するかも知れないという思いで重たい気持ちでした。

私は考えました。

「最後まで戦って、サタンを地獄の火に投げ込んでやるべきだった。それで私は満足できただろう。」

天国は想像を遙かに超えて美しい所です。

主は金で造られた高い塔に私を連れて行かれました。

その塔の中には、水晶のように透明な水が流れていました。

彼は私を塔の中まで連れて行って、私を抱擁して下さいました。

私が惨めであったため、彼は絶え間なく私を抱擁し、なだめて下さいました。

彼は尋ねて言われました。

「ボンニョよ、あなたが地獄に行って苦しみ、拷問を加えられ、怯えていたのを私は知っているよ。しかしながら、天国にいるときは、最高の気分を感じないかね？」

私は、「はい、主よ！」と答えました。

主は続けて言われました。

「ボンニョよ、今日あなたは悪鬼たちの王と戦ったので、力を失ってしまったね。

大天使ミカエルとガブリエルが手伝ってくれるから、体を洗いに行っておいでなさい。

あなたがサタンの体を切り裂いたときに、彼の体から出た液体があなたの体にくっ付いているから、そのまま、あなたが地球に戻ると、毒が強くなって、あなたは死んでしまうのだ。

天使たちが、あなたの体から毒を洗い流し、あなたをきれいにしてくれるよ。」

私が入浴していた間は、他の天使たちが外で、翼の付いた非常に柔らかい白のローブを準備して待っていてくれました。

天使たちの助けで、私は水晶のように透明な泉の水で体をきれいに洗いました。

水は大天使たちの腰の高さまでありました。

しかし、私は首の辺りまでできました。

また、私は水晶のように透明な泉の中で泳ぎました。

泉の水の横にある更衣室に入って、ローブを身につけました。

私が雲に乗るのを天使たちが助けてくれました。

私は非常に疲れていました。

それから、大天使たちは他の多くの天使たちのいる所に私を連れて行きました。

天国の空には雲が作られる小さな孔(あな)があって、そこから、絶えず雲が出ていました。

それは、実に驚くべきで驚異的です。

*聖なる燃える火のトンネル

イエス様は私を聖なる燃える火が置いてある長いトンネルの部屋に私を連れて行かれました。私たちは遠くから見たのですが、その熱を感じました。そのトンネルは大部分の魂たちには、立入禁止の区域でした。私は主に尋ねました。「私をトンネルの中に入れて、そして、すぐにそこから出して下さいませんか？」

それから、主が説明をして下さいました。
「人がそのトンネルに入ったのなら、終点まで行かなければならないのだ。その火のトンネルは耐え難いほど熱くて、恐ろしい場所なのだよ。入ったら引き返すことができないのだ！
あなたがトンネルに入ることを私が望んだとしても、あなたの体力が消耗しているから、今は、それに耐えることができない。そのトンネルは人が赤々と燃える火によってバプテスマされる場所だ。
通常の状態では、それに耐え得る者はだれもない。体力と熱と炎に耐えるパワーがなければならぬのだよ。」

「人がそのトンネルを通り抜けて、聖なる火によってバプテスマされると、その人が主の働きをする際には、火の強力な働きが顕現する。トンネルは極めて強力だ。心臓が弱くは駄目なのだ。
そうでないと、心不全になる。だから、あなたは、体の回復に気を配って、もっと祈らなければならないよ。
その時には、あなたを入らせて上げる。キム・ヨン ドゥー牧師が本を書いているから、彼を最初にこの火のトンネルを通らせて、燃える火でバプテスマを受けてもらいます。
しかし、彼も体力を失っているから、彼の体が完全に回復してから、トンネルに入らせる。その次は聖・カン、ヒュンジャになる。
あなたは三番目だ。牧師が先ずそれを経験するために入るのです。
あなたと聖カン、ヒュンジャは殆ど同時に入ることになる。利己的になってはいけないよ。その時まで忍耐して耐えなさい。教会の信者はみな祈りで疲れ切っている。
天使たちと私は霊だから、疲れることはありません。
私たちが機能するのに昼夜の別はないのです。
しかし、あなたの物質の体は物質界に服し、制限を受けます。
あなたの霊は、現在、このすべてを経験するためにあなたの体から出ている。
しかし、あなたの霊があなたの体と再結合すると、あなたは耐え難い極度の疲労を経験することになるのだ。」

この聖なる燃える火のトンネルを通り抜けると、新しい強さとパワーがその火から与えられると言われました。この新しい情報に、私をそのトンネルに入れて下さいと、主にお願いしました。しかし、主は父神の許可が必要であると言われました。彼は、まだ私の時でないと言われました。

好奇心から、私は主に尋ねました。
「主よ、あなたはトンネルが非常に長くて、無限であるように感じられると言われましたが、どれくらいの長さあるのですか？」
主は、地球の用語で言うなら、仁川市からソウル市までの距離である、と説明されました。
人が入ると、その人は、単独でそこに入って通り抜けなければなりません。
いったん入ると、入った所に戻ることはできません。前に向かって歩かなければなりません。
それから、主は天使たちに、私を教会までエスコートするように命じられました。
私は非常に疲れていました。主は他の仕事のため見えなくなりました。

私が戻るのに 500 人の天使たちが私をエスコートしてくれたかのように感じました。

天使たちが私をエスコートしてくれている間、彼らは励ましの言葉で私を慰めてくれました。
「聖ボンニョよ、サタンを終わらせることはありませんでしたが、あなたは彼を剣で刺し貫き、切り裂き、突き刺したのです。あなたは素晴らしい仕事をしました！今度は、あなたの悲しみに打ち勝って、元気におなりなさい！」
私たちは互いに微笑んで、さよならを言いました。

====
26 日目
====

(マルコ 9: 23-24) **イエス様は彼に言われた、「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」。**
その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。

リー、ハークスン:

私が祈り始めると、すぐに 8 本脚の悪鬼が現れました。
それが私を攻撃しようと突進して来ました。
その悪鬼はカメレオンのように色が変わりました。
緑からグレー、赤などといろいろに変化しました。
それが私に向かって突進して来たとき、私はそれに反撃しようと思って手を突き出しました。
私がそいつの目を突こうとしました。するとその悪鬼は私の反撃をかわしました。そこで、代わりに悪鬼の鼻孔に指を突っ込んでいました。

その悪鬼が恐竜に変身しました。
それは 1 つ目で体全体に小さな突起がありました。
その突起はミニの角のようでした。
その恐竜は長い凶暴な尻尾を持っていました。
それで打たれたら私は即死でしょう。
恐竜は非常に恐ろしそうに見えました。
私は両手を延ばして、「聖なる火！」と叫びました。
私の両手から火の玉が恐竜目がけて飛び出しました。
その火の玉は巨大な恐竜を打ち倒してしまいました。
地面から恐竜はうなり声を出しながらワニの歯をさらけ出し、その体からはヒルのようなものが這い出してきました。

***リー、ハークスンが天国のブドウを食べる。**

イエス様が現れて、私に尋ねられた、「**ハーク、スンよ、天国を訪問しよう。**」
私は答えながら尋ねました。
「イエス様、シン執事も私たちと一緒にいきますか？」
主は、一度に 1 人だけだよと答えられました。
私は尋ねました。
「最初に、シン執事を連れて行って下さいませんか？」
主は私の要求を否定されました。
「**シン執事の祈りは十分に強くないのだ。まだ彼女を連れて行くことはできないよ。**」
その結果、主と私だけが天国を訪問しました。

私たちが天国に到着すると、主が言われました。

「私の子供のハーク、スンが天国を訪問するのだから、何か美味しいものをご馳走してあげよう。」

主はブドウに似たいくつかの果物を私に持って来て下さいました。

私はその果物を載いて食べました。

びっくりするような味でした！

天国の果物は地球の果物とは全く比較になりません。

主は父神の御座の正面に私を連れて行かれました。

彼は非常に強力であって巨大です。

彼はある種の椅子に座っておられるようでした。

上から輝く明るい光のために、私は見上げることができませんでした。

一瞬の間、私は父神を見たように思いました。

父神は霧状の雲か霧のようなものに覆われていました。

しかしながら、私は父神の顔をはっきりと見ることができました。

彼の前にテーブルがあって、それに数冊の大きな開いた本が置いてありました。

明るい金色がその本から輝き出ていました。

私が父神の正面に立っていると、天使たちの1グループが到着して、私を水晶のように透明な天国の海に連れて行ってくれました。

私は長い間泳ぎました。それから、イエス様の教会に戻りました。

***イエス様が全身血で覆われている。**

いったん教会に戻ると、私はすぐに祈り始めました。

祈りの中で、私の前にイエス様の苦しみの場面が現れました。

そのシーンでは、イエス様が十字架と共に歩いておられました。

彼が歩かれる間、棒で打たれました。

主は彼の背中に十字架をかついで歩き続けられましたが、彼は非常に弱っておられました。

彼は何度か転びました。

兵士が既に地面に倒れておられるイエス様を激しく打ち叩きました。

私は手を伸ばしてその鞭を掴んで止めさせようとしたのですが、無駄でした。

私はそれを掴むことができませんでした。

私の手が鞭を通り過ぎてしまったのです。

彼らはイエス様を十字架に付けて、大きな釘を彼の手と足に打ち付け始めました。

イバラの冠が彼の頭に深く食い込みました。

彼の全身が血で覆われるまで、彼の血が大量に流れ出しました。

イエス様は、私たちが想像するより遙かに恐ろしく刺し貫かれ、打たれ、そして、死なれました。

イエス様の苦しみの場面は耐え難いものでした。

私はたいそう泣きました。

主が近づいて来て、私を慰めて下さり、私の涙をふき取って下さいました。

「ハーク、スン、泣かないで。」

イエス様がいったん私の側を離れられると、多数の悪鬼が現れました。

私はその悪鬼たちと戦って打ち負かして、祈りを終えました。

キム、ジューン: *虫とムカデの群がった悪鬼

私が祈っている間に、いろんな変わった悪鬼どもが現れました。
その中の1匹は両目の隅に黒いあざがありました。
それは白い布を着た男に似ていました。
目はカエルの目に似ており、私を横目で睨みました。
その悪鬼は青白く、額にはしわがいっぱいありました。
それはサナギを思い起こさせました。
幼虫と小さなムカデがその体と顔から出て来ました。
たくさんの昆虫が顔全体を這いずり回っていました。

私はその悪鬼を掴みたかったのですが、気味が悪くて凶悪な外観には、とてもそんなことはできません。
そいつの喉を押さえて、振り回しました。
しかし、私はもう少しで気を失うところでした。
「昆虫が私の手に取り付いた！」
私は叫び声を上げました。
私はその悪鬼をペク、ボンニョ姉妹の方に投げました。
それが彼女に触れると分解して灰になってしまいました。
彼女は聖なる火で覆われていました。

そのすぐ後に、大きな蛇が胴体をくねらせながら私に向かって来ました。
私はその醜い姿を見て、やむを得ず尻尾を掴んで数回振り回してから、カン、ヒュンジャ夫人の方に投げました。
彼女は霊の中で踊っていました。
蛇がカン、ヒュンジャ夫人に向かって行って飛び越えようとするとき、彼女に噛み付こうとして口を開けました。その時カン、ヒュンジャ夫人から蛇に向かって火が出ました。
蛇はすばやくペク、ボンニョ姉妹の方に向きを変えました。
幸いペク、ボンニョ姉妹も聖なる火で燃えていました。
蛇はそこで方向を変えて、ハーク、スン兄弟を攻撃したのです。
そいつがハーク、スン兄弟に取り付くや、彼の体にしっかりと巻き付きました。

その時、突然、予期しない事が起こりました。
蛇が話し始めました。
「お前の力を超えているぞ。ハーク、スン、このがきめ、お前いつそんなに強くなりやがった？お前に巻き付くのが大変だ。」
そいつが不平を言ってから、次にユーキュン姉妹の方に這って行きました。彼女は蛇の頭に噛み付いて、首を切り落とそうとしました。
蛇は私の方に戻って来ました。
私は叫びました。
「このいやらしい悪鬼めが！お前はなんで集会をいつも悩ますか？」
私は手を剣の代わりに使って、そいつを半分に切ってやりました。
蛇は半分に切られて叫び声を上げました。
これは驚くべき経験でした。

私はその皮をむいて、野菜のように刻みました。
それを薪に乗せて、たき火の上であぶり始めました。
邪悪な蛇は「俺の体が、俺の体が」と泣き叫びながら消えました。
また、木の棒の先に蛇の目を挿してからあぶりました。
奇妙なことに、私がナイフが欲しいなと思うと、それが私の横に現れました。
それは私が火が欲しいなと思うと、火が私の横に現れたのと同じでした。
実際、私が考えたり、願ったりするものを、主は私に下さったのです。

その事件が過ぎ去ると、私は再び祈りに集中しました。
しかし、祈っている間に、少女に変装した悪鬼が再び私の前に現れました。
今度は、髪にパーマをかけたように巻き毛になっていました。
彼女の目は以前よりも光っていました。
そして、私たちの頭上を飛び掛けました。
私はびっくりして、主を呼び求めました。
「イエス様、あの悪鬼がまた来ました！主よ、助けてください！」
私が叫ぶと、少女が大声で言いました。
「おお、黙れ！うるさい！無作法な雌犬めが！」
私は彼女を吐り飛ばしました。
「なに？作法を知らないだって？雌犬だと！」
私からひどい言葉が飛び出てきました。

悪鬼が応じました。
「おお！このちびが。お前の方が私よりひどい言葉を使うじゃないか。」
彼女は手を腰に当てて尋ねました。
「ヘイ、お前は真剣か？お前は どうやってそんな行動ができるのか？」
悪鬼は私の振舞いにとっても驚いていました。
私は彼女に向かって走って行って、彼女の髪をつかんで、ピアノに向かって投げつけました。
私は怒って言いました。
「なぜって？私はお前にこんなことができるんだ！」
悪鬼を打ち負かした後で、イエス様が白いガウンを着て現れて言われました。
「ソバカスよ、調子はどうだね？」
私は答えました。
「イエス様、なぜ今、来られたのですか？あなたに来て欲しかったのご存知でしょう？」
主は言われました。
「ええ、ソバカスよ、ごめんね。少し遅かったかな？今、私はここにいるよ。一休みしようよ。」
イエス様が私の体のいろいろの箇所を押して下さいました。
彼が私の頭をなでて愛撫して下さると、私の髪が一度に1つ髪になって、ゆっくり前方に動きました。
彼が触れて下さる時の感覚は最高の気分でした。

イエス様が大好きなので私は彼のひざの間に顔を埋(うず)めました。
そして、顔や頭を彼のひざにこすり付けました。
こすりながら、私は小声で言いました。
「イエス様、あなたのひざはとっても柔らかくて気持ちいいです。あなたのガウンはなんでこんなに柔らかく滑らかなんでしょう？タッチがとっても良いです。」
主が答えられました。
「そうかい。後ほど天国に来る時には、このタイプのガウンを好きなだけ着せて上げるよ。」

***ジュンが天国の果物を食べる。**

今日、イエス様が訪問された時、手ぶらではありませんでした。
彼はいくつかの果物を持って来て下さいました。
それを私の手に渡して言われました。
「ソバカスよ、これを食べてご覧。」
私は尋ねました。
「イエス様、これは何ですか？」
彼は答えられました。
「これは聖徒たちが食べる天国の果物だよ。食べてご覧。とても美味しいよ。」
私は一口食べて言いました。

「ワー！ イエス様、こんなに美味しい果物、これなんと言うのですか？ 本当に素晴らしいわ。」

天国の果物は地球のりんごのサイズでした。
しかし、色は白くて、甘酢っぱい味がしました。
その果物が私の口に入ると、柔らかくなって溶けました。
それはとても美味しかったです。地球のどんな果物も比較になりません。
私が天からの果物を味わって以来、地球の果物では満足できません。

私が果物を食べるのを見て、主は微笑んでおられました。
果物を一気に食べてしまいました。
イエス様が尋ねられました。

「ソバカスよ、とても美味しかったですよ？ 毎日、天国から果物を持って来て欲しいかね？」

私は即座に答えました。

「はい、お願いします。毎日持って来てください！ 教会の信者みんなにも持って来て下さいませんか？」

*ジューユン地獄を訪問

主が突然現れられて、一言も言わずに、私を地獄に連れて行かれました。
私たちがに地獄に着いたとき、私たちは暗闇の中に立っていましたが、そこに大きな椅子が置いてありました。
その椅子は頭蓋骨で覆われ飾られていて、その上に長い髪をした生き物が座っていました。
それは身の毛もよだつような骸骨でした。そして、その顔を小さな虫たちが蠢(うごめ)いていました。
もっと注意して見ると、イモムシやウジ虫のようなもので、その生き物の顔から全身にわたって動いており、椅子をさえも覆っていました。



私は叫びました。

「主よ、いやです！」

イエス様は私に鋭い斧を渡されました。

私は手に斧を握って骸骨の生き物に向かって歩いて行きました。

十分近付くと、すぐに、骸骨を打ち叩きました。

その生き物とすべての昆虫たちが火の中で粉々になりました。

主は、私を喝采して強くして下さいました。

「ソバカスよ、あなたの信仰がとても成長したから、今は悪鬼たちを打ち負かすことが出来るよ。いつも信仰を持ち、自信を持っていなさい。」

突然、私はイエス様の教会に戻っていました。

後で、私が祈っていると、2本脚の悪鬼が現れました。

近づきながら、それが長い舌で私に、やじを飛ばしました。

私はその舌をつかんで、生き物を隅の方に向けて投げつけました。

それが壁に衝突して叫びました。

「痛っ！ 痛えぞっ！」

それが立ち直ると、後ろ向きにジャンプしながら、ジョゼフ兄弟の方に行きました。

それが気持ちの悪い舌でジョゼフの顔をなめ始めたのです。「おお、何とうまいこと！ 実にうまいぞ！」

ジョゼフ兄弟は何が起きているか、気が付いているのかどうか分かりませんでした。

ジョゼフは熱烈に祈り続けていました。

突然、彼が大声で言いました。

「イエス様の血！ イエス様の血！」

彼はまだ霊的に覚醒していなかったので、悪鬼が彼に対して嫌がらせをしているのに気付くのは困難でした。

彼が主の血と叫んでいると、彼の口から血が流れ出てきました。

その血が即座に悪鬼の舌を溶かしてしまい、悪鬼は青くなって恐れました。

それが逃げながら叫びました。

「これはどういう血だ？」

リー、ユーキュン: *ユーキュンがあらゆる種類の悪鬼と懸命に戦う。

私の祈りの最中に、トカゲの形をした悪鬼が現れて、私をやじりながら近づいて来ました。

私はゾツとしましたが、そいつの首を掴んでハーク、スン兄弟の方に投げました。

ハーク、スンはそれを受けて投げ飛ばしました。しかし、それがまた私の方に戻って来ました。

それで、私は再びそれを掴んでもっと遠い所に投げ飛ばしてやりました。

「悪鬼め！ イエスの名によって、立ち去れ！」

それは消え去りました。

トカゲがいなくなった後に、少女に変装した悪鬼が現れました。

顔の半分は白で、半分は黒です。

彼女は黒板を爪で引っ掻いて、私をいらいらさせようとしてきました。

私は叫びました。

「その音は聞きたくない！ 悪鬼め、イエスの名によって立ち去れ！」

しかしながら、そいつは立ち去りません。むしろ、ますます、私をいら立たせようとしてきました。

私はとても腹が立ったので、彼女の方に走って行って、髪の毛をつかんで、地面に投げ付けました。

地面に打ち付けられると、彼女は姿を消しました。

その後、私が祈りの中にあつた時、イエス様のことを思って泣き出しました。

しかし、今日は、彼はそうすぐには来て下さいませんでした。そして、あの邪悪な霊が再び現れて、私を嘲いました。

「ヘイ、お前はなぜ泣いているんだい？ イエスが来ないから、お前は泣いているのか？ お前は不機嫌になったな。」

それがずっと私をいらいらさせ続けたので、私が言いました。

「お前は私と戦いたいのか？」

それが叫び返してきました。

「来い。お前から来い。」

すると、それが短髪のずんぐりむっくりの男に変身しました。

私が大声で

「イエス様の血！ イエス様の血」

と叫ぶと、それが私を笑いました。

「何だって？ イエス様の血だと？ 血、それから！」

私は激怒して、三一の神を何度も何度も呼びました。

それが言いました。

「三位一体とはだれだ？ どこに三一がいるのか？ その名を呼ぶな。俺は怖くなる！」

もっと大きな声で、私は叫びました。

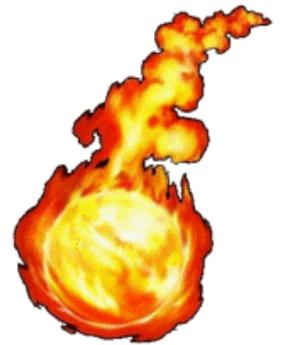
「三一の神よ、私を助けてください！」

その悪鬼が叫び返してきました。

「それで俺は恐ろしくなると言ってるんだ！ その名を呼ぶな！ お前はなぜ神を呼び続けるのか？」

すぐに、そいつの顔が歪(ゆが)んできました。
どこからか火の玉が飛んで来て、そいつの尻尾に当たりました。
彼は金切り声を上げて行ったり来たりしました。そこで、私はすばやくそいつの脚を掴んで、ブーンと遠くまで投げ飛ばしてやりました。

その少し後に、一方の目を縫い合わせた巨大な悪鬼が現れました。
傷の辺りに虫が群がって蠢(うごめ)いていました。
そいつが私に近づいて来て、繰り返しました。
「お前を地獄へ引きずり込まねばならん！」
しかし、私をそこへ連れて行くことができないと分かって、そいつが残念がりました。
私は叫びました。
「三一の神よ！私を助けてください！」
そいつは牧師が祈っているところに逃げて行きました。



牧師に近づくと、そいつが叫びました。
「こいつは毎日、祈ってやがる。お前はなぜそんなに祈るのか？」
そいつが牧師の妻の方に行って言いました。
「こいつも、いつも祈ってやがる。へイ、祈るの止めな！それは良いことじゃないぜ。全然、面白くもない！」
そいつが私のところに戻ってきて、私の邪魔をしました。
「へイ、祈りは悪いことだぞ。祈るな！」
私は爆発しました。
「祈っているのは私だ！お前はなぜ私の祈りをいつも邪魔するか？」
悪鬼が笑いながら私をやじって言いました。
「それはどういう祈りなんだい？それを祈りと呼ぶのか？遊ぼうよ！」
私はそいつに向かって走って行きました。
そいつの顔に触れて、私は叫びました。
「イエスの血！イエスの血！」
その悪鬼は懇願したり、不平を言ったりし始めました。
「暑い！俺を放してくれ！放してくれ！お願いだ、放してくれ！」
私はその悪鬼を遠くまで放り投げてやりました。

別の悪鬼が現れました。その頭には大きな角が1つと、大きな目と耳がありました。
私はその耳を引きはがし、目をくり抜いてやりました。
角を切り落とし、足を掴んで遠くまで投げ飛ばしました。
しかしながら、そいつが私にこだわって、何度も現れました。
それがあまりにしつこいので、私はいらいらしました。私は口汚く罵ってやりました。
突然、だれかが私のシャツを引っ張っているのを感じました。
私はそれがイエス様だと思って、嬉しくなって、振り向きしました。
しかし、イエス様ではありませんでした。それは黒い影の形をした悪鬼でした。
黒い影が私のシャツをつかんで、それにしがみ付きました。
私は叫びました。
「イエスの御名によって、出て行け！」
その悪鬼が私を嘲って言いました。
「出て行かないよ！俺は出て行かないよ！」
私は大声を上げました。
「三一の神！聖なる火！」
すると、火の玉が現れて、炎の中に彼らの体を包み込みました。
彼らは崩れてしまいました。

祈祷会が終わろうとしていたとき、主が現れました。

彼は牧師の方に歩いて行って、彼の祈りを聞かれました。
主は背中と体を、特に牧師が痛がっていた辺りを軽くとんとんとたたかれました。
それから、イエス様はまだ祈っている教会の信者たちのところに行かれて、同じように、彼らを軽くたたかれました。

*ペク、ボンニョ姉妹、地獄の王サタンと再び会う。

私が祈っていると、強力な暗黒が私に迫って来るのを感じました。
しかしながら、私は異言で祈り続けました。
光が螺旋を描きながら降って来るのが見えてきました。
天使たちがそこから下って来られました。
天使たちが進み出て言いました。
「私たちはイエス様の教会から聖ペク、ボンニョをエスコートするように命じられました。」
私たちは宇宙と天の川を通り過ぎました。そこでイエス様に会いました。
私たちは互いに会って喜び合い思いました。
イエス様が私の手を掴んで言われました。
「ボンニョよ、地獄を訪問しよう！」
主は地獄への道を導かれました。

地獄に到着すると、すぐに私たちは母のいる場所に行きました。
彼女は私が行くのか知っているかどうかは分かりませんでした。
私が到着したと分かったら、母の顔が青白くなって叫びました。
「ああ、ボンニョ！なんで、あなたはまた来たの？すぐに、この場所から去りなさい！」
私は答えました。
「母さん、母さんが心配だから、また来たの。サタンの目に傷を負わせたのは私だから、あいつが母さんに復讐をすることもかもしれないと心配しているのよ。私は、また、あいつの背中を傷つけ、翼を引きはがしてやったのよ。だから、私はまたイエス様と一緒にここに来たの。」
私が理由を母に説明すると、母は懇願しました。
「サタンをいらだたせないで。今、すぐにも、向こうへ行行って！」
私たちが話していると、突然、サタンのガランガランと鳴り響く声が全体に反響するのが聞こえて来ました。

サタンが叫びました。
「俺はお前に会うのを待ち焦がれておったぞ。俺はお前がもう一度来るのは分かっていた！今日、俺がお前に特別なものを見せてやる。お前は親族の苦痛を目撃することになるぞ。」
彼が巨大な椅子に座り、主と私はサタンの正面に立ちました。
私の親族は既に並んで立っていました。
私の家族がそこに立ったとき、私はショックで心臓が凍りました。
何が起こるか分からないので、私は不安で震えました。
私の心がへなへなになっていきました。

不安と恐怖の中にあっても、私の母は慰めの言葉をかけることができました。
「ボンニョ、私たちは地獄にいます。私たちはずっと前に希望を捨てたわ。もうこれ以上、私たちの心配はしないで。サタンに言うことがあるなら、今、それを全部言いなさい。」
私が彼を攻めて負傷させた辺りを、私はよく見ました。サタンの負傷した目は黒い物質で覆われていました。
他方の目を見ると、それは怒りに燃え上がっていました。
彼の怒りが非常に激しかったので、炎が彼から私の前まで飛び火して来るかのようでした。
彼は遂に再び私に遭遇できた満足感を示しました。
彼は復讐の機会を求めていたのです。
私はわれに返って、戦いに備えました。

私は大胆に宣言しました。

「サタン、私は内に三一の神と燃える聖なる火を持っているのだ。私はお前の頭を切り取って、地獄の火に投げ込んでやる。」

サタンは私の言葉を聞くと、答えて言いました。

「オーケー、よし！俺はお前の帰還を待っていたのだ。すべては俺の目的通りだ！」

***サタンが、かつてベク、ボンニョ姉妹が魔術師であったときに礼拝していた神々に変装する。**

私はサタンを全く恐れませんでした。

私は雷の声で彼に挑戦して叫びました。

「この邪悪な怪物め、お前の正体を明らかにせよ！

この醜い悪魔めが！お前はなぜ大勢の人々を苦しめるのか？

お前は男かそれとも女か？この惨めな存在めが！

この汚らわしい存在めが！お前はなぜ正体を明らかにしない？

私の病気が回復すると、お前にレッスンをしてやるつもりだった。

しかし、主がお前を攻撃しないようにと私に言われた。

お前とは口汚く話す以外はしない。私は1つのことを約束する。

私が完全に回復したなら、お前の首を切る！

私は地獄のすべてをひっくり返す。

お前は何に変身する計画を立てているのか？

お前の正体を明らかにせよ！」

私が叫んでいると、彼の顔が突然白くなりました。そして、超自然的存在に変身しました。

彼は山の魔術師、山の霊に変身したのです。

韓国の人々は聖なる神として山の魔術師を礼拝しています。

私は魔術師の顔を覚えています。

山の魔術師の姿になって、彼は優しく私の名前を呼びました。

「ボンニョよ、過去数年間、お前は礼儀正しく尊敬の念をもって、私を礼拝し仕えてきた。しかし、今、お前は私に挑戦し攻撃している。口汚く話しさえている。」

そして、彼はまるで虐待されているかのように、杖でどんと地面を叩きました。

彼は私が昔会った山の魔術師に変身していたのです。

私が他の神々を礼拝し仕えていたのは、彼らからパワーを受けることを望んだからでした。

私はより高いランクにある神々からのパワーを求めました。

私は以前よく韓国のすべての有名な山に登っていました。

サタンは以前私が会ったことのある強力な山の魔術師に変身していました。

サタンは、狡猾な重い声で話し続けました。

彼の声が幾分震えている感じがしましたが、それが欺きであることは分かっていました。私は口汚く話し始めました。

「この汚らわしい悪魔め！私がいつお前のようなばあを礼拝したか？」

サタンが質問をり返してきました。

「お前は俺がだれであるか知らないのか？俺の姿をよく見ろ。お前は以前よく私を尊敬の念を持って付けていたではないか、そうではなかったか？」

私は続けて主張して、お前とは何の関係もないと言いました。

「おい、じじい、私はお前を礼拝したことも、仕えたこともないぞ。立った今、私から離れ去れ！行かないなら、私が三一の神のパワーと聖なる火と主の血によって、お前を灰に変えてやる！さあ、とっとと私から離れ去れ！」

「しかし、それでも俺はお前が仕える老人だ！」
とそれが終わりまで言い張りました。

私はさらに起こりっぽくなって言いました。
「もし私がお前の側に来たなら、お前は死ぬぞ。お前は今、離れた方が身のためだぞ！」
山の魔術師に見えていた老人がサタンに戻りました。
私は彼が正体を明らかにするのを願っていました。そこで、私は叫びました。
「お前が巨大なサイズを自慢しても価値はないぞ。お前の背丈が地獄の天井に達しても、私はお前を恐れぬ。
お前の正体を明らかにせよ！」

「三一の神が私の中に生きておられるから、お前は恐れるに値しない。急げ！お前本当の正体を明らかにせよ！」
私は、彼が他の存在に変身するとは予想していませんでしたが、彼はそれをしました。
彼は巨大で背が高く、黒いドレスを着た長い髪の女に変身したのです。

その女性も私がかつて仕えた神でした。過去に、礼拝のために、私は心底から、有名な山でより高いパワーを捜し求めました。そして、遂に、彼女に会ったのでした。
私は大声で叫びました。
「お前は遂に自分を明らかにした！お前はなぜこんなに遅く現れたのか、醜い顔をして？私はそれがお前であることを確認した。さあ、お前は去るがよい。私がお前の目をくり抜く前にだ！」
女が去って、サタンが現れました。

イエス様は私の手を掴んで私を連れて行かれました。
「**ボンニョ、今日はこれで十分だ。さあ、行こう。**」
私は去りながらサタンを見て、ヒステリックに叫びました。
「この悪魔め！主が私を連れ戻しておられるから、お前に苦痛を与えることはできない。しかし、今度、私に会うための用意をしておくことだ。お前の首を切り落として、地獄の火に投げ込んでやる！お前を滅ぼしてやる！待ってろ！」

イエス様は私を天国に伴われて慰め励まして下さいました。
私たちは巨大な光が輝く山に到着しました。
私の左右にある山々はすべて明るい金色に輝いていました。
その明るさは目も眩(くら)むばかりでした。

2つの山の中腹に円い形をした孔がありました。
それらの孔が白い雲や霧を発生させて、それが立ち上っていました。
水の流れる所に水晶のように透明な池が見えました。
流れる池から、イエス様は5人の天使を呼ばれて、彼らに命じられました。
「聖ペク、ボンニョが肉体的に弱っているので、ここで風呂に入れてあげなさい。そして、イエス様の教会まで彼女を安全にエスコートして上げなさい。」

教会に戻ると私は祈り始めました。
私の両親がどうしているだろうと考えると、彼らがサタンから受ける苦しみのことが思われて、とても耐えられません。
私も体は弱くて調子が悪いし、痛みで苦しんでいました。
私は教会ベンチの上に横たわり、横になりながら私の祈りを終わめました。

====

(マルコ 11: 22-25)「イエス様は答えて言われた、「神を信じなさい。」

23 よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言い、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないで信じるなら、そのとおりに成るであろう。

24 そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでになえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりに成るであろう。

25 また立って祈るとき、だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるして下さるであろう。」

*シン スンキユン執事の耳から悪鬼が入る

何時間も異言で祈っていると、耳の中が痛くなってそれが長く続きました。

誰かが先の尖ったもので繰り返して私の耳を刺しているような感じがしました。

祈り続けながら痛みを無視しようとしたのですが、痛みは耐えられないほどになりました。

私はハーク、スン兄弟に尋ねました。

「ハーク、スン、耳がとても痛むんだけど、ちょっと見てくれない？ 痛みの原因が分からないの。」

ハーク、スンが叫びました。

「おっ、シン執事、これは大変だ！ 小さな悪鬼があなたの耳の中にいます。それが鋭い物であなたの耳を突き刺しています！ どうしましょう？」

私は悪鬼が取り除かれるように祈りましたが、それは出て行きません。

ハーク、スンが私のために祈ってくれましたが、ひどい痛みは続きました。

何をやっても効果が上がらず、私たちは祭壇に駆け上がって、牧師に頼むことにしました。

牧師は祈っていましたが、私は彼を遮って緊急に尋ねました。

「牧師、とても痛むんです。私の耳がズキズキ痛むんですよ。お願いです、悪鬼を追い出して下さい！」

牧師が叫びました。

「サタンめ、イエスキリストの御名によってお前に命じる！ 出て行け！」

悪鬼は即座に従って出て行きました。

その瞬間から、私は容易に祈りを続けることができました。

さらに、私の体が聖霊の炎によって熱くなりました。

キム、ジューン: *宝くじが当たるよう求める。

すべての悪鬼が消え去った後で、イエス様が彼の天使たちと共に到着されました。

天使たちは取っ手の付いた金の壺を持っていました。

天使たちは祈っている教会の信者たちの隣に礼儀正しく座りました。

天使たちは祈りの内容をすべて金の壺に収めました。

短い時間の間にイエス様が私に近づいて来られて話しをされました。

「ソバカスよ、私をご覧。」

主はいばらの冠をかぶっておられました。

イエス様が私の口に何かを入れられました。

「ソバカス、その味見をしてご覧。」

それはいちごそっくりの味がしました。

その果物は甘酢っぱい味です。とてもおいしかったです。

むさぼるようにみんな食べてしまいました。

「イエス様、ありがとうございました。」

私が主に感謝すると、彼は非常に嬉しそうでした。

主の機嫌が良かったので、私はこの機会に彼にお願いをすることに決めました。

「イエス様、私たちは毎日、お金のことで大変です。私たちは皆、貧しいです。私たちが宝くじに当たるのを助けてください！」

主は少しの間黙っておられましたが、それから、大笑いされました。彼は私を見て、微笑まれました。

私は、追加のお願いをすることに決めました。

「イエス様、私はクラスで一番小さな子です。私の背丈をもっと高くしてくださいませんか？」

宝くじについては答えられませんでした。背が高くなるお願いは承諾して下さいました。

*ジューユンが地獄の王を攻撃する。

イエス様が私に尋ねられました。

「ソバカスよ、地獄を訪問しよう。」

私の返事を待たずに、彼は私を地獄に連れて行かれました。

私たちが到着するや否や、私たちは悪鬼たちの王サタンの前に立っていることに気が付きました。

本当に、それは恐ろしかったです。サタンのサイズは巨大でした。

彼は地獄の最も高い所に達しました。彼の椅子も超巨大でした。

ゾットするような見るも恐ろしい光景を目撃しなければならず、全身に鳥肌が立ちました。

私はもう少しで気を失って、パンツを濡らすところでした。

イエス様が私の横におられたと分かり、私は恐怖からさっと抜け出しました。

イエス様が私を守って下さるので、私は気持ちがよくなり落ち着きを感じてきました。

感情のパニックや恐れはなくなりました。

サタン攻撃に関するペク、ボンニョ姉妹の証しと彼の弱点の個所を覚えています。

どこを攻めるかは、しかと分かっていると思いました。

サタンの目を見ると、1つの目が刺し貫かれて、内に押し込まれていたのを見ることができました。

眼球は見えませんでした。

負傷した目はペク、ボンニョ姉妹の襲撃の結果でした。

ずっとサタンを見ていると、私の首が痛くなってきました。

じっと見上げていなければならず、首が固定しかかっていたからです。

サタンは椅子から立ち上がったと思うとすぐ座りました。

彼はどういうわけか、この動作を繰り返しました。

彼は頻りに歯ぎしりをしました。また、彼の両方の翼は引き裂かれて破損していました。

「おお、なんという屈辱ぞ！いらいらするわい。お前は、俺が悪鬼の軍隊をイエス様の教会に送ったが、会衆どもがそれを打ち破ったとでも言うつもりか？お前にとってそれが何だってんだ？馬鹿どもめが、お前たち、なぜ毎日負けとるのだ？お前たちは俺の相手か？今度はどいつを送ってやろうか？」

サタンが怒って叫んだとき、突然、私は非常に腹が立って、彼を攻撃しました。

「黙れっ、悪魔っ！イエス様の教会をどうするつもりだ？」

私は叫びました。

遂に彼は私をじっと見詰めてから、おぞましい声を張り上げて言いました。

「お前は自分を何様だと思ってやがる？よくまあ、俺に挑戦するつもりなのか？」

イエス様が私の横におられるのを知っていますから、私は自信を持ってサタンを叱責しました。

「黙れっ、悪魔め！お前こそ何者でもない！この気ちがいのがきめ！」

私が口汚く彼をどなりつけていると、サタンは身を震わせながら怒り出しました。

しかし、その時、彼はまるで私をからかうかのように微笑んで見せました。

「お前はだれだね、可愛いお嬢ちゃん？どこから来たのかね？」

私がどこで攻撃する自信を得たか分かりませんが、私はサタンに向かって歩いて行って、彼の後ろに回りました。彼の足を蹴って殴りましたが、びくともしません。むしろ、彼は、「おお、くすぐったい。」と言って、私をなじり誘いつつ扇動しようとしていました。私は叫びました。「主よ、私に力を下さい！」私は彼の脚を登り始めました。そして、遂に彼の肩に到達しました。サタンの皮膚は鎧や兜のように分厚いものです。

サタンの肩に乗ったとき、私は懇願して叫びました。「神よ、力を下さい！どうぞ、聖霊の剣を下さい！」主は聖霊の剣を私に下さいました。剣が私の手に入るや否や、私の手と腕が強くされたのが分かりました。私の筋肉と腱が厚くて丈夫になりました。私は容赦なく、サタンの背中を繰り返し突き刺しました。サタンは怒って苛立っていました。「お前、俺に穴を開けるつもりか！うっ！いてっ！止めろ！」

サタンはよく響く声で叫びました。「お前を殺してやる！イエス様の教会には平和がなくなるぞ！」イエス様は私に拍手をして励まして下さいました。「ソバカスよ、いいぞ、その調子！」サタンはペク、ボンニョ姉妹の襲撃による傷と傷跡で、既に明らかに苦しんでいました。サタンの不注意によって、以前に負傷した辺りを攻めるチャンスが来ました。サタンは苦痛で叫び声を上げました。

私は下りて来て、悪鬼たちの王の前の床に横たわりました。私はペク、ボンニョ姉妹がやったように彼をいらいらさせ始めました。「ワー！お前がよく見える。いい眺めだわ。」サタンがいよいよ煽られ苦しめられたので、自分の敵に向かって本気で怒り出しました。彼が叫びました。「おい、がき！お前何見ている？突っ立ってないで、すぐに攻めて来い。さあ！」主が大声で言われました。「攻撃を仕掛けようとしているのは誰か？よくもお前たちは私の許可なしに攻撃するのか？」イエス様が叱責されたので、悪鬼たちがみんな頭を押さえて黙って立っていました。彼らは筋肉一つ動かしません。彼らは抑制されたのです。

私は嬉しくなって、さらにサタンをいらだたせてやりました。イエス様が私の隣に立っておられるので、サタンは無力です。私は再びサタンの背中に登って、彼の頭に達しました。彼の髪をすべて引っこ抜いて、禿にしてやりました。聖霊の剣で彼の破損した翼を攻めにかかりました。イエス様の前では悪鬼たちの王は何でもありませんでした。私はわくわくしながら、再びサタンを罵ることにしました。彼の前にもう一度横たわりました。イエス様は笑っておられました。主は立ち上がって言われました。「ソバカスよ、おもしろいね。私もあなたの側に横になろうかな？」私は起き上がって手を振りました。「駄目です、主よ。あなたは最も聖なるお方です。あなたがサタンのような醜い生き物の前に横たわるのは、あり得ない事です。駄目です！とんでもないことですわ。」サタンはその傷口からたくさん出血していました。サタンの血液は変な不気味な色をしていました。とても説明できません。サタンはいつものように怒って、気持ち悪そうに何度も椅子を立ったり座ったりし、怒りで歯ぎしりをしました。今、私が悪魔をいらだたせるような勇気をどうやって得たのか分かりません。

そのことを考えるだけで驚きです。

ずっとサタンをいら立たせていると、イエス様が言われました。

「ソバカスよ！それで十分だよ。さあ、行きましょう。サタンは堪能したでしょう。学課を学んだでしょう。遅いから、私たちは行かなければならない。」

主は私の手をつかんで、教会まで私をエスコートして下さいました。

それから、イエス様は天国に戻られました。

リー、ユーキュン: *聖なる剣によって悪鬼たちを斬首する。

私が祈っていると、イエス様が到着されました。

一昨日、ハーク、スン兄弟は、天国の果物を食べておいしかったと私に言いました。

主はそれと同じブドウに似た果物を私に持って来て下さいました。

「しみ顔よ、この果物を味見してご覧。それから、あなたが歌うの私は大好きだよ。」

天の果物がとても美味しかったので、それを食べるのを止めたくはありませんでした。

いつもなら、私は食べるのが楽しみで、たくさん食べます。

しかしながら、イエス様は少ししか持って来られませんでした。

果物を食べ終わると、私は、『我が魂よ、聖霊のパプテスマを賛美せよ』と『悪魔に立ち向かい戦え』を歌い始めました。

私が歌っていると、イエス様はシン執事とジョゼフの方に歩いて行かれました。

イエス様が私の側を離れられるとすぐに、悪鬼たちが部屋の隅から現れて、こっそりと私に近づいて来ました。「イエス様！父よ！父よ！」

私が主を呼ぶと、彼はすぐに現れて下さいました。

「なぜ私を呼んだの？」

彼は尋ねられました。

私は答えました。

「主よ、悪鬼が隅から現れました！」

私が悪鬼の方を指すとすぐに、彼らは見えなくなりました。

私は尋ねました。

「イエス様、私は天国訪問にジューユンを連れて行ってもよろしいですか？」

主は答えられました。

「いいえ、私は一度に1人しか許しません。」

イエス様は続いて言われました。

「ユーキュンよ、悪鬼たちが再びやって来ても怖がることはないよ。あなたは私の名前によって、彼らを追い出す権威を持っているのだからね。彼らは逃るしかないのだよ。あなたの信仰によってそうしなさい！」

私は「アーメン！」と、言いました。

イエス様が去られるとすぐに別の悪鬼が現れました。

私は、「イエスの血！」と叫びました。

その悪鬼は逃げて行きました。

逃げながら、それが私に向かって罵(ののし)りしました。

「このろくでなしめ、イエスの血と呼んでいつも俺を脅しやがる。くそっ！」

それから、別の悪鬼が現れました。

これが私の肩に登って、私の頭と肩に重荷を乗せ始めました。

祈るのが困難になりました。

私は大声で叫びました。

「三一の神よ、私を助けてください！」

その悪鬼が叫びました。

「お前を病気にして地獄に連れ込んでやる！」

その瞬間にイエス様が現れて悪鬼を追い出して下さいました。

天使たちも下ってきて、元気ですか、と尋ねました。

イエス様が私を称賛して下さいました。

「凄い、愛しいユーケュンよ、あなたは今、悪鬼を追い出す方法が分かったね。素晴らしい！」

再び主が去って行かれると、別の悪鬼が現れました。

今度は、まず、牧師を掻き乱そうしました。

「お前は毎日、いつも、祈っているな！お前、祈って何を貰うんだい？食事？食べ物？祈るのを止めろよ！一緒に遊ぼうじゃないか！」

牧師はそんなやじには邪魔されません。

彼は悪鬼を無視して祈り続けました。

その悪鬼が私に近づいて来て、私の祈りを中断させようとしてきました。

私は叫びました。

「主よ、聖霊の剣を下さい！」

その剣が既に私の手にあることが分かりました。

私は剣を振るって悪鬼の首を切り落としました。

それが苦しそうに叫びました。

「ああ！俺の首が！ああ！」

続けて、腕や他の体の部分を切り落としてやりました。

「俺の体が！腕が！脚が！」

そいつは金切り声を上げながら消え去りました。

ペク、ボンニョ姉妹: *悪鬼たちの大逆襲

礼拝の最中、私の体が痛くなってきました。鋭い刺すようなひどい痛みが、私の全身のあちこちに動き回るのを感じました。

痛み自体が生きているかのようにでした。

牧師が説教するのを止めて、急ぎ祭壇から下りて来て、ジューンと他の霊的に覚醒している信者たちに何が起きているのか教えてくれと言いました。

ジューンは、私がちょっとの間油断したので、その間に悪鬼たちが私の中に入り込む機会を与えたと言うのです。

いったん、最初の悪鬼が入ると、それがドアを開けて、他の者たちも私の体内に入ったのでした。

昨日、私が地獄を訪問した際に、サタンを目を突き、彼の背中と翼を傷つけました。

ジューンが言うには、サタンが非常に怒って、彼の悪鬼たちに命じて、私に総攻撃を仕掛けたのだそうです。

「悪鬼たち！悪霊ども！総攻撃せよ！イエス様の教会に行進してペク、ボンニョを攻撃しよう！」

何十匹もの悪鬼たちが、私の体に入り、一緒に結合することによって塊を造りました。

そこから彼らは私の体中に広がり始めました。

ある者は角のあるゴブリン(小鬼)のようなもの、いろいろな色の陰影のある蛇に似たもの、白い服を着た鋭い歯と爪を持つ目がきらきら光るものなどでした。

私の体のあらゆる部分が耐えられないほどに痛み、彼らは私のすべての関節をひねりました。

牧師が厳しい試練の間、彼が非常に苦しんだことが今よく分かりました。

私は祈って彼らの攻撃に抵抗しようとしてきました。しかし、遂には床に前のめりに倒れてしまいました。

祈りのチームが晩の礼拝から午前5時まで通して祈ってくれました。

彼らの継続的な祈りによって、私からすべての悪鬼たちが排除されました。

試練の後、彼らはみな疲労困憊してしまいました。

午前5時、私たちはまだ祈ることができました。

幸い、私はまだ2、3時間は祈れるという感じがしました。

邪悪な霊たちが私をひどく痛めつけたので、その痛みがまだ残っていました。

まだ痛みの残る体のことで主に尋ねました。

悪鬼が排除されても、本人には肉体的な後遺症が残るものなのです。

牧師が肩や背中中の痛みをまだ訴えているのが理解できます。
私の体内にはおよそ 30 匹の悪鬼たちがいたようです。

リー、ハークスン: *リー、ハークスンがサタンを攻撃する。

私が異言で祈っていると、イエス様が到着されて、私をニックネームで呼ばれました。

「サム、地獄を訪問しよう。」

私が主の手を取るとすぐに、私たちは地獄に向かって飛んでいました。

私たちがサタンの王座に到着したとき、悪鬼たちの王はまだ座っていました。

彼は非常に背が高く巨大でした。

彼の背丈は地獄の上限までもありました。

彼には無数の部下たちが彼の支配下にいました。

拷問の設備が山と積み上げられているのを見ました。

その拷問の設備が悪魔の王座を取り囲んでいました。

拷問設備の中には、引っ掻き器、鉄のフック、麦刈り鎌など農耕設備があるのを見ました。

他の多数の拷問装置と共に銃やナイフまでありました。

サタンの王座の正面に、私の母方の祖母、母方のおじや従兄弟、おばたちが立っているのを見たのには驚きました。

親類の横には十字にクロスした木がありました。

配下の邪悪な霊たちが私の親族を十字架に掛けるための準備を忙しくしていました。

親類の者たちは恐怖に打たれて顔が蒼白になっており、ヒステリックに震えていました。

彼らに私がいるのが分かるとすぐに、大声で叫びました。

「ハーク、スン、なぜまたここに来たの？ 離れなさい！ 急いで！ 行きなさい！ この場所は訪問する場所じゃないよ。行って！ 急いで行きなさい！」

彼らは、サタンがどんな行動に出るかと思って、サタンの方をちらっと見ました。

悪鬼たちが親類の者たちに怒鳴りつけました。

「お前たちみんな、何をペチャクチャしゃべっておる？ 静かにしろ！」

親類の者たちはじっと立ったまま、恐怖に震えていました。

突然、サタンが私のいところを苦しめ始めました。

彼は意図的に私を扇って行動を起こさせようとしているのだと思います。

サタンは自分の長い爪でいところの背中を切り裂きました。

彼は苦痛で叫び声を上げて倒れました。

しかし、それでサタンの怒りは収まりませんでした。

頭の肉を引き裂き始めて、ついに頭蓋骨を粉々に打ち砕いてしまいました。

「助けて！ お願い！ ああ！」

いところは苦痛で悲鳴を上げながら、彼の頭は塵になってしまいました。

私は我慢できずにサタンに向かって走って行き、その足を蹴飛ばしてやりました。しかし、びくともしません。

何の効果もありません。

あのだかい大きさには為すすべがありませんでした。

サタンは強くて巨大でした。

私は無力でした。

イエス様は私がこの状況にどう対処するかを見ておられたのです。

ジュユンがサタンを攻撃したときの話を思い出しました。

彼女はサタンの体に登って、彼を傷を負わせました。

私も何かをしなければならぬと感じました。ただ為すすべもなく見ているわけにはいきません。

私は彼の髪を掴みながら体によじ登り始めました。
私の爪を使って彼の体に突き刺しながら登って行きました。
下を見ると、彼の大きさのため、高い崖から下を見下ろしているような感じがしました。
私は震えがきました。
あまりの高さに私の中に恐れが忍び込んで来ました。

サタンにダメージを加えたいのですが、武器がないのでそれができません。
私は大声で祈りました。
「神よ、聖霊の剣を下さい！」
私が祈るとすぐに、金でできた剣が天からゆっくりと降りて来ました。
私はすばやくそれを掴んで、他の教会のメンバーたちが既に傷つけた辺りを攻め始めました。

以前、私はサタンに苦痛を与えることができませんでした。
しかし今、私は彼にダメージを加えることができました。サタンに悲鳴を上げさせたのです。
「ああ！痛い！だれだ俺を苦しめる奴は？なぜここへ来続けるのだ？こわっばどもが、この俺に挑戦する気だな！待つてろ。恨みを晴らしてやる！」

私は以前の傷の箇所を全身の力を込めて突き刺しました。
傷ついた目を突き、翼を打ち払い始めました。
何とかそれらを完全に断ち切ってしまうことができました。
もう二度と彼は翼を使うことはできないでしょう。

サタンは席から跳び上がって慌て始めました。
「ああ！お前は何をする？よくもやりやがったな！あああ、痛くてたまらん！お前に復讐してやるぞ！報復するまで俺は休まん！ただでは済まんぞ！」
サタンは怒りで歯ぎしりをしました。
私は悪鬼の一匹をポンと押して穴の中に突き落としてやりました。
悪鬼が火の中に落ちると、苦痛に悲鳴を上げて、急いでそこからよじ登って出て来ました。

邪悪な部下が非常に怒って、いとこの方に歩いて行きました。
その邪悪な生き物はナイフを使って彼の肉をすべて切り取って、それを大きなボールに入れました。
いとこは骨だけになってしまいました。
私のいとこが泣き叫ぶのを見て私は思いました。
「私がサタンを攻めて苦しめたから、いとこは苦しんでいるのだろうか？」
イエス様が言われました。
「サム、それで十分だ。さあ、行こう。」
私たちは地獄を離れました。

キム・ヨン ドゥー牧師: *主の時を待つ。

私の手はたくさんの異なった動きをし続けました。
バラエティーに富む動きがよくまあ自然に出てくるものだと、私は驚きつつ不思議に思いました。
何ごとにおいても、聖霊は導いたり見張ったりされますが、それを私は有限な思いで考えることはしたくありません。
いつもそれは楽しい驚きですし、時にはただ驚いています。

祈り始めるときはいつも私は自問します。
「今日、私の手はどんな動きをするだろう？」

実は、私は自分の手と腕を組んで動かないようにしておきたい気持ちもあるのです。
ただ祈りに集中したいのです。

私が聖霊の監視下にいる時には、私の声も腕も手も彼のパワーによって導かれて、私は抵抗できません。

もし抵抗するなら、私は彼を押しつけ、彼を否定していると感じるでしょう。

私は彼に服従しなければなりません。

私は何事も素速く、くるくと包んでしまって終りにしたいのですが、神は急がず極めてゆっくりと働いておられるようです。

それは、あたかもエホバの霊が水の表面を非常にスムーズに動いているかのようです。

主が急いでおられないので、私は進展のペース(の遅さ: 訳注)に掻き回される感じのする人間です。

私はせっかちで、迅速強力な結果を求める者ですから、神のやり方に私は従っていないのかもしれないと心配しています。

私は急速に変化する世界に住んでいます。

少し遅れても、取り残されたと考える者です。

私は既に現代のライフスタイルに慣らされていると思っています。

教会の中で起こっていること、特に聖霊の導きの下にある私の個人的な経験は、それらの前進が極めて遅いと感じられるのです。

もし私が神の御旨の中に留まっていたと思うなら、私は牧師として、以前の習慣や個人的な経験をすべて処分しなければなりません。

私が神の御旨に従って務めを導くか、あるいは、私自身の理解に基づいて務めを導くか、主は私に尋ね続けておられます。

私の理解の基礎は、これまで私が何年にもわたって学んできた教育と規律と哲学です。

彼の意志に従った務めとは何であろうか？

務めにあったすべての年月は空しかったであろうか？

情熱を持って奉仕していた時、私は何をしていたか？

1つのことが非常にはっきりしています。

彼の意志に従って行っているとの想定の下に、自信たっぷりに私がやってきた以前の務めを主はお認めになりません。

私が労してきた務めが主によって認められないと分かったとき、私の全身が畏れで震え始めました。

主は私の状態を診断し正確に指摘されました。

最初の本を書く過程でさえ、主はほとんど会衆の経験について書くようにと命じられました。

最も重要なこととして、主は私が本を書くときに絶対服従を要求されました。

私の忍耐と服従こそが、さらなる信頼のおける本をもたらすことになるでしょう。

霊的な覚醒をテーマに祈っていると、私は天国の近くにいる感覚がありました。

しかしながら、悪鬼たちがより大きな力で私を攻撃してきました。

私の祈りが深くなり、私が天国に近づくにつれて、私が以前に打ち負かした邪悪な霊たちが、他の教会の信者たちを攻撃し始めたのです。

彼らの計画は、教会の信者たちを攻撃して物理的に彼らを妨げておいて、私の祈りを掻き乱すことにありました。

その攪乱によって私が霊的覚醒を得られないようにしようというのです。

霊的に覚醒した人たちはサタンがこう言うのを見ました。

「キム牧師の霊の目が開いたなら、我々は終りだ。総攻撃を加えよ！」

主の助けによって、サタンの攻撃は効果がありませんでした。

彼らは再編成して再び攻撃してきました。

今回の彼らのプランは会衆を貶(おとし)めることによって、牧師が一度に1匹の悪鬼を追い出すことをさせて時間を浪費させることでした。

再びペク、ボンニョ姉妹が悪鬼たちにやられました。数グループが彼女の体に入ったのです。彼女は夜遅く攻撃されて、私たちは結局、午前 5 時まで戦いました。前の攻撃で私の体は既に痛みが増大しつつしかも継続しました。私の体のいろんな痛みで、私は 1 日の大部分を横になっていなければなりませんでした。

*守護天使たちと悪鬼たちとの間の戦い。

私たちは殆ど夜通し、悪鬼たちと戦って彼らを追い出しました。私たちの祈りが始まったのがようやく午前 5 時で、終わったのが午前 8 時 30 分でした。私たちの敵との戦いで祈りの時間が大きく奪われてしまいました。祈りの後、私が車を運転してみんなを家まで送り届けました。私が家に帰り着いたのが午前 9 時でした。私が家に入ると、娘が驚いた様子で叫びました。「パパ、天使たちと悪鬼たちが寝室で戦っているわよ！」私はびっくりして答えました。「何だって？よし、我々の祈りで天使たちを援護しよう！」妻とジョゼフが加わりました。はからずも、我が家で第二の祈禱会が始まったのです。

ジョゼフとジュンが祈っていると、彼らは霊の目でその場面を目撃しました。彼らが言うには、黒い霊たちがグループに加わりました。ジョゼフの霊の目はまだ完全に開かれてはいませんが、ジュンの助けを得て、悪鬼と戦って邪悪な霊たちを追い詰めることができました。「悪鬼たちは決して止めない。彼らは如何なる休息も我々に与えないぞ。」私は異言で祈り続けましたが、すべてを追い出してしまうには、私の能力では制限があることが分かりました。

私たちは非常に疲れており、彼らの続けざまの攻撃にはたこずりました。私たちは聖なる火を用いて悪鬼を打ち破りました。彼らはすべて燃え尽きました。戦いが終わって、私たちはやっと朝食をとることができました。しかし、それは既に昼食の時間でした。ジュンが言いました。「お父さん、4 人の天使が私たちを保護しているわ。」私は彼女に尋ねました。「ジュン、お前は天使と話すことができるか？」彼女が答えました。「ええ、もうかなり前から彼らと会話してるわよ。」私は、今日はよくやってくれました、と天使たちに言うようにジュンに頼みました。ジュンが天使たちに彼らのことを質問し始めました。その時、主が現れて、私たちの会話は続きました。

キム、ジュン: *天使たちの翼とその意味すること

「イエス様、家に 4 人の天使たちがいます。彼らはだれですか？なぜ私の家にいるのですか？」

イエス様:

「彼らはあなたの家族を守るために配属された 4 人の守護天使です。彼らは父神から遣わされて、あなた方ひとりひとりを保護しているのです。」

キム、ジューン:

「しかし、イエス様、母と弟と私を保護する天使たちには 1 組の翼しかありません。なぜ 2 組ではないのですか？なぜ牧師の守護天使には 2 組の翼があるのですか？」

イエス様:

「牧師たちは教会の信者たちのために祈るのに多くの時間を費やします。
そのうえ、牧師たちは神のための最高レベルの奉仕者です。
牧師たちは主のために最も熱心に働いています。
その結果、彼らはより高位にランクされた天使によって保護されるのです。
2 組の翼を持つ天使はより高位にランクされており、1 組の翼の天使よりは強力です。
大きな能力をもって務めをリードする牧師たちは、3 組の翼を持つ守護天使たちに保護されます。
3 組の翼を持つ天使たちはさらに高いランクにあり、さらに強力です。」

キム、ジューン:

「イエス様、私が数分前に我が家に入ったとき、悪鬼たちと天使たちとの戦いを目撃しました。
私の母と父が論争するとき、天使はどのように反応するのでしょうか？
また、弟と私が論争する場合はどうでしょうか？実は、弟と私はよく論争します。」

天使たち:(会話を聞いていた彼らが介入し始めます。)

「聖ジューン、あなたは論争するべきではありません、争うべきではありません。
聖徒たちが互いに論争するか争うと彼らの報酬は劇的に減ります。
お願いします、もう論争しないでください。」

キム、ジューン:

「主よ、時々私たちが眠っているときに、私たちの体に重い圧力を感じることがあります。この肉体的反応はなぜ私たちの睡眠の間に起こるのですか？」

*睡眠麻痺(所謂、金縛り)

イエス様:

「それは普通、悪鬼たちが人々の体にひどい抑圧を加える時に起こります。
それが起こるのは、その人の守護天使が打ち負かされた時です。
しかしながら、天使たちが悪鬼たちを打ち負かした場合には、それが起こることはありません。
時には、より高位にある悪鬼たちが人の体の中に入ろうとする場合に、守護天使を打ち負かすことがあります。
人々が自分の主として、また救い主として、心から私を受け入れる時には、その瞬間に、1 人の守護天使が派遣されます。
派遣されたその守護天使はその人の残りの人生を保護することになります。
信者たちは、彼らを保護する守護天使たちがいるのです。
不信者たちは彼らを悩ます悪鬼たちを持っています。
不信者たちは睡眠中に抑圧を受けたり、解放されたりします。
それはすべて悪鬼の状況によります。
私の子供たちが最も攻撃を受けやすいのは、彼らが何度も罪を犯すとか、彼らの信仰が弱くなった時です。
彼らの睡眠中に攻撃を受けやすくなります。
より高位にある悪鬼が守護天使より強力である場合に、狙われた人がその体に抑圧を受けます。
通常、人が天使と悪鬼との戦いを見ることはできません。
しかしながら、通常はあなたの守護天使が悪鬼を打ち負かすことができるので、あなたの人生は安全です。
いつもこのことを覚えておきなさい。」

キム、ジューン:

「イエス様、ある人の信仰がバックスライドしたり、この世に戻ったりした場合には、守護天使はどうなるのですか？そんな人がたくさんいます。」

イエス様:

「忠実だった人がバックスライドしたなら、守護天使は天に戻って、神の前に立たなければなりません。彼らは神の御前に立って叱責されます。守護天使は最初の義務に戻されます。

バックスライドしていた者が悔い改めたなら、その天使が再び派遣されて、その信者を以前のように保護することになります。守護天使は最善を尽くして保護し補助するためにいますが、基本的にはほとんどその人の選択に基づいています。

天使の地位あるいはランクは、その人の働きに基づいて引き上げられます。」

キム、ジューン:

「天使は何組の翼を持つことができるのですか？」

イエス様:

「天使が持つことのできる翼の最大組数は3組です。翼のない天使たちもいますよ。

翼の数と大きさは彼らの地位とランクを反映します。

彼らの翼は彼らの体から成長できます。

いくつかの特別の場合には、私が直々に天使に翼を付けてあげます。」

キム、ジューン:

「イエス様、私たちが天使たちのことを話していると、彼らはとても嬉しそうにしています！」

イエス様:

「その通りです。彼らは霊的な会話を聞くのは楽しいのです。

しかし、世の話を聞くとすぐに悲しくなります。」

キム、ジューン:

「イエス様、私たちが彼らのことを話していると、4人の天使たちが踊っているのが見えますわ。

ワー！これは母の聖霊のダンスとそっくりだわ。

天使さん、牧師があなた方の現れや会話のことを記録しているわよ。

牧師は私たちが語ることを本に書くのよ。」

天使たち:「ワー！それは本当ですか？私たちのストーリーが本に書かれるんですって？」

キム、ジューン:

「そう、もちろんよ！」

天使たちが夢中になって、さらに見事に踊り続けました。

彼らは私たちの会話を続けて欲しいようでしたが、主が介入されました。

イエス様:

「ソバカスよ、あなたは私と会話をするべきです。あなたはなぜ天使と話しをしようとするのかね？」

天使たち:(主が語られると、彼らはへりくだって頭を下げ、礼儀正しく後ずさりをしました)

キム、ジューン:

「イエス様、人が死ぬとどうなるのですか？何人の天使が人をエスコートしに来るのですか？」

イエス様:

「信者たちの場合には、彼らの守護天使と他に1人の天使が、その人を天国までエスコートします。不信者が死ぬと、地獄の生き物がやって来て、その人を地獄までエスコートします。」

キム、ジューン:

「イエス様、天国にある私の家を訪問したいのですが。」

イエス様:

「天国に来てあなたの家を訪問しなければなりません。しかしながら、それを見たいなら、あなたは熱心に祈らなければなりません。自分の祈りに満足してはいけません。

だから、私はあなたにそう簡単には天国を訪問させないのです。

あなたの願いをかなえてあげたなら、あなたは自分の祈りに満足して、怠けるかもしれないもの。」

キム、ジューン:

「イエス様、たくさんの質問をして本当にすみません。

天使たちは泣くのでしょうか。とても知りたいです。

私たちが天国に行ったら、家族は互いに会うことができるでしょうか？

聖徒たちは天国で争ったり、議論したりしますか？」

イエス様:

「ソバカスよ、あなたはなぜ多くのことに好奇心が強いのだろう？

私がおあなたに預言の賜物を与えてから、あなたはかなりしつこくなったね、ははは。

よろしい、じゃ、行きましょう。私に一つずつ質問をしなさい。

天使たちは表情で悲しみを表すことができます。

彼らは泣くことは出来ません。目に涙がないのです。

大天使のミカエルと大天使ガブリエルと私だけが涙を流して泣くことができます。

家族は天国で互いに会って喜ぶことができますよ。

しかしながら、いつも会えるという訳ではないよ。特別の場合だけです。

しかし、彼らは天国の礼拝で会うことができます。

天国はしみもしわもない所です。

そこは完全な場所です。

父神がご自分で万物を監督し管理しておられます。

だから、天国は完全な場所なのです。

争ったり議論したりする理由は全くありません。

そんなことが起こるのは人間に罪深い性質があるからです。

罪深い性質は心配とか不安とかがあり得ます。

この二つが争いや議論を起こす主な理由です。

天使たちは決して争いません。

それは起こり得ません。

もしそんなことが起きたなら、彼らは悔い改める機会も与えられずに、天国から追い出されてしまいます。

彼らは情け容赦なく地獄に投げ込まれます。

救われた魂たちは争いも議論もしません。

天国では不可能です。

もし仮にそれが起きたとしても、彼らは神の恵みの下にいるので、地獄に投げ込まれることはありません。彼らは楽しい幸せな生活を送ります。」

28 日目

(ヘブル 4: 12-16)「というのは、神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。

13 そして、神のみまえには、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない。

14 さて、わたしたちには、もろもろの天をとおって行かれた大祭司なる神の子イエス様がいますのであるから、わたしたちの告白する信仰をかたく守ろうではないか。

15 この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。

16 だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか。」

キム・ヨン ドゥー牧師: *邪悪な霊たちによる総攻撃

私たちの 30 日間にわたる祈りの集会の期間に悪鬼たちとの戦いは激化します。

「子羊たち」が天候の厳しい状況の下で祈る時はいつも私の心は彼らに同情を感じ、涙を流さないわけにはいきません。悪鬼たちによる猛攻撃によって、私たちは肉体的、霊的に疲れしました。

戦闘は一進一退です。

時には私たちが優勢となり、時には悪鬼たちが優勢となります。

このような事態の繰り返しです。

戦いは激しいのですが、戦いの間、私たちが主を叫び求めることを止めることは決してありません。

実際、私たちは続けて彼を呼び求めています。

私たちは午後 9 時頃に集まりました。

礼拝の前に、私たちは賛美の歌を歌いました。

私たちが礼拝している時に、ペク、ボンニョ姉妹が攻撃を受けました。

彼女は悪鬼たちに遭遇した最初の人です。

攻撃の間、彼女は前のめりに倒れました。

悪鬼たちはペク、ボンニョ姉妹の体の中に入り始めました。

彼らは目に見えませんでした。

私の目で彼らの姿を見ることはできませんでした。

その攻撃は突然であったため、悪鬼たちに抗戦する用意ができていませんでした。

人として、私は牧師への召しに疑いを感じました。

私は考えました。

「私は霊の暗闇を歩いているに違いない。なぜ私は霊的な攻撃を防ぐことができないのか？なんで事後の行動なのか？」

教会の信者たちが倒れ、床を転がり、苦痛で叫んでいるのです。

私は無力で彼らを助けることが出来ないと感じました。

その時、突然、私の妻が動けなくなりました。

彼女の脚が麻痺してしまったのです。

息子のジョゼフが攻撃されて、彼は激しい偏頭痛(へんずつう)に見舞われました。
娘のジュユンの腕が折られて餌食とされました。
ユーキュンとハーク、スンまでが床に倒れて悪鬼たちの犠牲になりました。

私が 1 人の信者から悪鬼たち追い出すと、彼らはすぐに跳び出て、他の信者を攻撃して、次の犠牲者にしてしまうのです。

私たちの教会の信者たちは苦悩の中にいました。

私は牧師として不資格だと感じます。

私はそんなに霊的ではないと感じています。

私は教会の信者たちの霊的な飢え渴きを満たすことができないのです。

この瞬間まで、私が牧師として、いかに不十分であるか、分かっています。

今日の戦いは、まさに私の霊的な弱点を反映していたのです。

私はこの瞬間、とても惨めまた悲惨さを感じました。

この 3 日間、私たちは悪鬼たちと戦ってきました。

その結果、私は十分な睡眠を取ることができませんでした。

教会であろうと、我が家であろうと関係ありません。

悪鬼たちは私に休息を与えてくれません。

特に昨夜からの戦いで、私たちは疲れしました。

その戦いは朝の 8 時まで続き、その日は日曜日でした。

私のすべての信仰と霊的な能力を用いましたが、効果はありませんでした。

ですから、私は主から援助を求めざるを得ませんでした。

私は主に懇願しましたが、主は最後まで私の信仰で悪鬼たちを打ち負かすようにと要求されました。

日曜日の礼拝が近づいているので、私は待ちきれずに、主に無理強いをしました。

「イエス様、私を助けてください！ お願いします！ あなたが介入して下さいるか、大天使ミカエルを支援のために遣わしてください。どうか急いでください！ だれが助けてくれようと構いません。」

緊急にジョゼフ、ジュユン、ハーク、スンに頼んで加わって貰い、一緒に助けを呼び求めました。

私たちはみんな涙でぐしょ濡れになり、体は汗でびしょ濡れになりました。

そのすぐ後に、たくさんの天使たちが天から到着して、私たちの前に立ちました。

*大天使ミカエルからの助け

数百人から数千人の天使たちが到着したようでした。

彼らはぞくぞくと到着して、私たちのまわりに集まりました。

私たちは彼らに取り巻かれました。

彼らは明るく輝く光の層で私たちの盾となって私たちを覆い始めました。

悪鬼たちが攻撃を試みました。

間もなく、物凄く明るく輝く光が天から下って来るのが見えました。

大天使ミカエルが私たちに近づきつつありました。

彼は翼のある白馬に跨っていました。

彼は馬に乗ったまま、もの凄く光輝く剣を振りまわしていました。

その一振り、何匹かの悪鬼たちの首を切り落としました。

残っている悪鬼たちは混乱してきました。そして、大天使ミカエルの前に散り始めました。

ミカエルが教会の信者のそばや周りを動き回りました。

教会の信者たちの近くを通るとき、彼は悪鬼たちを攻めて彼らの首を切り落としました。

悪鬼たちが首を切られると、彼らの体から黒い煙が出て姿は見えなくなりました。

天使たちは教会の信者たちを保護するために、羽を広げて防御の盾を形成しました。

ミカエルは馬に乗ったまま剣で悪鬼たちを攻め続けました。
悪鬼たちは悲鳴を上げて、ちりじりになって逃げて行きました。
それは彼らにとっての地獄でした。
イエス様が現れて事態を見守っておられました。

リー、ハークスン: *聖なる火によって悪鬼たちを焼き尽くす。

数グループの悪鬼たちが私の母(訳注:ペク、ボンニョ姉妹)の体内に入り込みました。
彼女から悪鬼どもを排除するのに時間がかかって、私たちの祈りの時間が短くなりました。
母が苦しんでおり、状況は大混乱のように見えたが、牧師は平静を保ち、強力かつ効果的な指導を続けました。
牧師の言葉は神のパワーと結合されて強化されました。
その結果、私たちの祈祷会が始まったとき、聖霊の炎の存在は非常に強力でした。

今日はいつもより遙かに寒い日でした。
それで、私は気分があまり良くなく、頭は悲観的な考えでいっぱいでした。
しかしながら、私が祈り始めるとすぐに聖霊の強力な炎が私の心臓に入ってきました。
その炎が円を描きながら動きました。
炎がいったん私の心臓に入ると、私は熱とエネルギーで汗をかき始めました。
天から大勢の天使たちがやって来るのが見えました。
彼らは祭壇の十字架のドアを通り抜けて来ました。
悪鬼たちはまだ母の体内にいて彼女を苦しめています。
痛みで母は床を転げ回りました。
母を助けようがありません。
彼女は苦痛を止める術を知りません。
彼女は叫び続けました。
教会の信者たちみんなで、悪鬼たちを追い出すために戦っていました。
戦いは朝まで続けました。
有り難いことに、私たちは大天使ミカエルの支援を得て、悪鬼たちを打ち負かし、1日の礼拝を終えることができました。

大天使ミカエルとイエス様が天に戻られたとき、私たちは個別に祈る時間を見つけることができました。
異言で祈っていると、一群の濃い影が隅から這い出すのが見えました。
数秒もたたないうちに、大きな恐竜のような悪鬼たちが現れて、私に向かって走って来ました。
そいつが私に向かって突進して来る際に、その頭がパカンと開いて、その中にぬるぬるした赤いものが動き回っているのが見えました。
状況を見守っていると、私の魂が自分の体から出て行くような感じがしました。
その時、一瞬の弱さがあって、私は悪鬼たちから攻撃を受けました。
私はびっくりして主を呼びました。
「イエス様、助けてください！急いで私を救ってください！」
主が即座に来て下さって、恐竜の尻尾をつかんで放り投げられました。
その悪鬼は金切り声を上げて逃げて行きました。

次に、黒い影の邪悪な霊たちのグループが私のベストを引っ張りました。
私はそれを振りほどこうとしましたが、できなくて私の祈りが中断しました。
自分の力では勝てないと分かったので、すぐに、聖なる火のパワーを呼ぶことに決めました。
私は叫び始めました。
「聖なる火よ！聖なる火よ！」
突然、赤々と燃える火が私の体から出て、黒い影の霊どもは粉碎されてしまいました。

異言で祈り始めると、歌が聞こえてきました。

私はその歌に合わせて踊ったり祈ったりしました。
鉄の仮面に似た邪悪な霊が私に近付いてくるのに気が付きました。
私は祈り続けました。私の手は音楽のリズムに合わせて動いていました。
鉄の仮面の霊が近くに来ると、私はその仮面を取っ払いました。
その仮面を取り除く、昆虫の群れが現れました。
私は聖なる火でそれらを滅ぼしました。
邪悪な霊たちを打ち負かすと、主が到着されて私に天のキャンディを下さいました。
それは非常に甘くて美味しかったです。
しかしながら、あまりに急いで食べたので、咳が出ました。

リー、ユーキュン: *ユーキュンが地獄で苦しむ親類の人たちを再び目撃する。

イエス様が私の手を取って私に尋ねられました。
「ユーキュンよ、あなたは天国を訪問したいですか？」
質問を聞くと、すぐに私の心は喜びに満たされました。
私たちは空中を飛びました。
宇宙を通して銀河(天の川)を過ぎ、飛び続けました。
しかしながら、私たちは不意に、暗いトンネルを通して飛び、左側の道に向かいました。
左側の道は地獄に通じているのです。
右は天国に通じる道です。

イエス様は地獄の訪問を私に求められるなら、私が抵抗するのをご存知でした。
私は天国を訪問するのは大好きです。
天国を訪問するチャンスがあると、私はいつも嬉しくなりました。
今でも、そこに永遠に住んでいたい気持ちです。
しかし、地獄はもの凄く恐ろしい場所です。
そこは訪問したくも、考えたくもない場所です。
主が天国を訪問したいかと私に尋ねられたとき、私は罫(わな)に嵌(はま)ったと感じました。
私が地獄の訪問を経験した時は、いつも眠れない夜を過ごします。
私の体は地獄の残存する痛みを経験するのです。

考えていたように、私の親類が引きずられて行くのが見えました。
彼らは大きくて邪悪な生き物が待つ所で立たされました。
その邪悪な生き物は非常に大きいので、地獄の天井に届くのではないかと思われました。
その巨大な生き物の前には木を十字に交差させたものがたくさんありました。
他の邪悪な霊たちは私の親類を十字架にはりつけにする準備をしていました。
大きな生き物は王様のように見えました。
彼が命令するときは彼より目下の者たちや親類はいつも恐怖に震え上がりました。
邪悪な生き物の大きさや雷のような声、またその様子に私は怖くなりました。
私は結局泣き出してしまいました。

私のことを気遣って、私の祖母が私の涙を拭いてくれました。
私は地獄にいる人とは決して手を触れることを許されませんが、今回は、祖母が側に来て私の涙を拭くことを許されました。
彼女が涙を拭いてくれているとき、彼女の手が冷たいのを感じました。
氷のような冷たさでした。
「ユーキュンよ、あなたはなぜ、また、ここに来たの？ここは訪問するような場所じゃないよ。さあ、ここを離れなさい。」
話しながら、彼女も一緒に泣きました。

イエス様は私を側に引き寄せて、赤い果物を私に手渡されました。
彼はそれを食べて泣き止むようにと言われました。
主がそれを天から持って来て下さっていたのです。
私が天の果物を食べている間、祖母は私を見つめていました。
主が言われました。「**ユーキュンよ、お祖母さんに触れられて、あなたはどう感じましたか？**」
私は答えました。
「主よ、祖母の手がとても冷たいです。寒くて震えているようです。」

祖母が涙ながらに、主に頭を下げて言いました。
「私の愛するイエス様、私の孫娘のユーキュンを連れて来て下さってありがとうございます。」
祖母の隣に立っていた叔父が尋ねました。
「ユーキュンよ、お前の母さんはどこにいるんだ？」
私は言いました。
「母さんはとても痛がっているの。祈ることもできないのよ。母さんは教会で横になってないといけないのよ。」
叔父が尋ねました。
「本当か？元気になるって欲しいな。」
彼は母のことを心配していました。
彼らの側に祖父といとこが立っているのが見えました。
ここへ来る前に祖父がどんな拷問に遭っていたのか分かりませんが、彼の体と顔の皮膚が剥がれていました。

彼らは取り乱した表情をしていましたが、叔父といとこは彼らの関心を語りました。
「ユーキュン、お前はここに何しに来たんだ？今、この場所から出て行きなさい！」
祖母は泣きながら、もう一度、話しました。
「ユーキュンよ、私もこの場所を出たいよ。お前はイエス様と一緒にいるから、この場所から私を連れ出してくれるように主に頼んでおくれ。地獄は耐えられない苦痛と痛みの場所だよ。非常に恐ろしい場所だよ。どうか、私をこの場所から出るのを助けておくれ。」

祖母が泣いて懇願するのを見て、私は主にお願いしました。
「イエス様、どうか祖母をここから出して下さい。祖母が可愛そうです。」
私は父神に大声で叫びました。
「私の三一の神よ、助けて下さい！」
イエス様が答えられました。
「**ユーキュンよ、遅れそうです。さあ、ここを離れよう。今日は、これで十分です。**」
彼が私の手を取られました。その時、いとこが叫びました。
「ユーキュン、僕を助けて！お願い！僕を救って！」
彼が叫んでいると、赤や青や黄色をした蛇たちが彼の脚に巻き付いてきました。
蛇たちはゆっくりと上向きに彼の頭に向かって滑りながら上って行きました。

いとこが金切り声を上げて叫び続けました。
「ユーキュン、あんたが地球に戻ったら、僕たちの親類みんなにイエス様を信じるように伝道してくれ。忠実に教会に出席するように彼らに言ってくれ！どんなことがあっても、ここへ来るなど彼らに言ってくれ！分かったかい？」
彼が叫んでいると、一匹の鋭い角を持つ悪鬼が彼の方に走って行って、いらいらして尋ねました。「お前は何を言っているんだ？」
彼は非常に取り乱しているようでした。
その悪鬼が角を祖母の胸に突き刺しました。
祖母は叫びながら地に倒れました。
私はヒステリックになって叫びました。
「ばあちゃん、ばあちゃん！悪魔め、そんなことをするな！私のばあちゃんに触るな！」
私が叫んだ時、私は教会で祈っていることに気がきました。
私が涙を流しながら祈っていると、イエス様が私の頭をなでながら慰めの言葉を語って下さいました。

ペク、ボンニョ姉妹: *白馬に跨った大天使ミカエル

礼拝の間に数匹の邪悪な霊たちが1列に並んで私の体に入り込んで来ました。
彼らが私の左手を麻痺させました。
私は彼らの姿を識別することはできませんでした。
彼らは私の体に飽和状態になるまで入り込んで来ました。
私はたまらない苦痛で床を転げ回りました。
牧師とカン、ヒュンジャ夫人は事態に気付いて、祈りを止めて私を助けに来てくれました。
他のメンバーたちも助けてくれました。

彼らみんなで邪悪な霊たちを追い出し始めました。
私の体からすべての悪鬼たちを追い出すのは困難でした。
このグループが戦いに多くの時間を費やしました。

邪悪な霊たちとの戦いは夜通し続きました。
私の体内にいる悪鬼たちの抵抗は強力でした。
牧師と奥さんは一度に一匹ずつ追い出しました。
彼らは夜通し祈りました。
私の中にはたくさんの悪鬼がいたのです。
悪鬼たちは夜通し私を苦しめました。
私の体はあらゆる方向にねじれました。
みんなは結局、早朝までにすべての悪鬼たちを追い出してくれました。
最初に彼らが私の体内に入った時には、彼らの姿形を見ることができませんでした。
しかしながら、彼らが一匹ずつ追い出されるにつれ、彼らの姿をはっきり見ることができました。

或るものは大きく、或るものは小さいなど多くの異なるタイプの蛇が見えました。
また、グロテスクで気味の悪い昆虫も見ました。
そのうえ、角を持つ悪鬼たちと一緒にいる少女に似た悪鬼がいました。
そのすべてが一匹ずつ追い出されました。
一匹が追い出されると、私は解放され救われたという感じがしました。
私の体は痛くて、動くのが困難でした。
私は横たわって祈らなければなりませんでした。
主が天使たちのグループと共に訪問されました。
聖霊も来て下さって、聖なる火を私に下さいました。
火の玉が私の心臓の中に入って来ました。

火の玉が私の心臓に入ると、私の体が耐えられないほどにとても熱くなりました。
それまでは寒くて震えていたのですが、聖なる火を受けてからは熱くなりました。
突然、燃える火からの熱で異言による祈りが猛烈にほとばしり出てきました。
イエス様が言われました。

「ボンニョよ、今日は辛い日だったね。だから、今日は、地獄に連れて行かないことにします。体が痛むのにもかかわらず、あなたは祈っています。さあ出掛けよう。あなたの痛みを和らげてあげます。」
それから、主は私の手を取って、天国に向けて飛んで行きました。

私たちは海と雪のように白い山を訪れました。
彼は私をずっと案内して下さいました。
「あなたの手は氷のように冷たい。あなたはまだ痛んでいるね。それは悪魔の仕業だよ。」
主が私の手を握られると、すぐに私の手から蛇の形をした煙が立ち上るのが見えました。

そして、煙は見えなくなりました。
主が暖かい手で触れて下さった後、私の手は暖かくなりました。
主が優しく言われました。
「ボンニョよ、あなたの肉体が非常に弱く疲れきっています。ここで横になって休みなさい。今日は良い仕事をしたね。」

天国でゆっくりと休みをとると、回復した感じがしました。
私は天使たちとくつろぎの時を過ごしました。
私は教会に戻ると、大天使ミカエルが悪鬼狩りをしているのを見ました。
彼は白馬に跨って、祈っている教会の信者の間を乗り回していました。
牧師が私から悪鬼たちを追い出してくれてから、彼には夜祈る機会がありませんでした。
それで、彼は朝祈る準備をしました。
およそ 50 匹の悪鬼たちが牧師を取り囲んでいるのが見えました。
彼らは牧師を攻撃する機会を覗っていたのです。
大天使ミカエルが牧師に近づいて叫びました。
「お前たち汚れた邪悪な霊ども、お前たちはよくもここに集合したものだ！」
彼が輝く剣を一振りしました。それは金色の光のように見えました。
大天使ミカエルが輝く金の剣を振ると、牧師の横にいた悪鬼たちの頭が切り落とされました。
そしてみな灰になってしまいました。
その灰から煙が立ち上るのが見えたのですが、悪鬼たちが地獄に逃げ戻ったのです。
その場面は実に鮮やかでした。
ジューユンを他の子供たちと比べると、彼女が特に利口で、表情が豊かで、いつも快活であることがわかります。

牧師の家族は財政難です。
彼らの生活はいつも欠乏していますが、その子供たちは訓練されてよく育てられています。
彼らは自分たちの状況に決して不平を言いません。
私たちの教会の信者たちの大部分は他の教会から拒絶されました。
彼らはみなここに住み着いて、彼らの信仰が安定するようになりました。

イエス様が教会に戻られて、ジューユンの目を覚まさせようとされました。彼女は長い祈りの間に眠り込んでしまっていたのです。
主を見ていると、ジューユンが起きないので私は悲しくなって涙が出て来ました。
ジューユンが可愛そうでした。
主が言われました。**「ジューユンよ、ソバカスよ、私、主だよ。あなたを天国に連れて行こうと思って来たんだよ。ジューユン、起きなさい。私の愛しいジューユンよ、天国のもっと他の場所を見せてあげるよ。ジューユン、頭を上げなさい。」**
主は、そっと彼女を起こそうとされました。

ジューユンは非常に疲れていたのでしょう。彼女は主に反応しませんでした。
主がため息をつかれました。**「残念。あなたが熱心に祈るから、今日、あなたを天国に案内しようと思っていたのだけれど。本当に残念だ。」**
彼はそっと彼女の背中を愛撫して、去って行かれました。

大天使ミカエルによって追い出された悪鬼たちのグループが戻って来て、カン、ヒュンジャ夫人の中に入ろうとしました。
彼らの中の 50 匹が力を合わせて彼女を取り囲みました。
彼らは彼女の体内に入るチャンスを待っていたのです。
幸い大天使ミカエルが彼女の側に来て叫びました。
「お前たちは学ばなかったのか？」
ミカエルが彼の剣をひと振りしました。すると、悪鬼たちの頭が切り落とされました。
彼らは粉碎されて灰になってしまいました。

牧師と彼の奥さんとシン執事が続けて祈っていると、1グループの天使たちが現れて彼らを保護するために翼で彼らを覆いました。

大天使ミカエルは悪鬼たちと戦い続けました。そして、金の剣で彼らの首を切り落としました。

29 日目

(2 コリント: 6:1-2)「わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。

2 神はこう言われる、「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞き入れ、救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。」

*ジョゼフの願望

祈りのラリーの残りはあと1日しかありません。しかも、私は霊的に覚醒していません。

私は気持ちが重くなって困ったなと思いました。

涙が私の顔をつたって流れ落ちました。

以前、祈りの集会を終えてから、みんなの霊的覚醒の証しを聞いていました。

私は彼らがねたましくなってきました。

主はまだ黙っておられて、私は主から何も聞きませんでした。

ジューンと他の集会のメンバーは私が目を覚ます経験をしていない理由を説明してくれました。

彼らの説明によると、私が牧師に召されているので、神が満足されるまで、私は祈らなければならないということです。

私は、なぜ牧師がより長く、より強力に祈らなければならないのか分かりませんでした。

私の父、キム牧師も霊的に目が覚めてはいませんでした。

彼の心も恐らく失望しているかもしれないなと思いました。

しかしながら、牧師は少しも失望の感情を表しませんでした。むしろ彼は「辛抱強く祈ろう」という励ましの言葉で私を慰めてくれました。

私が祈っていると、悔い改めの涙が吹き出してきました。

私はしばらくの間泣いていました。

「主よ、私の霊の目を開いてください！私に何かを見せてください。お願いします。」

私が異言で祈っていると、青い光が暗黒の中で瞬(まばた)いているのが見えました。

それから、それは見えなくなりました。

私は祈ってもう一度青い光を見たいと思いました。

私の心はそれを切望しました。

しかしながら、青い光は見えませんでした。

私は失望しました。でも腹は立ちませんでした。

シン スンキュン執事: *シン スンキュン執事とジュンミンの変化

かなり長い時間私は涙を流して悔い改めたのですが、私はどんなビジョンも見えていません。

幾晩かの祈りのことを覚えています、それ自体奇跡でした。

主の助けがなければ、それは不可能だったでしょう。

私が祈りに専念することは神の恵みと同情の結果です。

メンバーたちの霊的な覚醒と天国と地獄を訪問した経験の証しを聞いていると、私は恥ずかしくなって自分の信仰に疑問を持ちました。

私の信仰は他の人たちに遅れないようにとの見せかけに過ぎませんでした。

現在、私は悔い改めの涙を流して私の罪を猛烈に告白しています。

私の夫は私の息子、ジュンミンをつぶさに観察していました。

彼の振舞いが完全に変化しました。
ジュンミンは私よりも先に地獄訪問の経験があったのです。
息子は私を見つめて言いました。
「お母さん、お母さんも地獄を訪問する経験をしなくちゃ駄目だよ。」
彼の注意に驚きながら、自分を慰めなければなりませんでした。

息子のジュンミンは小学校入学前の子供にすぎません。
彼はインターネットのゲームやアニメに嵌(はま)っていました。
しかしながら、聖霊による赤々と燃える火を経験した後に、彼は新しく生まれて、聖なる賜物を受けました。
およそ1ヶ月の間インターネットのゲームもやらず、テレビも見ていません。
祈りに自分を捧げているので、彼は手を上げて3時間は容易に祈ることができます。
彼の今の願いは牧師になることです。彼は毎日聖書を読み学んでいます。
私は彼のプランが実現するのを見たいです。

リー、ハークスン: *主が十字架上で苦しまれる。

私が祈っていると、3匹の悪鬼たちが同時に現れました。
その中の1匹は非常に強そうでした。
その強そうな霊はガシツとした筋肉を持っていました。
そいつは3つの頭を持つ大きな霊でした。
その霊が私を掻き乱し混乱させようとして、私の周りをぐるぐると走り回りました。
私はそいつの後を追いかけて脚をつかみました。
そいつを掴んでから、ぐるぐると振り回しました。
聖霊の炎が私の手から出て悪鬼の中に入りました。
その悪鬼は即座に破壊して灰になってしまいました。
シン執事の後ろに黒いものが隠れているのに気がきました。
筋肉質の霊の場合と同様に、私はその黒いものに立ち向かいました。
すぐに、恐竜の形をした別の悪鬼が現れました。
そいつの頭蓋骨はパカンと開いていました。
私はそいつを掴んでから数回情け容赦なく振り回してやりました。
すると、そいつはばらばらに壊れてしまいました。
その破壊された体からは、様々な汚らわしい、気味の悪い虫どもがどンドン這い出して来ました。
それが群れになりました。
私は大声で叫びました。
「聖霊の火よ！」
私の体から火が出て、すべての悪鬼たちと昆虫の群れを打ち負かし焼き尽くしました。

悪鬼たちを打ち負かすと、主が現れました。
主を見るとすぐ涙が流れて来ました。
私はイエス様をお願いしました。
「お願いです、ジョゼフとジュンミンを天国に連れて行ってください。」
イエス様は答えられました。
「**よろしい、そうしてあげよう。**」
彼は私をニックネームを呼んで言われました。
「**サム、天国と一緒にいきましょう。**」
私が主の手を取ると、私たちは花園に到着しました。
私はとても快適な時間を過しました。

私が花園で遊んでいると、主が言われました。
「**ハーク、スン、私たちは別の場所を訪問しなければならない。さあ、行こう。**」

私たちがどこに向かうのか分かりませんでした。

イエス様の教会だとわかりました。

あるビジョンの中で、主が小高い丘の方に向かって歩いておられるのを見ましたが、彼が見えなくなりました。

突然、主が私の目の前に現れました。

彼は十字架を担いで歩いておられました。

人々が彼を叩いていました。

彼の体の傷口から血が流れていました。

彼らは主をあざ笑いました。

彼はイバラの冠をかぶっておられました。

血が彼の頭に刺さった棘(とげ)のところから顔をつたって滴り落ちました。

長く鋭い釘で手と足を刺し通されたイエス様が苦しんでおられる場面を見ました。

それから、彼は死なれました。

イエス様の苦しんでおられる様子を目撃して、私は大声で泣きました。

私はイバラの冠、釘が刺し通されたところ、そして、水と血が流れ出るところを見ました。

主が現れて、私の目から涙を拭いて下さいました。

「ハーク、スン、泣いてはいけない。」

私はビジョンで見たものを決して忘れないでしょう。

リー、ユーキュン: *天国の果物(複数)を一気に食べる。

今日は普通の日ではありませんでした。

私たちの祈りの前に、既にイエス様が教会で私たちを待っておられました。

彼は教会に掛かった十字架の下に立っておられました。

私は祈り始めました。

主が私のところに来られて私の手を握られました。

私たちは天国へと飛んで行きました。

私たちが天国に到着すると、イエス様が見ておられる前で私は歌い始めました。

私は3曲歌いました。

『褒め称えよ我が魂よ、悪魔に立ち向かって戦え、聖霊のバプテスマ』です。

私はこの歌を何度も歌いました。

主はそっと手を叩いて言われました。

「我が親愛なるミスほくらよ、とても素晴らしい。楽しかったよ。」

彼が私を褒めて下さいました。

私は言いました。

「主よ、最近私は喉が痛くて咳が出るんです。」

主が答えられました。

「本当？あなたが病気になることは許されていないよ。あなたは風邪だって？私がなおしてあげよう。心配要らないよ。」

彼は手を伸ばして私の体を撫でて彼の両腕に私を包み込んで下さいました。

イエス様が私を撫でて下さると、私は温かさと親切と優しさを感じました。

私は言いました。

「イエス様、また、鼻が詰まっています。」

彼は答えられました。

「それも治してあげよう。」

主は天国の果物を持って来て下さいました。

天国の果物は地球の果物と非常によく似ています。

主が持って来て下さった果物はプラム、梨、りんご、ブドウに似ていました。

しかし、味はとても比較できません。

天の果物は非常に美味しかったです。

一口食べるとすぐに、その果物は口の中で溶けます。

驚くべき食感でした。

イエス様が言われました。

「ユーキュンよ！欲しいだけお上がりなさい。」

イエジが私に近づいて来て言いました。

「姉妹、あなたが風邪を引いてると聞いたわ。病氣しないでね。あなたはいつも健康でなければならぬわ。」

主と私がイエス様の教会に戻るとき、私たちは銀河を通過しました。

遠くに黒い雲が動くのが見えました。

「イエス様、私はあんな黒い雲、見覚えがありませんわ。なぜ突然あそこに現れたのですか？あれはとても暗いです。私はとても怖いです。」

主は私を慰めて下さいました。

「あれは雲ではないよ。彼らは雲に見せ掛けた汚らしい悪鬼たちなのです。彼らは邪悪な詐欺師です。でも心配は要らない。私があなただを守ってあげるからね。」

私たちは教会に到着しました。

主が訊かれました。

「ユーキュンよ、寒いかね？」

私は言いました。

「はい、主よ、寒いです。」

主は私の体を撫でて下さいました。

私の体が熱くなってきました。

私は赤々と燃える火のような感じがしました。

私たちはさよならを言い、互いに手を振って別れました。

私のガードが緩んで、邪悪な霊たちがその瞬間を利用しました。

彼らが私の体に入り込んだのです。

私は夜通し苦しみました。

しかし、牧師が祈ってくれたので、回復しました。

***ペク、ボンニョ姉妹、サタンとの三度目の遭遇。**

私が悔い改めの涙を流して主に叫んでいますと、私の横に座って祈っていたジューユン姉妹が泣き出して悔い改めをし始めました。

その瞬間、私もこれに習いました。

祈っていると、天使たちが天から下りて来るのが見えました。彼らは教会の信者たちのみんなを明るく輝く光の厚い層で覆いました。

光の保護層が非常に明るかったので、私はそれを見つめることができませんでした。

邪悪な霊たちのグループが現れて私たちを攻撃しました。

彼らは保護の光を通して入るチャンスを覗っていました。

主が、私を連れて来るようにと、彼らに命じておられたのです。

「主が待っておられます。急いでください。主があなただを待っておられますから、私たちは今、出発しなければなりません。」

光の保護層の外に出ると、すぐに天使たちと私は空中に飛び上がりました。

邪悪な霊たちが私たちの後から飛んで来て攻撃を試みました。

天使たちと私とは飛びながら激しく戦いました。

遂に私たちは銀河に達しましたが、主はそこにはおられませんでした。

私は不安が増して怖くなりました。

私たちはトンネルを通して飛びました。

主が私の周りにおられないと、私の心臓が不安で高鳴ります。

突然、主がどこからともなく現れて、私の手を取られました。

そして、私の不安な心を慰めて下さいました。

「ボンニョよ、私を長く待ちましたか？さあ、地獄を訪問しよう。恐れなくて。私があなを守ってあげるからね。」

主は私を地獄に伴われました。

不意に、邪悪な霊たちの王が私の前に立ちました。

最初は、それがどんなタイプの邪悪な霊であるか分かりませんでした。

その正体を知る機会がありませんでした。

しかしながら、それが私と話しを始めると分かってきました。

「また来たな！お前は俺の目に怪我をさせ、背中に傷跡を残した。俺の翼を破壊してしまった。お前はなんのともなく生き長らえることができるか？俺の体はお前がやった背中中の傷で苦悩しておるのだ。お前がまたここに来るのを待っておったが、遂に来たな！」

彼は叫びました。

彼は部下に命令を下しました。

「こいつの親族をここに連れて来い。」

彼の命令で、私の親族が私たちの前に引きずられて来るのが見えました。

親族は彼の前に立たされ、部下の生き物たちが脅す振りをしました。

親族の者たちは恐ろしさに震えていました。彼らの顔は恐怖で青ざめていました。

彼らは絶望のうちに私の方をちらっと見ました。

主はそこに立って黙って見ておられました。

私の弟が叫びました。

「ボンニョ姉さん、私の死んだ後に生まれた娘に会いたい！」

私の母がすぐ後に話しました。

「娘のボンニョ、私もその娘(こ)にとっても会いたいわ。その娘が生まれたすぐ後に私は死んだからね。」

彼らは苦悩の中にいるのに、彼らの言葉は理解し難いものでした。

彼らは自分の子供に会いたい気持ちをどうしてこんな場所で経験できるのでしょうか？

彼らの苦痛は恐るべきものなのに、どうして他の感情を持ち得るのでしょうか？

彼らの家族に関する好奇心が非常に強いので、私は最近の情報を彼らに与えなければなりませんでした。

弟の娘、つまり私の姪は既に20歳を過ぎていました。

彼女はまだクリスチャンではないと弟に言いました。

しかしながら、私が彼女に福音を伝えてイエス様の教会に導くよ、と弟に約束しました。

***サタンが私の家族に報復する。**

邪悪な霊たちの王が私たちの会話を聞くと、彼は非常に怒りました。

福音を伝える、という言葉聞いたとき、彼は特に怒りました。

「何だと？福音を伝える、誰に？何のことだ？お前のせいで俺がどれほど苦痛を味わっておるか、お前には分かっらん。俺はこの時を待っていたのだ。絶対に、お前の家族をもっと苦しめてやる。拷問開始！」

彼が命じました。

その命令で、部下の生き物が答えました。

「了解しました、サタンキング様！」

邪悪な生き物が私の母、甥、弟の方に向かって歩いて行きました。

私の母は白い服を着ており、弟と甥は黒い服を着ていました。
生き物は親族を互いに隣り合わせに地面に寝かせました。
その生き物が母の体を、足から始めて突き刺し始めました。
その釘は非常に鋭く、長くかつ部厚いものでした。
「ああ！ボンニョ、私を助けて！お願い、助けて！」
皮膚が肉から引き剥がれ、血が彼女の体からどんどん流れ出しました。
叫び声と呻き声が辺りに響き渡って聞こえました。
彼女の叫び声で私の鼓膜が破れるのではないかと思いました。

地獄の場面は私の想像で作上げたものではありません。

これは作り話しではないのです。

地獄は実在の場所です。

私が目撃した出来事が私の前で起こっていたのです。

苦痛の場面と音声は本当です。

そんな悲惨な光景を私の想像でどうやって作ることができましようか？！

私の限られた忍耐の緒が切れて、私は気狂いのようになって叫びました。

「主よ、お願いします、何とかしてください！お願いします！すぐ！これ以上見ていることはできません！お願いします！私の母を苦しめている邪悪な連中をなぜ罰してくれないのですか？」

私はヒステリーのようになって泣き叫びました。

涙ながらに私は叫びました。

「母さん、可愛そうな母さん！私がサタンを苛立たせたので、母さんはこんな苦しみの中にいるのよ。私のせいで家族がもっとひどい苦痛を受けているのです。私はどうしたらいいの？母さん、お願い、赦して！それは私のせいよ！」

サタンは部下に、母の体を刺し続けるように命じました。

その生き物が母の胃や胸や首や頭を刺し通しました。

彼らに憐れみなど全くありませんでした。

母は時々意識を失い、間で叫び声を上げました。

血や皮膚の断片がいたる所にありました。

彼女は最早や人間には見えませんでした。

私の弟と甥は母の苦痛を目撃しながらひどく苦しみました。

彼らは手に負えないほどに震えました。

私の母が終わると、彼らは弟と甥に向かいました。

彼らは母にしたのと同様に釘で彼らの体を突き刺し始めました。

「ああ！ボンニョ姉さん、助けて！お願い、僕を助けて！」

「おばちゃん、僕を助けて！おばちゃん、お願い、主にお願ひして、すぐ！」

邪悪な生き物たちは情け容赦なく刺し続けました。

弟と甥の悲鳴が地獄の境界で反響しました。

サタンは大声で叫びました。

「見ろ、どうだ？いい眺めだろうが？お前が俺の苦痛に貢献したから、俺はお前の家族の苦痛によって、お前に苦痛を経験させてやるのだ。お前にこれを直接目撃させてやる！」

私はサタンを無視しようとした。

私は母を見て叫びました。

「母さん、可愛そうな母さん！私が前回地獄を訪問したとき、母さんは地獄の火の中にいたわ。母さんが火の中にいるのを見ると、私の心はとても痛んだわ。私は邪悪な霊たちの王を攻撃することによって、あなたの仇(かたき)を討とうとしたのよ。でも、私の報復の行為が母さんたちにさらに酷い苦痛をもたらしてしまったわ。とても申し訳ないです。母さん、私を赦して！私はどうしたらいいの？」

私は泣きに泣きました。

私は怒りがこみ上げて来て、邪悪な霊たちの王を呪い始めました。

「サタン、この悪魔め！三一の神が私の中に生きておられるのだ！私は神の娘である！私がこの場所を滅ぼしてやる。お前に約束する！もし私ができなければ、私の神が私のために仇を討ってください。お前は滅ぼされる。お前は火の池に投げ込まれるのだ。その日を辛抱強く待つことにしよう。この汚らしい邪悪な霊め！汚らしいサタンめ！お前は自分をなに様と思っているか？お前はよくも地球上の人々を誘惑して罪を犯させ、地獄に導いたものだ。呪われたサタンめ！お前の中で働く手下どもは父神によって呪われるであろう！」

主は私がさらに興奮するのをご覧になって、彼はすばやく私の手を握られました。

すぐに、明るい光が目の前に現れました。

私は既に天国にいました。

私が地獄の暗闇にいた後の天国の輝く光は私の心を空っぽにしました。

環境の急変で私を混乱してしまいました。

イエス様が優しく説明して下さいました。

「ボンニョよ、私はあなたを助けようと思っても、出来なかったのだよ。」

「いったん地獄に行くと、その人は決して出ることはできないのだ。それを変更することは私にはできないのだ。」

地球上で生きている間だけ、あなたを救われ得るのです。いったん死ねば、悔い改めのチャンスはなし。」

それで終わり。私にできることは、あなたと一緒に泣くか、あなたを天に連れて行くことだけです。あなたの親族は地獄にいるけれど、私には何もできない。それは私の手の外にあるのだ。だれも彼らを助けることはできない。」

主はその状況にとっても残念そうでした。

私は天国にいても、地獄にいる私の家族のことが思い出されて目に涙を浮かべていました。

地獄で苦しむ家族のことを思わないわけにはいきませんでした。

私は耐え難い苦痛を経験していたのです。

私の傷ついた心のための安らぎはありませんでした。

主は私を天国の最高点まで飛んで連れて行って下さいました。

私はとてもユニークな雲を見ました。それは橋のような形をしていました。

主と私はその雲を歩いて渡りましたが、彼が私の手を取って下さいました。

しかしながら、私の思いにはまだ家族の苦痛のことがありました。

私は子供のように泣き続けました。

私は主の前で泣きながら困ってしまいました。

「主よ、私はとても悲しいです。私たちは天国では泣かないと学びました。私はどうすべきでしょうか？私の手に負えません。」

主は3人の天使たちを呼ばれました。

「聖ボンニョが今イエス様の教会に戻ります。あなた方はしっかりと彼女を守り監視していなさい。」

天使たちと私とは地球に戻りました。

私が地獄訪問から戻ると、いつも全身が痛みます。

特に背中がたいそう痛みます。

私は主に祈って尋ねました。

「主よ、私の背中がとても痛みます。ひざまずいて祈るのはとても難しいのですが。」

教会のベンチに横になって、祈ってもよいでしょうか？」

主が恵み深く答えられました。

「それでいいよ。」

父神もまた答えられました。

「横たわって祈っても問題はないよ。」

私はベンチに横たわって祈りました。

イエス様が戻って来られて、天国の山々に私を連れて行かれました。

天国の山々では多くのものすごく明るい輝きを持った石の柱を見ました。

私はその柱に近づきました。

柱は水晶のように透明でした。

それらがあらゆる方向に光を反射して非常に美しかったので、彼らの栄光を言い表す言葉はありませんでした。

それは素晴らしくまた幻想的な風景でした。

主は私が落胆しているのを知って、あらゆる美しい所に私を連れて行って下さったのです。

それによって私は慰めを受けて元気づきました。

彼は私を幸にするためのあらゆる努力をして下さったのです。

「ボンニョ、泣くのを止めなさい！」

私は泣かない訳にはいかず、泣くのを止めませんでした。

***進んで地獄に出かける。**

教会に戻ってから祈り始めましたが、そのすぐ後に眠ってしまいました。

私が眠っている間に、私の守護天使が他の3人の天使たちを伴って、私を監視し守ってくれました。

目を覚ましてから、主がどこに行かれたのか天使たちに尋ねました。

私が寝入る前に主は私と一緒にいたのです。

天使たちが言いました。

「心配しないで。主はまもなく戻って来られますよ。」

彼らの答えを言い終わったすぐ後に、主が現れました。

私は尋ねました。「30日間の祈りのラリーが明日で完結します。私はもう一度地獄を訪問する機会を持ちたいのですが。

最後にもう一度だけ地獄を訪問したいのです。」

主は言われました。

「あなたは本気でそう言っているのかね？前回の訪問からあなたの体はまだ回復していないのだよ。まだ動揺しているのに。ボンニョよ、あなたはなぜ戻ると決めたの？なぜ再び地獄を訪問したいのかね？」

主は驚いておられました。

私は答えて言いました。

「この祈りのラリーから、私は多くのことを学びました。説教の中で牧師は多くの奇妙なことを言いました。彼の目的は私たちを励まして私たちの信仰を強めることであつたと思います。」

私は牧師が説いた言葉を繰り返しました。

主は大声で笑って言われました。

「おお、そんな言葉を聞いたよ。」

私は答えました。「私は一つの大切なことを学びました。それは、ただ信仰のみによって、です！それから、どんな要求でも、特に霊的な覚醒のために続けて祈ることを学びました。恐らく、他の祈りのチームのメンバーも同じように考えていると思います。」

イエス様が言われました。

「ボンニョ、あなたの気持ちは分かった。だけど、地獄を訪問したら、またあなたの両親に会わなければならないかも知れないよ。またあなたの心が傷つくだろう。私があるあなたを助けることができないのが分かっているから、私の心は痛むのだよ。あなたは、なぜもう一度地獄を訪問することを続けて願い求めるのかな？」

私は切羽詰まって答えました。

「主よ、私たちの牧師が本を書いています。悪魔と地獄の真実と正体を明らかにしています。もう一度私が地獄を訪問するなら、私はそのことをさらに詳細に目撃し経験することができます。私たちはもっと正確な記録を持つことができます。私たちは地獄と邪悪な霊たちのことを細心の注意を払って記述しなければなりません。」

私の熱意を語っていると、イエス様は私に感動しておられるようでした。

私はひざまずいてきちんと座って祈りました。

主は言われました。「**仰向けになっても大丈夫だよ。**」

ハーク、スンに枕を持って来るように頼みました。

私は横になって祈り始めました。

主は私を地獄に連れ戻されました。そして、彼は私を一人残されました。
私は暗闇の中を歩き始めました。
通路が狭いので、私は注意深く移動しなければなりませんでした。
通路は分かりましたので、進む道を見つけることができ、前方へ移動することができました。
前方に歩き続けましたが、何を見ることも、感じることもできなくなりました。
私は突然あるセルの中に捕まりました。
私がどこに捕まったのか知ろうとしましたが、何も見えません。
その上、ほとんど動くこともできませんでした。

***再び拷問に遭うが、何の痛みも感じない。**

その少しの後に2、3の邪悪な霊たちが現れて、私の衣服をすべてを剥ぎ取りました。
私は小さなセルあるいは部屋の中に閉じ込められました。
私は地面に何か奇妙なねばねばする物があるのを感じました。
それが私の脚や体を伝って登り始めました。
それが私の体にくっつくと、だれかが私の体全体にべたべたする接着剤を塗っているように感じました。
私は、即座に反応して邪悪な霊たちに叫びました。
「お前たち邪悪な生き物め、三一の神が私を守って下さっているのだ。お前たちを恐れるものか。
私の主が私を保護してくれるのだ！
お前たち地獄にいるすべて邪悪な生き物たち、私の言うことを聞け。
神が地獄を滅されるまで、後何日も残っていない！
その恐ろしい日まで待っているがいい！」
私はまた罵倒する言葉をいくつか特になんの意図もなく言いました。

私が叫んでいる間に、ねばねばする物が私の胸や首に登り、口にまで向かってきました。
彼らは私の口に張り付いて、口を封じ込めてしまおうとしているようでした。
私は大声で叫びました。
「邪悪な生き物め、お前を呪う！お前はすぐに滅びる！」
私が叫んだ時、私の全身が震えました。
そのすぐ後に、色の付いたムカデたちがねばねばする物の内部から出て来ました。
彼らは私の全身を這いずり回りました。
私の皮膚に食い込み始めました。
幸い、神様に保護されているので、何の痛みも感じません。
私は平然と彼らを笑い、嘲(あざけ)ってやりました。

邪悪な生き物の王は私が平然としているので苛立ちました。
彼が合図すると、すぐに無数の蛇が現れて私の体に巻き付いて、私を噛み続けました。

自信たっぷりに、私は叫びました。
「ああ、全く良い気持ちだ。もっと噛み付けてくれよ！痒(かゆ)い所を搔いてもらっているようだ。」
私が笑いながら、生き物や昆虫たちを嘲(あざわら)うと、コブラの一群が垂直に立ち上がって、私を噛み続けました。

彼らが何回噛み付いたか、またはどれほどきつく締め付けたかは問題ではなく、どんな痛みも感じることはありませんでした。
突然、私の部屋がさらに多くの蛇でいっぱいになりました。
私は主に祈りました。
「主よ、私を助けてください！あなたはどこにおられますか？お願いです、早く来てください！」

私は彼の名を呼び続けましたが、無駄でした。
彼は現れて下さいません。

時間がどれほど経過したか分かりませんが、私は異言で祈っていました。それはかなりの時間でした。
主が明るい光の中に現れました。
私はすばやく彼を呼びました。
「主よ、主よ！」
彼に会えて、非常に嬉しかったです。
イエス様が手を振られると、部屋と地獄は消え去りました。
私は翼の付いた明るく輝くガウンを着ていました。
私がどこに居ようと、イエス様が一緒になければ、そこは地獄です。

私は半年の間地獄にいたような気分でした。
地獄は想像を絶する所です。
そこは苦痛と拷問の場所です。
地獄の1日は1,000年、多分1万年のような気がするでしょう。
1秒も地獄のことを考えたくはありません。
それは永遠の絶望、永遠の叫び、永遠の悲哀の家です。
イエス様が私を教会に戻して下さいから、私が以前から痛みを覚えていた所に触れて下さいました。
彼はいくつかの言葉で私を慰めて下さいました。
「ボンニョ、聖ボンニョよ。あなた方はみな私の小さな羊です。あなた方は皆、30日間祈る努力をしました。御言葉を学び続けなさい。そして、熱心に教会に出席しなさい。あなた方のすべての経験をこまめに記録するように牧師に言いなさい。」

キム・ヨン ドゥー牧師: *牧師が邪悪な霊たちを追い出す。

昨日、邪悪な霊たちのグループがペク、ボンニョ姉妹の中に入りました。
邪悪な霊たちを追い出す戦いは一晩中かかりました。
日曜日、私も邪悪な霊たちによって攻撃されました。
一瞬の隙(すき)に、私の思いが疑問を抱いた時に、私の肉体が打たれたのでした。

他の夜間礼拝の間にもペク、ボンニョ姉妹は攻撃を受けて、邪悪な霊たちが彼女の中に入り込みました。
異なる群の霊たちがペク、ボンニョ姉妹に激痛を引き起こしました。
幸い、その邪悪な霊たちは彼女の頭の中には入りませんでした。
しかしながら、どんどん増し加わる体中の耐え難い痛みで、彼女は床に倒れ込んでしまいました。
この事が起こる前の晩、私たちは不安なまま教会を後にしました。
家に着いても、私たちはみな落ち着かない夜を過ごしました。
明日、再び攻撃されても、私たちは30日間の祈りのラリーを終了するつもりです。
邪悪な霊たちはしつこく攻撃してきます。
率直に言って、彼らの攻撃に疲れしました。

邪悪な霊たちと戦ったり、追い出したりすることで私たちは霊的な被害を被り、私たちの肉体は弱くなりました。
全祈りのチームは疲労困憊してしまいました。
しかしながら、主は徐々に私たちを強くして下さいました。
私は考えました。
「私は死ぬまで戦うぞ！」
一匹一匹と、注意を集中することによって、私は邪悪な霊たちを追い出しました。
突然、牧師の妻が床に倒れました。
彼女は牧師と一緒に邪悪な霊たちを追い出している間に、悪鬼たちが彼女を攻めて、体内に侵入していたのでした。

彼女は肉体的、靈的に弱くなっていて、影響受けやすくなっていたのです。

悪鬼たちは攻撃の対象を牧師の妻とペク、ボンニョ姉妹の間を代わる代わる変更しました。

彼らは故意に標的を変更することによって、私たちを騙そうとしているようでした。

彼らは私たちをあざ笑いました。

戦闘は早朝まで続き、邪悪な霊たちは、私たちの指揮に抵抗し続けました。

その時、主が介入されました。

最初、彼は私たちが呼んでも、立って私たちの行動を観察しておられました。

主は、悪鬼たちに去るように命令されませんでした。

主は私たちの戦闘を観察しつつ、邪悪な霊たちを追い出すことでの私たちの持久力と信仰を持つ力とを問うておられたのです。

私たちは一つ声で悪鬼たちに命じました。

彼はじっと注意深く見続けられました。

私たちはまるで狂気精神異常者のグループであるかのように私には見えました。

部外者が見たなら、私たちはみんな精神錯乱だと言うかもしれません。

私たちが最終的にこんな苦境の中で終わるとは理解できません。

私の心は弱くて疑い深くなっていました。

しかし、私が世の見方で靈的な状況を判断するなら、主の前で酷い罪を犯していることは分かっていました。

私は気を取り戻して、私の思いを集中させました。

主の御名によって邪悪な霊たちを追い出し続けました。

悪鬼たちを追い出すには、聖書に指示されているようにシンプルな言葉でよいと、私は信じてきました。

しかしながら、祈りのラリーと戦いを事細かに経験することを通して、靈的な戦いの本質に関し神の御前で悔い改めなければなりませんでした。

邪悪な霊たちを追い出すにあたり、無頓着なところがあったのです。

いつものように、私たちは夜通し早朝まで悪鬼たちと戦いました。

いったん戦いが終わると、私たちは個人で祈ることができました。

神は私の手の動きが治るように、それを動かされました。私が力を使わなくても、それがいろいろな方向に動きました。この手の動きは癒しのためでした。

15日前には、私は凶暴な邪悪な霊たちによって激しい攻撃を受けました。

私は噛み付かれて、その傷跡が皮膚に残りました。

これは激痛を伴いました。

噛み傷の跡はまだ治っていません、痛みが続いています。

私は今、攻撃の背後にある論理を理解しました。

悪鬼たちは私が書いている本のことを知っています。

私は右手で書きます。

攻撃は主として私の体の右側にありました。

私の右手、右の手首、右の肩、背中右側、それで私の神経がすべて痛みます。

邪悪な霊たちは私が本を完成するのを妨害しようとしていたのです。

攻撃を受ける前には、私は説教、礼拝、祈りを好きなだけ自由にできました。

しかし今は、話しをしたり動いたりするときに、いつも耐え難い痛みがあります。

私は動くことも正常に機能することもできません。

これは私の不注意の結果です。

主は私に、本が出版されるまで、自分が目撃し、経験したことを秘密にしておくようにと命令しておられました。

しかしながら、私は従いませんでした。

私が義務を怠ることによって、私にはひどい結果がもたらされたのです。

今では、私は全ての点において用心深くなっています。

本が完成して出版されるまで、経験の如何なる部分も語ることを避けています。

実際、家族との会話も長短に関わらず避けようと思っています。

彼の命令に背くことが如何に恐ろしいことか、よく分かりました。

毎日悔い改めつつ、できるだけ早く癒されることを願っています。

====
30 日目
====

(1 テサロニケ 5:14-23)「14 兄弟たちよ。あなたがたにお勧めする。怠惰な者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。

15 だれも悪をもって悪に報いないように心がけ、お互いに、またみんなに対して、いつも善を追い求めなさい。

16 いつも喜んでいなさい。

17 絶えず祈りなさい。

18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。

19 御霊を消してはいけない。

20 預言を軽んじてはならない。

21 すべてのものを識別して、良いものを守り、

22 あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい。

23 どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全きよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように。」

シン スンキュン執事: *霊的な経験が始まる。

「イエス様、お願いです、カン、ヒュンジャ夫人やペク、ボンニョ姉妹のように踊ることができるように、あなたの霊で私を力づけて下さい！どうかお願いします！それがとても欲しいです！」

熱心に祈っていると、私の両手が熱くなるのを感じました。

火の玉に触れるようで極端に熱く感じました。

私は前回これを経験しましたが、ほんの短い間のことでした。

しかしながら、今日は私の全身が熱くなって、両手がひとりで高く上がりました。

それは、だれか目に見えない方が手を上げたり下げたりするのを決めているようでした。

私の腕と手がいろんな動きをしてあらゆる方向に動きました。

私の心は豊かな喜びに満たされました。

悔い改めの涙が顔を伝って流れ落ちました。

私の祈りが霊的にさらなる深みへと動いている感じがしました。

私は夜空を飛び回っていました。

私は驚くべき夜に畏敬の念に打たれました。

キム、ジューン: *4 人の守護天使

祈りのラリーの間、イエス様は聖なる賜物と預言の賜物を私に下さいました。

私はイエス様をとっても愛しています。

私が目を閉じて、彼の名前を呼ぶ時にはいつも、即座にご自身が臨在して下さいます。

彼は私のことをニックネームの「ソバカス」で呼ばれます。

「ソバカスよ、何が欲しいの？何か質問は？」

それから、彼は優しく親切に私の質問に答えて下さるのです。

しかしながら、主に変装した汚らわしい邪悪な霊たちが何度も現れるのです。

彼らも、私が頻繁に主を呼んで質問するのを知っているのです。

最初は、主と邪悪な霊たちの区別ができませんでした。

私は何度かだまされました。
しかし、今は、現れる霊たちをテストします。
霊をテストすることによって、主と邪悪な霊の区別ができます。
邪悪な霊たちは彼らの血を流すことができません。
彼らは十字架を負うことができません。
彼らは皆うそつきです。
彼らが現れるときはいつも嘘をつくのですね。
主は、邪悪な霊たちを見破る知恵を私に下さいました。
今では即座に彼らを見破ることができます。

私が物質的な願望、欲張り、またどうしてもよい事などを質問すると、主は私に背を向けて、静まってしまわれます。
私が未熟な若者なので、主は私の理解できる方法で私の質問に答えなければならないのです。
私は主の親切に心から感謝しています。
主は美しい心を持っておられてとても細やかなお方です。
彼は、暖かく、優しく、感傷的です。
彼は全知です。
彼は私たちの心の奥深くにあるものをすべて知っておられます。
時々、イエス様は私を通して両親の何らかの情報を明らかにして下さいます。
外観からは私の両親がどう感じ、どう考えているのか分かりません。
しかしながら、イエス様は彼らだけが知っている、彼らの心深くにある事柄を、私に教えられます。
それを私が両親に伝えたと、彼らはびっくりしていました。
主からのメッセージは彼らを明け渡しと悔い改めに導くのです。

私は私たちの家族の守護天使たちと会話をすることもできます。
私たちの家族は4人ですから、4人の天使たちがいます。
私がその天使たちと話そうとしていると、主が介入されました。
「ソバカスよ、私はあなたの主です。もしあなたが話しをしたいか、なんでも質問したいのなら、私の名を呼んで、私と話しをしなければならないよ。あなたはなんで天使たちと話しをしたがるの？」
主が焼き餅を焼かれると、彼は私を求めておられるわけで、私は嬉しくなってしまう。

冬休みだったので、今回は祈りのラリーのすべてに出席できました。
出席したら、私は熱烈に祈りました。
私は祈るためにピアノのレッスンや他の活動を止めました。
その結果、イエス様は私をたいへん祝福して下さいました。
他方、学校のことが心配でした。
いったん学校が始まると、祈る機会が制限されるのは分かっています。
私がテレビを見たり、コンピュータを動かしたりして以来9カ月たちました。
最初それを止めるのはたいへんでした。
しかしながら、今、私は主との交わりを本当に楽しんでます。
以前、テレビやコンピュータに使っていた時間は、今は祈りや御言葉を学ぶために使っています。
すべての栄光をイエス様にささげます。

*天使たちの翼について

祈りの後、私が家に帰ると、私の家族の守護天使たちが待っていました。
牧師の守護天使には2組の翼が普通ですが、今は3組ありました。
私は主に尋ねました。
「イエス様！あなたは以前、メガチャーチの守護天使の多くには3組の翼があると言われました。
私たちの教会はとても小さいのに、なぜ私たちの牧師の天使には3組の翼があるのですか？」

昨日、この守護天使は2組の翼でした。でも今は3組あります。」

主は答えられました。「多くの牧師は、その務めを開始するに当たって彼らの力を尽くして熱心に祈ります。しかしながら、彼らの教会が成長し始めると、かつてのようには祈らなくなります。これには私は失望して、非常に悲しい思いをしているのです。しかし、キム牧師は何度も熱烈に祈っています。また、神の意志に従って、彼の務めを率えています。だから、私はこの守護天使にはもう1組余計に与えたのです。」

私の母の守護天使には1組しかありません。

キム、ジョゼフ: *霊の目が半分開かれた

今日が私たちの30日間の祈りのラリーの最後の日なので、私は熱烈に祈る用意をしました。

私は献身し、心を尽くして祈るつもりです。

私は右手を上げてハーク、スン兄弟と手をつないで、私たちの指は組み合わされました。

左手を高く空中に上げて、私は異言で祈りました。

目を閉じて祈っていると、だれかが私の左手を握って指と指が組み合わされた感覚がありました。

電気の衝撃が左手から体まで貫きました。

私はびっくりして、いったい何だろうと思いました。

だれかが触れた感じがしました。

だれかが私の手を掴んでいるようで、それは非常に強力でした。

私はまだ祈っているので、目は開けませんでした。

しかし、私はハーク、スン兄弟に尋ねることにしました。

「ハーク、スン兄弟、だれかが僕の左手を握っている感じがするんですけど、だれか分かりますか？ちょっと見て？そして、教えて。」

彼が答えました。

「ジョゼフ兄弟、イエス様が、今、君の手を握っておられるよ。そして、彼は天国に向けて飛ぼうとしておられる。目を開けないで祈り続けるのだ！」

私が祈り続けていると、何か暗い空間を飛んでいる感じがしました。

突然、青い光が現れました。

それが光くらいの速さで私に近づき、私のそばを通り過ぎました。

それから、別の青い光が私のそばを通り過ぎました。大きな青い光でした。

さらに飛び続けていると、無数の星々に遭遇し、それが過ぎ去って行きました。

私は叫びました。

「ワーっ！ 何という凄い光景だ！ これは美しい！」

私の祈りがどんどん深まっていきました。たくさん星が私のそばを通り過ぎていくのを眺めていました。

銀河の星々はとても美しいです。

私は宇宙を突き抜ける宇宙飛行士のような気分でした。

私は、「多分、夢を見ているんだろう」と思いました。

自分を摘(つま)んでみることにしました。

そうです、私の肉体はまだ教会で祈っていました。

しかしながら、自分の体に触ると、私は同時に霊の領域にもいたのです。

私の体が異言で祈っている間に、私は霊的にはハイスピードで飛んでいるのでした。

突然、コインに似た物が私の視界に入ってきました。

丸い物体の一部が何か黒い物質で覆われていました。

それが満月だと分かったのですが、私は食(訳注: 月食、日食などの食)を目撃していたのでした。

食で三日月が起こりました。

月が金色の光で輝いていました。

金色の光がとても明るくて、とても正視できません。

こんな明るさはこれまで一度も経験したことがありません。

その光が振り子のように揺れ動いていました。

それは前後に最大で 120 度くらい揺れていました。
その光が前後に揺れ動くと、虹色の光を放ちました。

私はすぐに思いました。
『ワー！多分、この場所は天国の 12 の真珠の門だ！』
今日は天国を訪問する日かもしれないと思いました。
私はさらに熱烈に祈り始めましたが、なぜだか私の祈りが先へ進みません。
大声で祈っても駄目で、前へ進みませんでした。
前のようなハイスピードでは飛行していません。
虹と色の光を目撃した後、私は停滞気味になりました。
まるで時間が静止しているようでした。

私は非常に近くに来ていたのです。
私はとても不満になりました！
私はそれ以上先に行くことができず、戻って来ました。
私の心は挫折して、空しさを感じました。
私は振り子の中に入って行って別の経験をしたかったのです。
祈りのラリーが終わったのは午前 7 時でした。

***ジョゼフが悪鬼の標的となる。**

私たちの祈りのラリーが終ってから、ハーク、スン兄弟と話しました。
私たちが話している間に、牧師とシン執事がジュンミンを家まで運びました。
ハーク、スン兄弟と私は祈りの時間に私たちの経験について話し合いました。
突然、黒い物が現れて、凄いスピードで私の周りを回り始めました。
その物体が私の周りを飛び回りながら竜巻のように高速回転しました。
その瞬間に、私の周りが暗くなって、目まいがしました。
私は警戒しながら何かを握ろうとしました。
しかし、私はバランスを失いコンクリートの床に倒れて頭をぶつけてしまいました。
私は意識を失いました。
ペク、ボンニョ姉妹と私の母が私の方に走って来ました。
彼らは私の状況を見て驚き心配しました。
後で霊的に目覚めた教会の信者たちを通して、私に何が起きたのかが分かりました。
彼らの説明はみな同じでした。

私は霊的に覚醒されましたが、私の霊性は未熟です。
もう少し長く祈るなら、天国と地獄を訪問していたかもしれないし、預言の賜物も貰ったかも知れないと思いました。
邪悪な霊たちはこれらの事実を知っていました。
私は彼らの攻撃の中心でした。
彼らの目的は私が霊的に完全に目を覚ますのを防ぐことだったのです。
私の倒れるのを目撃した教会のメンバーたちはみな、天使に見せ掛けた悪霊を見た、と言いました。
その悪霊は私のそばをホバリングをしていたのでした。
それが私の回りを高速で回転して、私を床に押し倒したのでした。
私が倒れた後に、その邪悪な霊が他の 2 匹の邪悪な霊たちと一緒に私の頭に入るのを彼らは見ました。
彼らが私の頭痛の原因でした。

教会のメンバーたちの助けで、私は立ち上がることができました。

私は偏頭痛を経験していたのです。
私が覚えていることはみな説明して貰ったことです。
霊的に覚醒したメンバーたちは私のまわりに集まって、悪霊を追い出し始めました。
しかし、彼らの努力にもかかわらず、私の頭痛はどんどんひどくなりました。

みんなは兎に角牧師を待ちました。
私は以前にも他の頭痛を経験したことがありますが、今回の悪霊の関係した偏頭痛はとても耐えられないほどの痛みでした。
私は気が狂うのではないかと思いました。
あまりの痛さに、私は大声で叫びました。
私が痛みで叫んでいると、牧師が到着しました。
牧師は助けを求めて床に倒れている私を見ました。
彼はどうしたのかと私に尋ねました。
教会のメンバーたちは声を揃えて、起こった事を説明しました。
それと知ると牧師は大声で叫びました。
「呪われた邪悪な霊ども、イエスの強力な御名によって縛る。そして、去れ！」
牧師が叫ぶと、すぐに、悪霊たちは金切り声を上げて逃げて行きました。
その後、私は呼吸ができるようになり、落ち着きました。
頭痛が引き始めました。

ペク、ボンニョ姉妹: *牧師は天国で人気者。

私たちが夜通しの祈禱会を終えた後、牧師は早朝まで説教しました。
彼が説いている間、主は牧師の後ろで語られました。
説教の最中に主が言われました。
「ボンニョ、30 日間の祈りのラリーはたいへん楽しかった！ 実に楽しいものだったよ！」
主が私たちのことを思われる時はいつも彼は天で笑ったり、微笑えまないではおれなかったと繰り返し言われました。

主が私たちに言われました。
「天国で私が笑ったり微笑んだりして嬉しそうにしているのを天使たちや聖徒たちが見ているけれど、それがなぜだか彼らも知っているんだよ。」
天使たちと聖徒たちはあらゆる最新のニュースも知りたがっているのです。
聖徒たちは主に圧力をかけて、なぜ主がそんなに上機嫌でおられるのか尋ねてきたのです。

主が言われるには、イエス様の教会のキム・ヨン ドゥー牧師は天国で非常に人気者になっているのだそうです。
牧師が霊的に覚醒したら、すぐに彼は主と共に天国を訪問することができるでしょう。
私は当日まで待つことができません。
牧師は地球上の小さな貧しい教会を監督しているのですが、主は彼の真価を認めておられるのです。
そのことに私は非常に感謝しています。

牧師は私の家族すべてを彼自身と同じに考えてくれています。
彼は敬意と尊厳をもって私たちを扱ってくれます。
牧師は何の見返りも期待せずに私たちに仕えてくれています。
私が地獄を訪問してサタンと戦ったときに、主は私の報酬を増して下さいました。
牧師の報酬と将来の家も増大しました。
事実、彼の家は私のものより大きいです。
私が天国を訪問して、私の未来の家を見る機会があったとき、牧師の家は既に 514 階の高さになっていました。

カン、ヒュンジャ夫人とジューユンの議論で彼らの将来の家のサイズが少し減少しました。
カン、ヒュンジャ夫人の家の高さは 318 階です。議論する前は 319 階でした。
ジューユンの家は 31 階でしたが、カン、ヒュンジャ夫人との議論の後に、彼女の家は 28 階に減少しました。
ジョゼフの家の高さは 22 階で、ハーク、スンの家の高さは 28 階です。
ユーキュンがハーク、スンと頻繁に言い争うので、彼女の家は 20 階から 17 階まで高さが減少しました。
シン スンキュン執事の家の高さは 6 階です。彼女の建物の高さが低いのは良い働きの不足によるものです。
各人は建築中の自分の家のための宝物倉を持っていますが、材料の量はその人のよい働きに依存しています。

シン スンキュン執事の家の建築が中止しました。

私の家の高さは 70 階です。

私たちの兄弟リー・ハーク・ヒー氏の家の高さは 300 階あります。

しかしながら、私に理解できないことが一つありました。

私は尋ねました。

「イエス様、リー・ハーク・ヒー兄弟は日曜日の礼拝に出席するだけです。彼の家はなぜそんなに高いのですか？」

主は答えられました。

「あなたは、リー・ハーク・ヒー兄弟が 70 歳以上であることを既に知っています。そして、彼の年齢にもかかわらず、彼は日曜日の礼拝を一度も欠かしたことはありません。

雪が降ろうが、雨が降ろうが、嵐になろうが、そんなことに関係なく、彼は日曜日の礼拝を一度も逃したことがないので

です。

彼は遠距離をオートバイに乗って来ます。

彼はハークドン市からスークナムドン市まで運転します。

そのうえ、余分のお金があると、彼はそれを教会に捧げます。

こういう理由で彼の家は階数が多いのです。」

私はこの教会の新しいメンバーです。リー・ハーク・ヒーのことはあまり知りません。

彼が教会にどれほど什一献金をされたか知りません。

牧師が説明してくれてから、リー・ハーク・ヒー兄弟のキャラクターが少し分かってきました。

牧師が言ったように、リー・ハーク・ヒー兄弟は 70 歳を超えています。そして、彼は肉体的に制限があります。

彼の年齢だと、健康上の問題があります。

彼の脚の具合が悪くて、歩くことに不安があるのです。

しかしながら、彼のすべての制限に関わらず、彼は忠実に教会に出席して、案内係として役目を果たしてきました。

他のヤングアダルト(訳注:若い成人)たちが私たちの教会に来ては、去って行きました。

彼らが去って行く理由はみな異なっています。

或る人はリバイバルがないから去り、或る人は誘惑に負けて去り、そして、或る人は個人的な理由で去って行きました。

しかしながら、リー・ハーク・ヒー兄弟はどんな環境や試みがあっても、辛抱して滞まった唯一の人です。

彼はいつも牧師を助け、支持してきました。

今日に至るまで、天気がどんなに悪くとも、彼が教会に出席するのを見てきました。

彼は礼拝に遅れたことは一度もありません。

主は私たちの教会の礼拝と奉仕を非常に喜ばしく、満足のいくものであると認めておられます。

地球上にあって、主にとり非常に喜ばしい教会は非常に稀(まれ)です。

主は言われました。多くの牧師たちが自分の情熱と自分のビジョンに基づいて、自分たちのミニストリーをリードしています。

そして、聖書の戒めに基づいたミニストリーをリードしている牧師は非常に少ないのです。

そこで、私たちの牧師についてはどうなのか、主に尋ねなければなりませんでした。

主は言われました。私たちの牧師は主の命令通りに、主の御旨に従って行おうとしている。

主が牧師のことを如何に認識しておられるかを牧師に言うと、彼は非常に感謝していました。

主は、私たちの霊の目を開くことは考えていなかった、と私たちに言われました。

しかし、私たちの忠実な毎日の祈りと、祈りの戦士としての悪鬼たちとの霊的な戦いの後に、私たちは彼の注意を引いたのです。

主は、最初、私たちがいくつかやってみた後で、結局はあきらめるだろうと考えられました。

しかしながら、私たちが止めずに忠実に祈っているのをご覧になって、彼は非常に感動されて、私たちの霊の目を開くことを決められたのです。

彼は、一度に一つ、私たちの霊の目を開き始められました。

主は、私たちが絶え間ない祈りで私たちの体が弱くなっているから、体を大事にするようにと私たちに求められました。

私たちが祈りのラリーを終えたとき、牧師は言いました。

「これから、オールナイトの祈りの奉仕を毎週水曜、金曜、日曜日にします。他の日は、早朝の奉仕だけとします。」

牧師が彼の計画を明らかにすると、主が手を叩いて言われました。

「それは良いプランだ。私はそのプランに同意するよ。私が考えていたプランをどうしてあなたは知ったのですか？」

主は非常に喜ばれました。

私たちは『おお、我が魂よ、賛美せよ』を歌って礼拝しました。

私たちは祈って主に感謝してから、私たちは家路につきました。

カン、ヒュンジャ夫人: *火のバプテスマを経験するときの衝撃的な瞬間

30 日間の私たちの祈りのラリーの結論は私にとって全く不満でした。

私が霊的に覚醒されなかったので、終わるのは心残りがありました。

私はもう数日間引き延ばしてくれるように牧師に願いました。

しかしながら、主は牧師の決定に従うようにと命令されました。

週に少なくとも 3 つの祈禱会があるので、私は安心しました。

引き続いての祈禱会で霊の目が覚醒されることを期待しています。

私は牧師の妻として 10 年以上になります。

私たちのミニストリーの中に、牧師を多くの厳しい試みに陥れてしまうような多くの困難を私が引き起こしました。

私は徹底的に悔い改めなければなりませんでした。

私たちの関係の当初から、牧師と私との信仰に違いがありました。

若者としてさえも、牧師には強く固い信仰がありました。

問題があるといつも、彼は主に祈って信頼しました。

彼は全面的に主に依存していました。

私たちの信仰を比較すると、私の信仰は疑問がいっぱいでして、それが私たちの祈りに現れました。

牧師は主に完全に依存しましたが、家族を養う財力に乏しかったように見えました。

しかしながら、年の経過とともに、私の祈りが強くされ、主を経験することにより、神様が私の夫を愛して忠実なしもべとして評価しておられることが分かってきました。

私の夫に対する神の愛は非常に深いです。

私は、主を喜ばせるほどの長時間、祈ったことはありませんでした。

昨年 7 月に私は多くの規律を課して祈りを始めました。

私が祈りの中で主との多くの時間を過ごしてから、2005 年が輝き始めました。

ミニストリーとは何でしょうか？

牧師の妻の役割は何でしょうか？

私の機能は何でしょうか？

私は自分の質問への答えを見つけようと、よく韓国の祈禱院に行きました。
しかし、私の追求は空虚でした。
1日中、牧師と私はここ、かしこ、と伝道しました。
私たちは夜毎、夜通し祈りました。
私は弱くなって、私の病気が悪くなりました。
私は肺結核にかかって、長い間病氣と戦いました。
私は絶えず薬を服用しました。
しかしながら、私がイエス様に出会ったとき、病気が劇的に癒されました。
現在、私は完全に健康です。

私たちの効果のない貧弱なミニストリーのため、私たちの教会成長のための糸口を見出すことができませんでした。
私たちの教会儀式や型通りの行事は活気がありませんでした。
ある日、主が私たちに特別な機会を与えられました。
私は何時間も祈りましたが、それは実りがないように見えました。
私の祈りは効果がなく答えられませんでした。
私たちのミニストリーは効果がなく、私たちの働きは空しいように見えました。
2005年になって、牧師は私たちの淀んだ状態から抜け出すことに決めました。
私たちの奉仕は礼拝と悔い改めの祈りから始まりました。
その時、牧師は強力な説教を続けました。
それまでは、せいぜい1時間の説教だったのが、今では、2時間から3時間続きます。
2時間、3時間続いても、会衆はさらに求めました。
30日間の祈りのラリーに参加したメンバーたちは、まだ不満を感じていて、それ以上のものを求めました。
私たちの礼拝があらゆる面で長くなっても、彼らの飢え渴きはさらに増し加わりました。
彼らが祈りのラリーに出席したとき、時間の要素はありませんでした。
礼拝は3~4時間続きました。
説教は少なくとも3時間続きました。
日々の祈りは5時間続きました。
牧師の説教は聖霊によって強化され、会衆の心の奥底深く、また霊の中に浸み込んで行きました。
主イエスは、私のホーリーダンスを通して、私が癒しのミニストリーを持つことになる、と言われました。

私がそう言われたとき、特に癒しのミニストリーについて、私は好奇心が強くなって主に尋ねました。
主は例えを用いて親切に説明して下さいました。
ホーリーダンスを通して癒しのミニストリーを実行するためには、得なければならないある霊的なレベルがあります。

例えば、中学校の年少者であるなら、私は適任でなく、把握もできません。
しかしながら、私が大学の2年か3年生であるなら、ホーリーダンスによる癒しのミニストリーを実行するのに適任です。
ペク、ボンニョ姉妹だけが中学1年生のレベルにありました。
しかし、高校1年生に達すると、私たちはより高い位置に達します。そして、少しずつ働き始めることができます。
聖霊の中で踊るのは、練習とか訓練できるものではありません。
自分で作り出すことはできないのです。
主の恵みを通してのみ達成できるものなのです。

キム・ヨン ドゥー牧師: *戻ることのない橋を越える。

主は何回も私たちに警告して言われました。
**「イエス様の教会の祈りの戦士たちは深い霊的な認識を経験しました。
あなた方は通常のクリスチャン生活を送ることは決してない。
あなた方は橋を渡って決して後戻りすることはできません！」**

私は主の特別の介入にとっても感謝しています。
私の脆(もろ)い教会を主の御心に従って導くにはどうすればよいかということに関心がありました。
私に自信はなく、恐れが大でした。
私は教会のメンバーたちが邪悪な霊たちに打ち負かされるのを目撃しました。
私の思考の基盤は無知であり、聖書の知識は非常に制限されていることを認識しました。
無知な思いと知識不足で、私には霊の世界で戦うための用意ができていませんでした。
これがわかったとき、私は非常に恥ずかしい思いをしました。

多くの韓国の牧師たちは自分の哲学に基づく自分の教育方法とミニストリーの方法を用います。
奉仕においては主の臨在のない組織化された宗教において現わされた表面的な聖性が一般的です。
私は組織的な宗教に関わったことに、罪の意識を感じています。
「主の御旨が為されますように」と言うのを聞くとき、私の心はとても恐れ怖いてしまいます。と言いますのは、主が多くの韓国の牧師たちと彼らの集会の状態を私に示されたからです。
私が彼らを裁こうと言うわけではありません。主がこれらの件に対処してくださるのを待っているのです。

主は私が自分では決着させることの出来なかった、今日他の牧師たちも直面している共通するある困難な問題を解決して下さいました。
主は、これらの問題で私たちを助けて、そのすべての完全な解決を私に与えられました。
私たちは、主のために全生涯を送るように選ばれています。
牧師たちと彼らの会衆たちは彼らの働きにしたがって裁かれるでしょう。
彼らの人生、努力、考えがすべて評価されるでしょう。
メガチャーチから小さな教会まで、みな主の前に立つことになります。
その日には、私たちのすべての行いが裁かれるでしょう。

以前、私はよくセミナーに出席したり、新築のビルを自慢する教会の広告を読んだものです。
私はそれを妬(ねた)ましく思っていました。なぜなら、彼らの教会が速やかに建造され、巨大な会衆を収容することができたからです。
彼らは、時々、それがリバイバルのためにそうなったと主張しました。
私は彼らの成功に対して劣等感を覚え、ストレスがたまりました。自分は失敗者だと感じたからです。
しかしながら、最早や、そのことが私を苦しめることはありません。

そのことは、私のミニストリーが受動的で情熱抜きで実行されるということではありません。
たびたび、牧師や聖徒たちは純粋な動機と情熱によって彼らの信仰の歩みを開始します。
しかしながら、時間が経過するに従い、気付かぬ間に、彼らは世の友となります。
このことが主を怒らせます。そして、結局、彼が彼らを裁かれるのです。
(ヤコブ 4:4)「**不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである。**」

人はみな自分の標準に応じて生活を送ります。
私たちの教会の信者の多くが私に言いました。周りの人々は私たちの教会がカルトだと。

典型的な陳述を引用させてください。
「如何なる類の教会が信じて間もない者に異言を言わせるであろうか？
如何なる類の教会が預言し、邪悪な霊たちと戦い、天国と地獄の啓示を受けるであろうか？
人は死後にのみ天国また地獄に行くことができる。恐らく、夢の中で天国と地獄を訪問できるであろう。」

しかし、一度か二度訪問できるだけである。
しかしながら、日常的に天国と地獄に行くことは不可能である。
理解できない！」
彼らは、私の教会のメンバーたちを自分たちの教会に引きずり込もうと試みているのです。

私は大胆に宣言します。
「彼らは正しい。私たちが死んだなら、天国か地獄に行きます。しかし、まだ生きている間に私たちが天国と地獄を経験できるのは、神の全能のパワーによるのです。」
私自身、私の肉親から嘲られ罵られ、神秘主義だと難癖を付けられましたが、私は全く気にかけていません。
天国と私たちの主は大いなるミステリーです。
私たちの指定した祈りのラリーは終わりましたが、私たちは止めることなく祈り続けるつもりでいます。
私が遭遇した神聖な経験は記録してこの本の目的のために要約しました。
私があらゆる経験を記録したならば、1冊の本にとって膨大な情報量となることでしょう。
ですから、他の経験は次の本に記録するつもりです。
主は指定した祈りのラリーの後も、まだ彼の訪問は続き、働いておられます。
主は私たちの毎日の仕事のすべてに介入しておられます。
ハーク、スンとユーキュンは彼らの経験で非常に賢明になりました。

かつて主は私に、天国と地獄に関する本をもっと多く書く機会を私に与えると言われました。
最初の本には、スペース不足で、信じられないような光景をいくつか記録できませんでしたが、主は次の本にそれらの出来事の記録を引き延ばされました。
次の本には、さらに信じられないショッキングな内容が含まれています。
ですから、私は非常に注意深くしています。

第2巻 終わり

翻訳者 東 ftmp2009@gmail.com